

# ◀ シラバス 目次 ▶

## 1. 教養教育科目

科目番号	講義科目名称	ページ数	開講期間	配当年	単位数	科目必選
CD101B	スタートアップセミナー I	P1	前期	1年	1単位	必修
CD101C	スタートアップセミナー I	P2	前期	1年	1単位	必修
CD101D	スタートアップセミナー I	P4	前期	1年	1単位	必修
CD101E	スタートアップセミナー I	P6	前期	1年	1単位	必修
CD101F	スタートアップセミナー I	P8	前期	1年	1単位	必修
CD102B	スタートアップセミナー II	P10	後期	1年	1単位	必修
CD102C	スタートアップセミナー II	P12	後期	1年	1単位	必修
CD102D	スタートアップセミナー II	P14	後期	1年	1単位	必修
CD102E	スタートアップセミナー II	P16	後期	1年	1単位	必修
CD102F	スタートアップセミナー II	P17	後期	1年	1単位	必修
CE101A	総合人間科学	P18	前:工学部、後:D学部	1年	2単位	必修
CE102A	総合社会科学	P20	前:D学部、後:工学部	1年	2単位	必修
CE103A	体育 I	P21	前期	2年	1単位	選択
CE103B	体育 I	P23	前期	2年	2単位	選択
CE104A	体育 II	P24	後期	2年	1単位	選択
CE104B	体育 II	P26	後期	1年	1単位	選択
CE104C	体育 II	P27	後期	2年	1単位	選択
CE105A	福岡地域学	P28	前:D学部、後:工学部	1年	2単位	必修
CE106A	日本国憲法	P30	後期	2年	2単位	選択
CE107A	日本文化と社会	P32	前期	1年	2単位	留学生対象科目(必修)
CE108A	日本事情とビジネス	P33	後期	1年	2単位	留学生対象科目(必修)
CE108B	日本事情とビジネス	P35	後期	1年	2単位	留学生対象科目(必修)
CE301A	地域プロジェクト	P36	集中講義	2年	2単位	選択
CE302A	キャリアプラン I	P37	前期	2年	1単位	必修
CE302B	キャリアプラン I	P39	前期	2年	1単位	必修
CE302C	キャリアプラン I	P40	前期	2年	1単位	必修
CE302D	キャリアプラン I	P42	前期	2年	1単位	必修
CE302E	キャリアプラン I	P44	前期	2年	1単位	必修
CE302F	キャリアプラン I	P46	前期	2年	1単位	必修
CE303A	キャリアプラン II	P48	後期	2年	1単位	必修
CE303B	キャリアプラン II	P50	後期	2年	1単位	必修
CE303C	キャリアプラン II	P51	後期	2年	1単位	必修
CE303D	キャリアプラン II	P53	後期	2年	1単位	必修
CE303E	キャリアプラン II	P55	後期	2年	1単位	必修
CE303F	キャリアプラン II	P57	後期	2年	1単位	必修
CE501A	ものづくりと倫理	P59	前期	3年	2単位	選択
CE502A	キャリアデザイン I	P60	前期	3年	1単位	選択
CE502B	キャリアデザイン I	P62	前期	3年	1単位	選択
CE502C	キャリアデザイン I	P63	前期	3年	1単位	選択
CE502D	キャリアデザイン I	P65	前期	3年	1単位	選択
CE502E	キャリアデザイン I	P66	前期	3年	1単位	選択
CE502F	キャリアデザイン I	P67	前期	3年	1単位	選択
CE503A	キャリアデザイン II	P69	後期	2年	2単位	選択
CE503B	キャリアデザイン II	P71	後期	3年	1単位	選択
CE503C	キャリアデザイン II	P72	後期	3年	1単位	選択
CE503D	キャリアデザイン II	P73	後期	3年	1単位	選択
CE503E	キャリアデザイン II	P74	後期	3年	1単位	選択
CE503F	キャリアデザイン II	P75	後期	3年	1単位	選択
CF101A	経営学概論	P77	前:D学部、後:工学部	1年	2単位	選択
CF102A	情報リテラシー	P78	前期	1年	2単位	選択
CF102C	情報リテラシー	P80	前期	1年	2単位	選択
CF102D	情報リテラシー	P81	前期	1年	2単位	選択
CF102E	情報リテラシー	P83	前期	1年	2単位	選択
CG105A	中国語 I	P85	後期	1年	2単位	選択
CG106A	韓国語 I	P87	後期	1年	2単位	選択
CG107A	日本語 I	P88	前期	1年	2単位	留学生対象科目(必修)
CG108A	日本語 II	P90	後期	1年	2単位	留学生対象科目(必修)
CG109A	日本語演習 I	P92	前期	1年	1単位	留学生対象科目(必修)
CG110A	日本語演習 II	P94	後期	1年	1単位	留学生対象科目(必修)
CG111A	英語 I	P96	前期	1年	2単位	必修
CG111B	英語 I	P98	前期	1年	2単位	必修
CG111C	英語 I	P99	前期	1年	2単位	必修
CG112A	英語 I S	P101	前期	1年	2単位	必修
CG112B	英語 I S	P103	前期	1年	2単位	必修
CG112C	英語 I S	P104	前期	1年	2単位	必修
CG113A	英語 II	P105	後期	1年	2単位	必修
CG113B	英語 II	P107	後期	1年	2単位	必修
CG113C	英語 II	P108	後期	1年	2単位	必修
CG114A	英語 II S	P110	後期	1年	2単位	必修
CG114B	英語 II S	P112	後期	1年	2単位	必修
CG114C	英語 II S	P113	後期	1年	2単位	必修
CG303A	TOEIC II	P115	後期	2年	2単位	選択
CG303B	TOEIC II	P116	後期	2年	2単位	選択

科目番号	講義科目名称	ページ数	開講期間	配当年	単位数	科目必選
CG304A	中国語Ⅱ	P117	前期	2年	2単位	選択
CG305A	韓国語Ⅱ	P119	前期	2年	2単位	選択
CG306A	TOEIC I	P120	前期	2年	2単位	選択
CG306B	TOEIC I	P121	前期	2年	2単位	選択
CG307A	TOEIC I S	P123	前期	2年	2単位	選択
CG307B	TOEIC I S	P124	前期	2年	2単位	選択
CG501A	英会話Ⅰ	P125	前期	3年	2単位	選択
CG502A	英会話Ⅱ	P126	前期	3年	2単位	選択

授業年度	2017	シラバスNo	CD101B
講義科目名称	スタートアップセミナー I		
英文科目名称	startup seminar I		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	必修
担当教員	鷹尾 良行, 吉永 秀之, 瀬々 昌文, 荒巻 森一朗, 坂田 豊, 高橋 雅士		
開講意義目的	大学に入学して、将来の働き方、生き方を自らが考え、どの様に学生生活を組み立てていくかを考える講義である。全ての学科目において、その修得のためには、将来の自身の姿との関係を理解し、学習の動機付けをすることが必要不可欠である。本講義では、そのために考える材料と機会を提示し、学習の成就を目的とする。		
授業計画	<p>1回 ●オリエンテーション ●インターンシップについて ●学生代表選出 前半(60分): 教員紹介・授業の進め方について 自己紹介書記入・インターンシップの案内・説明 後半(30分): 学生代表選出</p> <p>2回 ●生活安全講習 前半(60~90分): 生活安全講習(担当: 行橋警察署、小倉北警察署) 上記終了後、講習内容についての感想文作成</p> <p>3回 ●ボランティア活動及びひまわり駅伝の参加呼びかけ○キャリアゼミ1 前半(10分): ボランティア活動及びひまわり駅伝の参加呼びかけ(担当: 学生代表) 上記終了後、グループ別にキャリアゼミを実施</p> <p>4回 ●学生大会告知 ○キャリアゼミ2 学生大会の告知(担当: 学生代表) グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>5回 ●学生大会について○キャリアゼミ3 前半(30分) 学生大会の資料配布(担当: 学生代表) 上記終了後、グループ別にキャリアゼミを実施</p> <p>6回 ○キャリアゼミ4 グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>7回 ○キャリアゼミ5 グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>8回 ○キャリアゼミ6 グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>9回 ○キャリアゼミ7 グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>10回 ●学生大会の報告 ○キャリアゼミ8 前半(5分) 学生大会の報告を行う。(担当: 学生代表) コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>11回 ●性教育について 性教育の講演会実施(米光先生)(90分) 講演後、講演内容についての感想文作成</p> <p>12回 ●学生大会の報告○キャリアゼミ9 前半(10分): 学生大会の報告(担当: 学生代表) 上記終了後、グループ別にキャリアゼミを実施</p> <p>13回 ○OB訪問 OB訪問、機械グループ関連の卒業生を招き、就職体験談や現在の仕事および社会人としての心構えを聞く</p> <p>14回 ○キャリアゼミ10 グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>15回 ○キャリアゼミ11 1年生前期のふりかえりを行い、グループ別に分かれ個人面談を実施する。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1) 豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。</p> <p>2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p>		
授業の到達目標	<p>自分自身の進路を明確に決定できるようになる。</p> <p>感謝の気持ちを養う。</p>		
指導方法	<p>上記●印付きについては全員で行う。○印についてはグループ別に分かれたキャリアゼミを実施する。</p> <p>個人面談については、各コマの空き時間と正課外の時間で行なう。</p> <p>指導は全教員で行う。</p>		
教科書・参考書	<p>教科書: なし。適宜プリント、資料を配布する。</p> <p>参考書: なし。</p>		
評価方法	<p>授業参加・態度: 50%、感想文: 30%、課題: 20% とする。</p>		
受講上の注意	<p>学生生活を意義あるものにするために、そして、健全な社会人への成長に向けた第一歩的科目である。この時間を有効に活用すること。</p>		
授業外における学習方法	<p>キャリアガイダンスは、自分で自身の人生のあり方を考える授業である。従って、人生の目標を決定し、日々このことに留意して、必要な知識、技術の獲得に努めること。</p>		
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無: あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類: 学生が自身の将来を熟考するアクティブラーニング</p> <p>3. 地域志向科目有無: なし</p> <p>4. 地域志向科目内容: なし</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CD101C
講義科目名称	スタートアップセミナー I		
英文科目名称	Start up seminar I		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	必修
担当教員	川島 健児, 小田 徹, 武村 泰範, 亀井 圭史, 及川 久遠		
開講意義目的	<p>本学のモットー「人を育て技術を拓く」に則り、スタートアップガイダンスの基本的な考え方(「自分の進路に対する不安」、「学生生活を送る上での将来に向けての漠然とした不安」などを解消し、学生各自の将来の夢に向けての考え方を理解し、自らの生き方、働き方を考える機会を提案し、自主的に自分の目標を見出し、自分の判断・戦術によって目標を実現するためにはどうすべきかを学生各自に考えさせ指導する。</p>		
授業計画	<p>1回 ・履修ガイダンス ・学生代表選出、その他 ・スタートアップゼミ 開講意義、目的、講義の進め方および単位認定方法などについてなど。 学生代表選出(4名)。インターンシップについて。 個人面談1:意欲をもって大学生生活がスタートできるように指導する。</p> <p>2回 ・講演会(行橋警察署) 講演:「生活安全講習」 【感想文1】 連絡:学内献血の呼びかけ(学生代表より)</p> <p>3回 ・スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト 個人面談2(大学で学ぶ意義、前半学生):大学で学ぶ意義、授業の受け方等を中心に各学生の特性が伸びるように指導する。 面談以外の学生:漢字検定テスト過去問(3級)</p> <p>4回 ・スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト 個人面談3(大学で学ぶ意義、後半学生):大学で学ぶ意義、授業の受け方等を中心に各学生の特性が伸びるように指導する。 面談以外の学生:漢字検定テスト過去問(3級)</p> <p>5回 ・講演会(小田教授) ・スタートアップゼミ連絡 講演:「本学へ進学した意義について」 普通科と専門科どっちが有利不利?高卒と大卒による経済的効果と人脈的効果の違い等。【感想文2】 連絡:学内献血の説明および呼びかけを行う。(学生代表より)</p> <p>6回 ・スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト 個人面談4(大学生生活、前半学生):日常の状況を聞き取り各学生が目標に向かって前進できるように指導する。 面談以外の学生:漢字検定テスト過去問(3級)</p> <p>7回 ・スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト 個人面談5(大学生生活、後半学生):日常の状況を聞き取り各学生が目標に向かって前進できるように指導する。 面談以外の学生:漢字検定テスト過去問(3級)</p> <p>8回 ・スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト 個人面談6(学習進捗度、前半学生):学業の進捗状況を聞き取り、前期履修科目を習得できるように指導する。 面談以外の学生:漢字検定テスト過去問(3級) 連絡:「私の将来の夢」についてのレポート提出の説明(締切り:第14回まで)</p> <p>9回 ・講演会(京築保健福祉環境事務所) 「ゲートキーパー、薬物依存症について」【感想文3】</p> <p>10回 ・漢字検定 正規テストまたは模擬テスト (実施予定日6/16金、2限) 各自の適切な級で受験(2、準2、3級等)</p> <p>11回 ・講演会(米光先生) 「感染症予防教育」【感想文4】</p> <p>12回 ・講演会(亀井准教授) ・スタートアップゼミ連絡 講演:「私と知能ロボット」 【感想文5】 迷惑メール等について</p> <p>13回 ・スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト 個人面談7(学習進捗度、後半学生):学業の進捗状況を聞き取り、前期履修科目を習得できるように指導する。 面談以外の学生:漢字検定テスト過去問(3級)</p> <p>14回 ・レポート提出日 ・前期を振り返って ・第9回に提示した課題のレポートを提出する。 ・前期を振り返っての講評。前期試験への取り組み方。 ・大学生として初めての夏休みの諸注意(生活面、アルバイト等)。</p> <p>15回 ・まとめ 全員出席。 出席不良者は、個人面談による指導の後、反省文を提出。</p>		

教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	1)豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。 2)創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。
授業の到達目標	・学生として基本的な考え方を身に付けて、大学での活動力やコミュニケーション力向上を高める。 ・自分自身の進路(進学・就職等)を明確に決定できるようになる。 ・「素直な気持ち」、「謝る勇氣」と「感謝の気持ち」を持てる。
指導方法	・担当教員全員で各週を行う。 ・個人面談中の他の学生は漢字検定試験の過去問を行う。また、個人面談は、原則として1名当たり3回/学期とする。 主な面談内容は日程ごとに記載しているが、前期中に下記の項目について話ができるように、随時必要な内容を取り上げる。 (1)学生アンケートに関する面談(趣味、生活態度、アルバイト、将来の夢等) (2)大学生活(授業・下宿等・サークル活動)の悩みや目標など (3)体育祭等の学生行事についての感想 (4)保護者懇談会用資料(前期試験への取り組み、後期への意気)
教科書・参考書	教科書:漢検3級 過去問題集 平成28年版、発行所:財団法人日本漢字能力検定協会 参考書:なし。
評価方法	漢字検定試験等の結果40%+レポート点60%(感想文、協調性、面談態度等を含む)=100%(点)
受講上の注意	遅刻、無断欠席は厳禁。やむを得ない事情があると担当教員が判断した場合にはその限りではないが、必ず届け出る。 漢検や講演など随時日程調整が必要になるので、やむを得ず欠席した場合は最新の日程を確認する。 講演等の急な予定変更に備えて、漢検の過去問は毎回持って来る。 スマートフォンなどのモバイル電子機器は許可のない限り使用は厳禁する。
授業外における学習方法	今までの自分自身の夢(目標)を考え、更なる将来の夢に向けて、大学生活を有意義にするために、今から何をすべきかを自分自身で考え、行動する。そのための自分流の学習方法を考察する。
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目種類: - 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -

授業年度	2017	シラバスNo	CD101D
講義科目名称	スタートアップセミナー I		
英文科目名称	Startup Seminar 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	必修
担当教員	周 国云, 濱本 朋久		
開講意義目的	大学生は、高校生とは異なり、自主的に学ぶことが常に求められる。つまり、「生徒」から「学生」へなることが求められる。学生としてのマナー、授業の受け方、レポートの書き方などの基礎的な学習スキルをしっかりと身に付けることが本講義の目的である。		
授業計画	<p>1回 スタートアップセミナー I とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修ガイダンス; 開講意義・目的, 講義の進め方, 単位認定方法など</li> <li>・スタートアップセミナー I の狙いと内容, グループ分け</li> <li>・大学で学ぶことの意義(概説)</li> <li>・学生代表選出</li> </ul> <p>2回 生活と安全(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活安全講習; 担当 = 警察署(50分程度)</li> <li>・個別面談</li> </ul> <p>3回 大学で学ぶとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶことの意味, 意義; 大学の役割; 学科・系の位置づけ, 役割</li> <li>・大学生の存在意義, 卒業後の社会における役割</li> <li>・大学生・社会人としてのマナー</li> <li>・ボランティア活動参加への呼びかけ</li> </ul> <p>4回 大学生の時にやっておくべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講話; 働くことの意義, 大学生に求められる資質・スキル</li> <li>・レポートの作成と提出; 講話内容をレポートにまとめ, 提出する。</li> <li>・学生大会の告知</li> </ul> <p>5回 授業の受け方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修計画について・ノートの取り方, 諮問の仕方</li> <li>・予習, 復習の仕方</li> <li>・学生大会の告知</li> </ul> <p>6回 レポートの書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートとは</li> <li>・レポートを書く際の留意事項</li> <li>・レポート演習</li> </ul> <p>7回 論文の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文とは</li> <li>・論文を書く際の留意事項</li> <li>・論文演習</li> </ul> <p>8回 データ・資料の集め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・資料の収集方法; 図書館の利用方法</li> <li>・ネット情報の信頼性</li> <li>・正しい引用の仕方; 著作権やコピー&amp;ペーストなど</li> </ul> <p>9回 自己分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI / GAB 模試</li> <li>・自己分析</li> </ul> <p>10回 自分の考えのまとめ方(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境建設系が果たしている社会貢献」に関して, 自分の意見を要約する。</li> <li>・客観的なデータや資料を収集する。</li> <li>・他の学生と意見交換をする。</li> <li>・学生大会の報告(担当: 学生代表)</li> </ul> <p>11回 生活と安全(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性教育, 健康管理; 担当 = 米光先生</li> <li>・個別面談</li> </ul> <p>12回 自分の考えのまとめ方(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見をレポートとしてまとめる。</li> <li>・教員からのアドバイスや他の学生との意見交換を踏まえ, ブラッシュアップする。</li> </ul> <p>13回 自分の考えのまとめ方(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談・自分の意見を発表する。</li> </ul> <p>14回 コミュニケーションの仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの際の留意事項</li> <li>・グループディスカッションとは</li> <li>・模擬グループディスカッション</li> </ul> <p>15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体のまとめ</li> <li>・スタートアップセミナー II について</li> <li>・さらなる基礎スキルアップに向けて</li> <li>・個人面談</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	ディプロマポリシーの「豊かな人間性と倫理観を有し、社会人基礎力に富む技術者として、「人と社会との関わりを幅広く理解できる能力」、「コミュニケーション力を備え、他の人との共同環境において、主体的に振る舞え、状況を判断し協働することができる能力」を修得して課題や目標に取り組むことができる【主体性・協働して学ぶ態度】および「2）工学分野における諸課題・諸問題の解決にあたり、総合的な思考力・判断力に富む技術者として、「機械・電気情報・土木工学の分野に関する横断的な学修の成果や各専門分野の知識を発揮して思考・判断		

授業の到達目標	大学で学ぶことの意義、学生の基本的姿勢を認識し、授業の受け方、レポートの書き方などを確実に理解して、大学生として備えているべき基礎スキルを習得する。
指導方法	2名の教員が共同で担当し、講義を前半に行い、後半は講義内容についてガイダンスごとに分かれて、フリーディスカッション、感想文作成等を行う。レポートとして感想文を提出する。また、随時、面談等を実施し、進路等についての相談を行う。
教科書・参考書	教科書:なし、必要に応じてプリントを配布。 参考書:なし
評価方法	試験 70%、レポート 30%
受講上の注意	限られた時間でレポートを作成すること。
授業外における学習方法	講義終了時に、次回の内容を説明するので、事前に予習をすること。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:－ 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:－

授業年度	2017	シラバスNo	CD101E
講義科目名称	スタートアップセミナー I		
英文科目名称	Startup Seminar 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	必修
担当教員	山縣 宏美, 張 栄, 梶谷 克彦, 成田 樹昭		
開講意義目的	大学生は高校生とは異なり自主的に学ぶことが常に求められる。つまり「生徒」から「学生」へとなることが求められる。学生としてのマナー、授業の受け方、レポートの書き方など基礎的な学習スキルをしっかりと身につけることが本講義の目的である。		
授業計画	<p>1回 スタートアップセミナーとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修ガイダンス; 開講意義・目的, 講義の進め方, 単位認定方法など</li> <li>スタートアップセミナー I の狙いと内容, グループ分け</li> <li>大学で学ぶことの意義(概説)</li> <li>学生代表の選出</li> </ul> <p>2回 生活と安全(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活安全講習</li> <li>担当: 小倉北警察署</li> </ul> <p>3回 大学で学ぶとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学で学ぶことの意味, 意義; 大学の役割; 学科・系の位置づけ, 役割</li> <li>大学人(学生)の存在意義, 卒業後の社会における役割</li> <li>大学生・社会人としてのマナー</li> <li>ひまわり駅伝告知</li> </ul> <p>4回 大学生の時にやっておくべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学生に求められる資質, スキル</li> <li>学生時代に何をやっておくべきか</li> <li>献血の呼びかけ(共済会)</li> </ul> <p>5回 授業の受け方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修計画の立て方</li> <li>ノートの取り方, 質問の仕方</li> <li>予習, 復習の仕方</li> <li>体育祭の告知</li> </ul> <p>6回 レポートの書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートとは</li> <li>レポートを書く際の留意点</li> <li>レポート演習</li> <li>春季学生大会告知・委任状配布回収</li> </ul> <p>7回 論文の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文とは</li> <li>論文を書く際の留意点</li> <li>論文演習</li> </ul> <p>8回 データ・資料の集め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ・資料の収集方法; 図書館の利用方法</li> <li>ネット情報の信頼性</li> <li>正しい引用の仕方; 著作権やコピー&amp;ペーストなど</li> </ul> <p>9回 自己分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SPI/GAB模試</li> <li>自己分析</li> </ul> <p>10回 自分の考えのまとめ方(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「建築が果たしている社会的貢献」に関して, 自分の意見を要約する</li> <li>客観的なデータや資料を収集する</li> <li>他の学生と意見交換する</li> <li>学生大会の報告</li> </ul> <p>11回 自分の考えのまとめ方(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見をレポートとしてまとめる</li> <li>教員からのアドバイスや他の学生との意見交換を踏まえ, ブラッシュアップする</li> </ul> <p>12回 生活と安全(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>性教育, 健康管理について</li> <li>担当: 米光先生</li> </ul> <p>13回 自分の考えのまとめ方(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を発表する</li> <li>改善点をまとめる</li> </ul> <p>14回 コミュニケーションの仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの際の留意点</li> <li>グループディスカッションとは</li> <li>模擬グループディスカッション</li> </ul> <p>15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体のまとめ</li> <li>さらなる基礎スキルアップに向けて</li> <li>個人面談</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し, 倫理観, 社会性に富む技術者, デザイナーとして, コミュニケーション能力を備え, 目標に向かい主体的, 継続的に協働して取り組むことができる。</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力 人間社会における諸問題の原因を追究, 発見し, 工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p>		
授業の到達目標	大学で学ぶことの意義, 学生の基本的姿勢を認識し, 授業の受け方, レポートの書き方などを確実に理解して, 大学生として備えているべき基礎スキルを習得する。		

指導方法	内容に応じて、講義形式あるいはグループによる演習形式で行う。 指導は担当教員が全員で毎回行う。
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:なし
評価方法	授業中の提出物(80%), 授業への参加態度(20%)により評価を行う
受講上の注意	なし
授業外における学習方法	授業中出された課題について、次の週の授業までに完成させ提出すること
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容: -

授業年度	2017	シラバスNo	CD101F
講義科目名称	スタートアップセミナー I		
英文科目名称	Startup Seminar 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	必修
担当教員	野崎 伸一, 宝珠山 徹, 浜地 孝史, 内田 恵里子		
開講意義目的	大学生は、高校生とは異なり、自主的に学ぶことが常に求められる。つまり、「生徒」から「学生」へなることが求められる。学生としてのマナー、授業の受け方、レポートの書き方などの基礎的な学習スキルをしっかりと身に付けることが本講義の目的である。		
授業計画	<p>1回 4/11 スタートアップセミナー I とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修ガイダンス; 開講意義・目的, 講義の進め方, 単位認定方法など</li> <li>・スタートアップセミナー I の狙いと内容・大学で学ぶことの意義(概説) ・学生代表選出 ・個人面談</li> </ul> <p>2回 4/18 生活と安全(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活安全講習; 担当=小倉北警察署 ・ひまわり駅伝告知</li> </ul> <p>3回 4/25 大学で学ぶとは(担当:宝珠山)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶことの意味, 意義; 大学の役割; 学科・系の位置づけ, 役割</li> <li>・大学人(学生)の存在意義, 卒業後の社会における役割</li> <li>・大学生・社会人としてのマナー</li> </ul> <p>4回 5/2 大学生の時にやっておくべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生に求められる資質, スキル</li> <li>・学生時代に何をやっておくべきか</li> </ul> <p>5回 5/9 授業の受け方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修計画の立て方</li> <li>・ノートの取り方, 諮問の仕方</li> <li>・予習, 復習の仕方 ・体育祭告知</li> </ul> <p>6回 5/16 レポートの書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートとは</li> <li>・レポートを書く際の留意事項</li> <li>・レポート演習 ・春季学生大会告知, 委任状配布回収</li> </ul> <p>7回 5/23 論文の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文とは</li> <li>・論文を書く際の留意事項</li> <li>・論文演習</li> </ul> <p>8回 6/6 データ・資料の集め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・資料の収集方法; 図書館の利用方法</li> <li>・ネット情報の信頼性</li> <li>・正しい引用の仕方; 著作権やコピー&amp;ペーストなど</li> </ul> <p>9回 6/13 自己分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己分析 ・自分を知ること</li> </ul> <p>10回 6/20 自分の考えのまとめ方(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会における「情報デザイン」について, 自分の意見を要約する.</li> <li>・客観的なデータや資料を収集する.</li> <li>・他の学生と意見交換をする. ・学生大会の報告</li> </ul> <p>11回 6/27 自分の考えのまとめ方(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見をレポートとしてまとめる.</li> <li>・教員からのアドバイスや他の学生との意見交換を踏まえ, ブラッシュアップする.</li> </ul> <p>12回 7/4 生活と安全(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性教育, 健康管理; 担当=米光先生</li> </ul> <p>13回 7/11 自分の考えのまとめ方(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を発表する.</li> <li>・改善点をまとめる.</li> </ul> <p>14回 7/18 コミュニケーションの仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの際の留意事項</li> <li>・グループディスカッションとは</li> <li>・模擬グループディスカッション</li> </ul> <p>15回 7/25 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体のまとめ</li> <li>・スタートアップセミナー II について</li> <li>・さらなる基礎スキルアップに向けて</li> <li>・個人面談</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1) 人間性豊かでコミュニケーション能力の高いデザイナーや技術者として、主体性を持って他分野の人たちと協働して課題に取り組むことができる。【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>2) 社会的課題を発見し、幅広い知識と柔軟な思考でよりよい社会の実現に向けた解決策を提示することができる。【思考・判断・表現】</p>		
授業の到達目標	大学で学ぶことの意義、学生の基本的姿勢を認識し、授業の受け方、レポートの書き方などを確実に理解して、大学生として備えているべき基礎スキルを習得する。		
指導方法	内容に応じて、講義形式あるいはグループによる演習形式で行う。 指導は担当教員が全員で毎回行う。		
教科書・参考書	<p>教科書:『現代デザイン事典 2017年版』向井 周太郎(監修)、勝井 三雄、田中 一光(平凡社)、『思考の整理学』 外山滋比古(ちくま文庫)</p> <p>参考書:『宇宙船地球号 操縦マニュアル』バックミンスター・フロー、芹沢高志訳(ちくま学芸文庫)</p>		
評価方法	授業中の提出物(80%), 授業への参加態度(20%)により評価を行う		
受講上の注意	なし		
授業外における学習方法	・授業内で指示する		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー
---------------------	---

授業年度	2017	シラバスNo	CD102B
講義科目名称	スタートアップセミナーⅡ		
英文科目名称	startup seminar Ⅱ		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員	鷹尾 良行, 吉永 秀之, 瀬々 昌文, 荒巻 森一郎, 坂田 豊, 高橋 雅士		
開講意義目的	大学に入学して、将来の働き方、生き方を自らが考え、どの様に学生生活を組み立てていくかを考える講義である。全ての学科目において、その修得のためには、将来の自身の姿との関係を理解し、学習の動機付けをすることが必要不可欠である。本講義では、そのために考える材料と機会を提示し、学習の成就を目的とする。		
授業計画	<p>1回 ●オリエンテーション 授業の進め方について ポートフォリオ入力 将来を見据えて前期を終えての反省、後期への抱負をまとめる。</p> <p>2回 ○キャリアゼミ1 グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。(個人面談)</p> <p>3回 ●ボランティア活動への参加呼びかけ○キャリアゼミ2 前半(10分)ボランティア活動への参加呼びかけ(担当:学生代表) 上記終了後、グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>4回 ○キャリアゼミ3 グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>5回 ●学生大会の告知 ○キャリアゼミ4 前半(20分)学生大会の告知を行う。(担当:学生) グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>6回 ●学生大会の告知 ○キャリアゼミ5 前半(20分)学生大会の告知を行う。(担当:学生) グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>7回 ○キャリアゼミ6 グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>8回 ○OB訪問 OB訪問、デジタルエンジニアリング学科(機械設計系の前身)の卒業生を招き、就職体験談や現在の仕事および社会人としての心構えを聞く</p> <p>9回 ○キャリアゼミ7 グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>10回 ○キャリアゼミ8 上記終了後、グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>11回 ●学生大会の報告 ○キャリアゼミ9 前半(5分)学生大会の報告(担当:学生代表) グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>12回 ●学生大会の報告 ○キャリアゼミ10 前半(5分)学生大会の報告(担当:学生代表) 上記終了後、グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。 コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>13回 ○キャリアゼミ11 グループ別に分かれキャリアゼミを実施する。コミュニケーション能力・SPI演習など学生個々の能力向上を目指す。</p> <p>14回 ○キャリアゼミ12 上記終了後、1年を終えての反省、来年への抱負をまとめる。 その後、グループ別に分かれ個人面談を実施</p> <p>15回 ●次年度学生代表選出 ○キャリアゼミ14 前半(20分)次年度の学生代表を選出する。(担当:学生代表) 1年生をふりかえり、総括を行う。 グループ別に分かれ個人面談を実施</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p>		
授業の到達目標	自分自身の進路を明確に決定できるようになる。 感謝の気持ちを養う。		
指導方法	上記●印付きについては全員で行う。●印ナシについてはグループ別に分かれたキャリアゼミを実施する。 個人面談については、各コマの空き時間と正課外の時間で行なう。 指導は全教員で行う。		

教科書・参考書	教科書:なし、適宜プリント、資料を配布する。 参考書:なし。
評価方法	授業参加・態度:50%、感想文:30%、課題:20% とする。
受講上の注意	学生生活を意義あるものにするために、そして、健全な社会人への成長に向けた第一歩的科目である。この時間を有効に活用すること。
授業外における学習方法	キャリアガイダンスは、自分で自身の人生のあり方を考える授業である。従って、人生の目標を決定し、日々このことに留意して、必要な知識、技術の獲得に努めること。
能動的授業科目及び地域志向科目	1.能動的授業科目有無:あり 2.能動的授業科目種類:学生が自身の将来を熟考するアクティブラーニング 3.地域志向科目有無:なし 4.地域志向科目内容:なし

授業年度	2017	シラバスNo	CD102C
講義科目名称	スタートアップセミナーⅡ		
英文科目名称	Start up seminar Ⅱ		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員	川島 健児, 小田 徹, 武村 泰範, 亀井 圭史, 及川 久遠		
開講意義目的	スタートアップセミナーⅠに引き続き、本学のモットー「人を育て技術を拓く」に則り、スタートアップセミナーの基本的な考え方(「自分の進路に対する不安」、「学生生活を送る上での将来に向けての漠然とした不安」などを解消し、学生各自の将来の夢に向けての考え方を理解し、自らの生き方、働き方を考える機会を提案し、自主的に自分の目標を見出し、自分の判断・戦術によって目標を実現するためにはどうすべきかを学生各自に考えさせ指導する。キャリアデザインの基礎固めを行う。		
授業計画	<p>1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修ガイダンス ・大学祭模擬店募集</li> <li>開講目的、講義の進め方、単位認定方法。</li> <li>前期に回答した学生アンケートの変更などを記入。</li> <li>大学祭模擬店募集のアナウンス等 (学生代表より)</li> </ul> <p>2回</p> <p>学修ポートフォリオの入力 前期試験結果を踏まえて、学修ポートフォリオを入力する。</p> <p>3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト</li> <li>個人面談1(後期の学業への取り組み、前半学生): 前期の成績を振り返り、後期での取り組み方を指導する。</li> <li>面談以外の学生: 漢字検定テスト過去問(3級)</li> </ul> <p>4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト</li> <li>個人面談2(後期の学業への取り組み、後半学生): 前期の成績を振り返り、後期での取り組み方を指導する。</li> <li>面談以外の学生: 漢字検定テスト過去問(3級)</li> </ul> <p>5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講演会(米光主査)</li> <li>「禁煙のススメ」(仮題) 【感想文1】</li> </ul> <p>6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト</li> <li>個人面談3(後期の大学生生活、前半学生): 後期の生活状況を聞き取り各学生が目標に向かって前進できるように指導する。</li> <li>面談以外の学生: 漢字検定テスト過去問(3級)</li> </ul> <p>7回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト</li> <li>個人面談4(後期の大学生生活、後半学生): 後期の生活状況を聞き取り各学生が目標に向かって前進できるように指導する。</li> <li>面談以外の学生: 漢字検定テスト過去問(3級)</li> </ul> <p>8回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講演会(武村准教授) ・スタートアップゼミ連絡</li> <li>講演:「工学的倫理について」【感想文2】</li> <li>連絡:「私の将来の夢」についてのレポート提出の説明(締切り:第13回まで)</li> </ul> <p>9回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による講演会</li> <li>講演会(予定:西工大OB) 【感想文3】</li> </ul> <p>10回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト</li> <li>個人面談5(将来について、前半学生): 大学1年を振り返り、将来の目標に向かって有意義に過ごせるように指導する。</li> <li>面談以外の学生: 漢字検定テスト過去問(3級)</li> </ul> <p>11回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップゼミ ・漢字検定 自習テスト</li> <li>個人面談6(将来について、後半学生): 大学1年を振り返り、将来の目標に向かって有意義に過ごせるように指導する。</li> <li>面談以外の学生: 漢字検定テスト過去問(3級)</li> </ul> <p>12回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講演会(及川准教授) ・スタートアップゼミ連絡</li> <li>講演:「教職(数学等)志望者に対する工学系卒業研究等について」【感想文4】</li> <li>連絡:</li> </ul> <p>13回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート提出 ・次年度学生代表選出 ・後期を振り返って</li> <li>第8回に提示した課題のレポートを提出する。</li> <li>次年度学生代表の選出</li> <li>後期試験への取り組み方、春休みの諸注意(生活面、アルバイト等)</li> <li>後期を振り返っての講評</li> </ul> <p>14回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字検定 正規テストまたは模擬テスト</li> <li>各自の適切な級で受験(2、準2、3級等)</li> </ul> <p>15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ</li> <li>全員出席。</li> <li>出席不良者は、個人面談による指導の後、反省文を提出。</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>1)豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生として基本的な考え方を身に付けて、大学での活動力やコミュニケーション力向上を高める。</li> <li>自分自身の進路(進学・就職等)を明確に決定できるようになる。</li> <li>「素直な気持ち」、「謝る勇氣」と「感謝の気持ち」を持てる。</li> </ul>		

指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員全員で各週を行う。</li> <li>・個人面談中の他の学生は漢字検定試験の過去問を行う。また、個人面談は、原則として最低、1名当たり3回/学期とする。</li> </ul> <p>主な面談内容は日程ごとに記載しているが、後期中に下記の項目について話ができるように、随時必要な内容を取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生アンケートに関する面談(趣味、生活態度、アルバイト、将来の夢等)</li> <li>(2) 大学生活(授業・下宿等・サークル活動)の悩みや目標など</li> <li>(3) 大学祭等の学生行事についての感想</li> <li>(4) 前期成績の感想、後期試験への取り組み、2年次への意</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書: 漢検3級 過去問題集 平成28年度版、発行所: 財団法人日本漢字能力検定協会</p> <p>参考書: なし。</p>
評価方法	<p>・漢字検定試験等の結果40%+レポート点60%(感想文、協調性、面談態度等を含む)=100%(点)</p>
受講上の注意	<p>遅刻、無断欠席は厳禁。やむを得ない事情があると担当教員が判断した場合にはその限りではないが、必ず届け出る。</p> <p>漢検や講演など随時日程調整が必要になるので、やむを得ず欠席した場合は最新の日程を確認する。</p> <p>講演等の急な予定変更に備えて、漢検の過去問は毎回持って来る。</p> <p>スマートフォンなどのモバイル電子機器は許可のない限り使用は厳禁する。</p>
授業外における学習方法	<p>今までの自分自身の夢(目標)を考え、更なる将来の夢に向けて、大学生活を有意義にするために、今から何をすべきかを自分自身で考え、行動する。そのための自分流の学習方法を考察する。</p>
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 能動的授業科目有無: なし</li> <li>2. 能動的授業科目種類: -</li> <li>3. 地域志向科目有無: なし</li> <li>4. 地域志向科目内容: -</li> </ol>

授業年度	2017	シラバスNo	CD102D
講義科目名称	スタートアップセミナーⅡ		
英文科目名称	Startup Seminar 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員	周 国云, 濱本 朋久		
開講意義目的	スタートアップセミナーⅠを受けて、基礎学力(SPI)、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高め、自分のキャリアをデザインするための基礎力を身に付けることが本講義の目的である。		
授業計画	<p>1回 スタートアップセミナーⅡとは ・履修ガイダンス:開講意義・目的, 講義の進め方, 単位認定方法など ・スタートアップセミナーⅡの狙いと内容 ・グループ分け→自己紹介</p> <p>2回 学修に関する分析 ・前学期の振り返り; 前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。 ・学修ポートフォリオの確認</p> <p>3回 生活と安全 ・禁煙のススメ; 担当=米光先生</p> <p>4回 大学生の時にやっておくべきこと ・外部講師による講話:働くことの意義, 大学生に求められる資質・スキル ・レポートの作成と提出; 講話内容をレポートにまとめ, 提出する。</p> <p>5回 コミュニケーションスキル(1) ・ブレインストーミングとは ・ブレインストーミングを通して, 意見の抽出と集約を行う。 学生大会の告知(担当: 学生代表)</p> <p>6回 SPI(1) ・SPI 模試 学生大会の告知(担当: 学生代表)</p> <p>7回 キャリアデザイン ・キャリアとは ・キャリアデザイン, キャリアパス, 自己分析</p> <p>8回 プレゼンテーションスキル(1) ・10年後の自分の姿を描き, キャリアパスを想定する。 ・現在, 10年後の状態を表すデータ, 資料を集める。</p> <p>9回 プレゼンテーションスキル(2) ・10年後の自分の姿とキャリアパスをレポートにまとめる。</p> <p>10回 コミュニケーションスキル(2) ・グループディスカッションとは(再確認) ・ディベートとは ・グループディスカッション(1) 学生大会の告知(担当: 学生代表)</p> <p>11回 SPI(2) ・SPI 模試 学生大会の報告(担当: 学生代表)</p> <p>12回 コミュニケーションスキル(3) ・グループディスカッション(2) 学生大会の報告(担当: 学生代表)</p> <p>13回 プレゼンテーションスキル(3) ・プレゼンテーションスキル(2)で作成したレポートをPowerPoint でスライドにする。 ・リハーサル</p> <p>14回 プレゼンテーションスキル(4) ・PowerPoint によるプレゼンテーション</p> <p>15回 まとめ ・全体のまとめ ・キャリアデザインⅠについて ・さらなる基礎スキルアップに向けて 学生代表選出(担当: 学生代表)</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	ディプロマポリシーの「豊かな人間性と倫理観を有し、社会人基礎力に富む技術者として、「人と社会との関わりを幅広く理解できる能力」、「コミュニケーション力を備え、他の人との共同環境において、主体的に振る舞え、状況を判断し協働することができる能力」を修得して課題や目標に取り組むことができる【主体性・協働して学ぶ態度】および「2」工学分野における諸課題・諸問題の解決にあたり、総合的な思考力・判断力に富む技術者として、「機械・電気情報・土木工学の分野に関する横断的な学修の成果や各専門分野の知識を発揮して思考・判断		
授業の到達目標	キャリアを自らデザインするために必要な数的処理能力, コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力を身に付ける。		
指導方法	2名の教員で共同で担当し, 講義を前半に行い, 後半は講義内容についてガイダンスごとに分かれて, フリーディスカッション, 感想文作成等を行う。レポートとして感想文を提出する。また, 随時, 面談等を実施し, 進路等についての相談を行う。		
教科書・参考書	教科書: なし, 必要に応じてプリントを配布 参考書: なし		
評価方法	試験 50%, レポート 50%		
受講上の注意	限られた時間でレポートを作成すること。		

授業外における学習方法	講義終了時に、次回の内容を説明するので、事前に予習をすること。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:－ 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:－

授業年度	2017	シラバスNo	CD102E
講義科目名称	スタートアップセミナーⅡ		
英文科目名称	Startup Seminar 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員	山縣 宏美, 張 栄, 梶谷 克彦, 成田 樹昭		
開講意義目的	スタートアップセミナーⅠを受けて、基礎学力(SPI)、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高め、自分のキャリアをデザインするための基礎力を身に付けることが本講義の目的である。		
授業計画	<p>1回 スタートアップセミナーⅡとは ・履修ガイダンス:開講意義・目的, 講義の進め方, 単位の認定方法など ・スタートアップセミナーⅡの狙いと内容 ・グループ分け→自己紹介</p> <p>2回 学修に関する自己分析 ・前学期の振り返り;前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる ・学修ポートフォリオの入力</p> <p>3回 大学生の時にやっておくべきこと ・外部講師による講話;働くことの意義, 大学生に求められる資質・スキル ・レポートの作成と提出;講話内容をレポートにまとめ, 提出する</p> <p>4回 生活と安全 ・禁煙のススメ;担当=米光先生</p> <p>5回 コミュニケーションスキル(1) ・ブレインストーミングとは ・ブレインストーミングを通して, 意見の抽出と集約を行う</p> <p>6回 SPI対策(1) ・SPI模試</p> <p>7回 キャリアデザイン ・キャリアとは ・キャリアデザイン, キャリアパス, 自己分析</p> <p>8回 プレゼンテーションスキル(1) ・10年後の自分の姿を描き, キャリアパスを想定する ・現在, 10年後の状態を表すデータ, 資料を集める ・学生大会の告知</p> <p>9回 プレゼンテーションスキル(2) ・10年後の自分の姿とキャリアパスをブラッシュアップする ・ブラッシュアップしたものをレポートにまとめる</p> <p>10回 コミュニケーションスキル(2) ・グループディスカッションとは(再確認) ・ディベートとは ・グループディスカッション(1)</p> <p>11回 SPI対策(2) ・SPI模試 ・学生大会の報告</p> <p>12回 コミュニケーションスキル(3) ・グループディスカッション(2)</p> <p>13回 プレゼンテーションスキル(3) ・プレゼンテーションスキル(2)で作成したレポートをPowerPointでスライドにする ・リハーサル</p> <p>14回 プレゼンテーションスキル(4) ・PowerPointによるプレゼンテーション</p> <p>15回 まとめ ・全体のまとめ ・キャリアデザインⅠについて ・さらなる基礎スキルアップに向けて ・次年度学生代表選出</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し, 倫理観, 社会性に富む技術者, デザイナーとして, コミュニケーション能力を備え, 目標に向かい主体的, 継続的に協働して取り組むことができる。</p> <p>2)創意工夫力・問題解決力 人間社会における諸問題の原因を追究, 発見し, 工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p>		
授業の到達目標	キャリアを自らデザインするために必要な数的処理能力, コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力を身に付ける。		
指導方法	内容に応じて, 講義形式, あるいはグループによる演習形式で行う。 指導は担当教員が全員で毎回行う。		
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:なし		
評価方法	授業中の提出物(80%), 授業への参加態度(20%)により評価を行う		
受講上の注意	なし		
授業外における学習方法	授業中出された課題について, 次の週の授業までに完成させ提出すること		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング</p> <p>3. 地域志向科目有無:なし</p> <p>4. 地域志向科目内容:ー</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CD102F
講義科目名称	スタートアップセミナーⅡ		
英文科目名称	Startup Seminar 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員	野崎 伸一, 宝珠山 徹, 竹中 知華子, 内田 恵里子		
開講意義目的	スタートアップセミナーⅠを受けて、大学での学びを通して自分の人生のデザインについて考え、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高め、自分のキャリア(進路)をデザインするための基礎力を身に付けることが本講義の目的である。		
授業計画	<p>1回目 9/29 スタートアップセミナーⅡについて、個人面談(1) ・開講意義・目的、講義の進め方、など ・スタートアップセミナーⅡの目的と内容 ・個人面談(1)</p> <p>2回目 10/6 大学生の時にやっておくべきこと ・大学生に求められる資質、スキル ・学生時代に何をやっておくべきか 担当:内田</p> <p>3回目 10/13 生活と安全 ・生活健康講義:たばこの害について;担当:米光</p> <p>4回目 10/20 キャリアデザイン(1) ・キャリアとは ・キャリアデザイン、キャリアパス、自己分析 担当:内田</p> <p>5回目 10/27 日本文化と体験 ・日本の伝統文化のひとつである「茶道」を体験する ・小倉城庭園でのお茶席体験(立礼席:りゅうれいせき、椅子に腰掛けていただく形式のお茶席)</p> <p>6回目 11/10 大学での学び(1) ・大学で学んでおくべきこと、授業の受け方、ノートの取り方について等 担当:竹中</p> <p>7回目 11/17 キャリアデザイン(2) ・外部講師による特別講義 ・進路選択、人生、仕事、社会について学ぶ 特別講師:遠矢弘毅氏(ユナイテッドビジョンズ代表、Cafe CAUSAオーナー)</p> <p>8回目 11/24 個人面談(2) ・ガイダンス担当教員による個人面談</p> <p>9回目 12/1 大学での学び(2) ・いかに学ぶか、なにを学ぶか 経済学の事例等 担当:竹中</p> <p>10回目 12/8 大学での学び(3) ・いかに学ぶか、なにを学ぶか デザインの事例等 担当:宝珠山</p> <p>11回目 12/15 個人面談(3) ・ガイダンス担当教員による個人面談</p> <p>12回目 12/22 大学での学び(4) ・いかに学ぶか、なにを学ぶか 様々な事例紹介等 担当:宝珠山</p> <p>13回目 1/12 コミュニケーション&amp;プレゼンテーション(1) ・10年後の自分の姿を描き、キャリアパス(人生の進路)を想定する。 ・現在、10年後の状態を表すデータ、資料を集める。</p> <p>14回目 1/19 コミュニケーション&amp;プレゼンテーション(2) ・10年後の自分の姿とキャリアパスをレポートにまとめる。</p> <p>15回目 1/26 まとめ ・全体のまとめ ・キャリアデザインⅠについて ・さらなる学びに向けて</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1) 人間性豊かでコミュニケーション能力の高いデザイナーや技術者として、主体性を持って他分野の人たちと協働して課題に取り組むことができる。【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>2) 社会的課題を発見し、幅広い知識と柔軟な思考でよりよい社会の実現に向けた解決策を提示することができる。【思考・判断・表現】</p>		
授業の到達目標	キャリアを自らデザインするために必要な処理能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。		
指導方法	内容に応じて、講義形式、あるいはグループによる演習形式で行う。		
教科書・参考書	<p>教科書:『現代デザイン事典 2017年版』向井 周太郎(監修)、勝井 三雄、田中 一光(平凡社)、『思考の整理学』外山滋比古(ちくま文庫)</p> <p>参考書:必要に応じて授業中に指示・配布する。</p>		
評価方法	授業への参加態度(60%)、授業中の提出物(40%)により評価を行う		
受講上の注意	大学での4年間をどのように過ごすべきか、人生の土台となるこの時期の経験は、後々まで人生に大きな影響をあたえる。自分の人生の選択と行動の機会として、自覚的能動的に参加すること。		
授業外における学習方法	・授業中に出された課題については、指示にしたがい必ず提出すること。		
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング</p> <p>3. 地域志向科目有無:なし</p> <p>4. 地域志向科目内容:ー</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CE101A
講義科目名称	総合人間科学		
英文科目名称	Human Science		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前:工学部、後:D学部	1年	2単位	必修
担当教員	田代 武博, 山縣 宏美, 藤村 昌憲		
開講意義目的	この科目は、心理学、倫理学、哲学、人間関係論、福祉学、日本文化などの人文科学に関する学問の基礎的内容に触れることによって、幅広い教養を身につけ、将来、自立した社会人・職業人(技術者、デザイナー)となるための資質を育成することを目的とする。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション インロダクション 授業の内容及び方法の説明 心理学とは 山縣担当</p> <p>2回 知覚 人はどのように物事を知覚するのか 山縣担当</p> <p>3回 記憶 人はどのように物事を覚えるのか 山縣担当 [レポート課題提示]</p> <p>4回 思考 人はどのように物事を考えるのか 山縣担当 [レポート提出]</p> <p>5回 性格 私たちはどのような人間か 山縣担当 [レポートについての解説]</p> <p>6回 人間にとっての幸福 社会福祉の根本的発想と今日的な捉え方 心身の健康 藤村担当</p> <p>7回 ウェルビーイングの発想 現代の政策的課題とまちづくり 藤村担当</p> <p>8回 新しい福祉の理念と取組 パーソナルソーシャルサービス 「社会的弱者」という位置づけ方の克服 LGBT 藤村担当 [レポート課題提示]</p> <p>9回 ひとりひとりのニーズに応える集団・社会 高齢者(シニア世代)のニーズ 障がいのある人のニーズ 藤村担当 [レポート提出]</p> <p>10回 これからの「共生社会」 地域福祉と家庭支援 「共生社会」実現の今日的課題 藤村担当 [レポートについての解説]</p> <p>11回 人間はどんな動物か -教育哲学的アプローチ- ・古来の思想家たちの人間論・人間形成論 ・「人間らしさ」とは何か 田代担当</p> <p>12回 人間の出生と成長・発達 -教育人間的アプローチ- ・出生とその後の成長・形成 田代担当</p> <p>13回 時間軸に乗せて人間を捉える -プログレッシヴィズム～生涯発達論- ・時間的経過を視野に入れて捉える人間と他の動物との違い ・現代に生きる私たちの使命と課題 田代担当 [レポート課題提示]</p> <p>14回 文化の創造と発展的継承 -文化論・文化教育学的アプローチ- ・文化や文化財の継承発展(人間の観知と知的財産) ・思想と社会通念の&lt;進化(深化)&gt; 田代担当 [レポート提出]</p> <p>15回 人間のことばとコミュニケーション・出会い -教育文化人類学・実存的教育学- ・「ことば」の意義の広さ、人間の「コミュニケーション」の特徴 ・学んだことを「ものづくり」にどう活かすか(人間理解の要点整理) 田代担当 [レポートについての解説]</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標に対応する科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。【主体性・協働して学ぶ態度】 2)創意工夫力・問題解決力:人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。【思考・判断・表現】		
授業の到達目標	人文諸科学の学問的知見に幅広く触れ、自分自身の専門分野とのかかわりを十分に考えながら基本的教養を身につける。		
指導方法	講義を中心とするが、教養科目としての性格から、適宜、DVD視聴なども行う。 3人の教員によるオムニバス形式で実施し、各教員が5時間ずつを担当する。		
教科書・参考書	教科書:なし。 参考書:授業中に適宜紹介する。 適宜プリントを配布するので、ファイルを用意すること。		
評価方法	授業参加・態度(10%)、レポート(各教員30%ずつ…計90%)をあわせた総合評価。 (「レポート」については、3人の教員から、それぞれ、その要領が指示されるので注意すること)		
受講上の注意	全員必修科目のため、座席指定で授業を行う。 なお、3人の教員の授業分担の順番については初回の授業で説明する。 「オフィスアワー」は、授業時間終了後とする。時間を要する場合は、お互いにとって都合のよいまとまった時間を別途確保する。		
授業外における学習方法	予習よりも復習に重点を置くこと。特に3回行われる「レポート」に備えて講義内容をよく復習しておくこと。		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:－ 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:－
---------------------	--

授業年度	2017	シラバスNo	CE102A
講義科目名称	総合社会科学		
英文科目名称	Social Science		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前:D学部、後:工学部	1年	2単位	必修
担当教員	江本 待子		
開講意義目的	社会の中に生きる以上、どのような人であれ社会に対して無知・無関心であることは大変難しい。自らの属する社会の仕組み・あり様を知り、そのよりよいあり方を考えることは本来だれにとっても重要な問題であるはずである。この講義では、事実と規範の視点から社会をとりまく政治、環境、倫理などに関わる様々な問題を取り扱い、社会現象や社会の構造について理解し、よりよい社会像の形成について説明できるようにすることを目指す。		
授業計画	<p>1回 社会科学とは？ 社会科学の様々な対象・領域、個別の学問分野(社会学、法学…)の関係とその歴史について理解する。</p> <p>2回 人間の行為と社会制度 社会における人間のふるまいと社会制度の関係について理解する。 今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>3回 社会における事実と規範 事実と規範という社会現象・社会問題を考えるための二つの視点の違いについて理解する。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>4回 民主主義とは？ 民主主義の理念である自己統治について理解する。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>5回 自律思想について理解する。 フランスの思想家ルソーや、ドイツの思想家カントの「自律思想」について理解し、自己統治についての理解を深める。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>6回 「人間」と「市民」 フランスの思想家ルソーの『社会契約論』と『エミール』をもとに、「人間」と「市民」の区別を理解する。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>7回 自然法と実定法 伝統的な「自然法」と「実定法」との区別を理解する。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>8回 裁判員制度 専門家である裁判官だけでなく市民が裁判に参加することの意味を、自己統治や実定法の観点から捉えなおす。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>9回 外国人参政権 政治に参加する権利はなぜ外国人に対して認められないのだろう。外国人参政権の問題を通じて、改めて政治参加、自己統治の意味を考える。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>10回 正義と力 統治に関わる「力」と人権問題について理解する。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>11回 人権保護と人道的介入 「自然法」や「実定法」の区別の観点から、また自己統治の観点から、人権保護や人道的介入について考える。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>12回 見知らぬ人々たちへの責任 遠い発展途上国絵の援助、過去の世代の過ち、未来世代への配慮といったものに対する責任について考える。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>13回 差別と平等 積極的差別是正措置(ポジティブ・アクション)の問題から、差別とは何か、そして平等とは何かについて考える。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>14回 労働と社会 労働や労働(勤労)の義務、ベーシック・インカムという考え方を理解し、私たちはなぜ働くのかについて考える。 前回のショート・ライティングの講評。今回の講義内容に関するショート・ライティング提出。</p> <p>15回 期末試験および試験内容の解説 前回のショート・ライティングの講評。期末試験の実施、試験内容の解説。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本講義は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとして、目標に向かい自主的、継続的に取り組むことができる。 2)人間社会における諸問題の原因を追究し、発見し、課題解決に取り組むことができる。		
授業の到達目標	①社会の仕組みやあり様に関する一般的で基礎的な知識を習得し、私たちの社会について自分の言葉で説明することができる。 ②習得した知識と理解をもとに、多角的な視点から私たちが生きている現代社会の問題を分析し、これからの社会のあり方を考えることができる。		
指導方法	主に講義形式。毎講義に講義内容の理解・定着のためのアウトカム・レポートや今日の課題に対して自分の意見を述べるミニ・レポートを書いてもらい、理解と考察を深める。また、課題を設け、意見を求めたりディスカッションをする。		
教科書・参考書	教科書:なし 参考図書:新名・林編著『エシックス・センス—倫理学の目を開け』(ナカニシヤ出版、2013)		
評価方法	期末試験(1回)60%、ショート・ライティング(13回)30%、授業参加・態度10%		
受講上の注意	質問や意見発表、ディスカッションへの参加は積極的におこなうこと。 オフィスアワー:授業終了後に教室にて質問を受け付ける。		
授業外における学習方法	①毎講義終了後、自分の講義ノートを見直し、不明な点や疑問点を確認しながら講義ノートを作成させること。 ②不明な点や疑問点は、自分で調べたり質問したりして明確にしておくこと。 ③毎講義開始前に、前回の講義内容を自分の講義ノートで確認しておくこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	能動的授業科目有無:あり 能動的授業科目種類:アウトカム・レポートやミニ・レポート、ディスカッションのアクティブラーニング 地域志向科目有無:なし 地域志向科目内容:-		

授業年度	2017	シラバスNo	CE103A
講義科目名称	体育 I		
英文科目名称	Physical Education 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位	選択
担当教員	佐藤 茂夫		
開講意義目的	健康であるということは体力の維持・増進はもとより、良い人間関係を保ちながら環境に対して調和した適応力を持ち創造的な活動を行うことが重要となる。受講生が、自ら選択する各種スポーツ種目において適切なルールや実践方法を理解し、楽しみながら体力の維持・増進が図れるような身体活動を考える。また、社会的性格の育成や生涯にわたって自主的な健康生活を営むことのできる基礎を学習する。		
授業計画	<p>第1回 ①ガイダンス 授業計画 成績評価 到達目標等 受講の注意事項</p> <p>第2回 スーパーサッカートの確定作業 安静時心拍数の確認とスーパーサッカート種目の測定と目標値の算出 各自にあった値を確認する。</p> <p>第3回 基礎体力づくり運動とネット型球技①-1 スーパーサッカート実施① 3班に分かれ、ネット型球技(卓球、バドミントン、インディアカ)を実施する。 ①準備からルール理解、基礎的技術の確認を実施する。</p> <p>第4回 基礎体力作りとネット型球技①-2 スーパーサッカート実施② 同じ班で2~4グループに分かれ、4~5名でリーグ戦を実施する。 試合の準備と実施、評価、記録をする。</p> <p>第5回 基礎体力作りとネット型球技①-3 スーパーサッカート実施③ 前回の各グループでのリーグ戦の順位で新たにトーナメント戦を実施する。 試合の準備と実施、評価、記録をする。</p> <p>第6回 基礎体力作りとネット型球技②-1 スーパーサッカート実施④ 種目を変更して(ローテーションして) 3班に分かれ、ネット型球技(卓球、バドミントン、インディアカ)を実施する。 ①準備からルール理解、基礎的技術の確認を実施する。</p> <p>第7回 基礎体力作りとネット型球技②-2 スーパーサッカート実施⑤ 同じ班で2~4グループに分かれ、4~5名でリーグ戦を実施する。 試合の準備と実施、評価、記録をする。</p> <p>第8回 基礎体力作りとネット型球技②-3 スーパーサッカート実施⑥ 前回の各グループでのリーグ戦の順位で新たにトーナメント戦を実施する。 試合の準備と実施、評価、記録をする。</p> <p>第9回 基礎体力作りとネット型球技③-1 スーパーサッカート実施⑦ 種目を変更して(ローテーションして) 3班に分かれ、ネット型球技(卓球、バドミントン、インディアカ)を実施する。 ①準備からルール理解、基礎的技術の確認を実施する。</p> <p>第10回 基礎体力作りとネット型球技③-2 スーパーサッカート実施⑧ 同じ班で2~4グループに分かれ、4~5名でリーグ戦を実施する。 試合の準備と実施、評価、記録をする。</p> <p>第11回 基礎体力作りとネット型球技③-3 スーパーサッカート実施⑨ 回の各グループでのリーグ戦の順位で新たにトーナメント戦を実施する。 試合の準備と実施、評価、記録をする。</p> <p>第12回 基礎体力作りとゴール型球技① スーパーサッカート実施⑩ 2班に分かれ、サッカー(もしくはフットサル)とバスケットボールに分かれ それぞれにチームを編成し練習する。</p> <p>第13回 基礎体力作りとゴール型球技② スーパーサッカート実施⑪ 同じ種目でチームで別れ、トーナメントもしくはリーグ戦を実施する。 試合の準備と実施、評価、記録をする。</p> <p>第14回 基礎体力作りとゴール型球技③ スーパーサッカート実施⑫ 2班を異なる種目に変更して、サッカー(もしくはフットサル)とバスケットボールに分かれ、それぞれのチームを編成し練習する。</p> <p>第15回 基礎体力作りとゴール型球技④ スーパーサッカート実施⑬ 同じ種目でチームで別れ、トーナメントもしくはリーグ戦を実施する。 試合の準備と実施、評価、記録をする。</p>		

教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとして、目標に向かい自主的、継続的に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技における個人的な戦術行動を選択してプレイできる。</li> <li>・仲間と協調して集団的な戦術行動を選択してプレイできる。</li> <li>・健康的な身体活動を理解し、楽しく球技をプレイできる。</li> </ul>
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育授業なので積極的な学生の受講を促す。</li> <li>・受講生とのコミュニケーションをとりながら、安全に楽しく身体活動が出来るよう注意して行う。</li> </ul>
教科書・参考書	・教科書・参考書:特になし。
評価方法	・受講姿勢(70%), 到達目標に対する努力(30%), 受講姿勢(積極性など)(+α)等を総合的に評価する。
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館シューズを必ず用意すること。</li> <li>・安全に身体活動を行えるよう勝手な行動をとらないこと。</li> <li>・その他は開講時に説明する。</li> <li>・オフィスアワー: 授業終了後に質問を受け付ける。</li> <li>・教職関係: 本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教養に関する科目の「体育」区分の必修科目に該当する。</li> </ul>
授業外における学習方法	・特にないが、健康に注意し、実技が出来ない状態にならないように注意して生活する。
能動的授業科目及び 地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的授業科目有無: なし</li> <li>能動的授業科目種類: -</li> <li>・地域志向科目有無: なし</li> <li>地域志向科目内容: -</li> </ul>

授業年度	2017	シラバスNo	CE103B
講義科目名称	体育 I		
英文科目名称	Physical Education 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	長嶺 健		
開講意義目的	健康であるということは体力の維持・増進はもとより、良い人間関係を保ちながら環境に対して調和した適応力を持ち創造的な活動を行うことが重要となる。受講生が、自ら選択する各種スポーツ種目において適切なルールや実践方法を理解し、楽しみながら体力の維持・増進が図れるような身体活動を考える。また、社会的性格の育成や生涯にわたって自主的な健康生活を営むことのできる基礎を学習する。		
授業計画	第1回 ①ガイダンス 授業計画 成績評価 到達目標等 受講の注意事項 第2回① ②ネット型球技 バドミントン ダブルス 第2回② ③ネット型球技 バドミントン ダブルス 第3回① ④ネット型球技 バレーボール 第3回② ⑤ネット型球技 バレーボール 第4回① ⑥ネット型球技 卓球 第4回② ⑦ネット型球技 バドミントン 第5回① ⑧ネット型球技 卓球 第5回② ⑨ネット型球技 バドミントン 第6回① ⑩ゴール型球技 バスケットボール 第6回② ⑪ゴール型球技 バスケットボール 第7回① ⑫ゴール型球技 サッカー またはフットサル 第7回② ⑬ゴール型球技 サッカー またはフットサル 第8回① ⑭ゴール型球技 バスケットボール 第8回② ⑮ゴール型球技 バスケットボール		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとして、目標に向かい自主的、継続的に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)		
授業の到達目標	・球技における個人的な戦術行動を選択してプレイできる。 ・仲間と協調して集団的な戦術行動を選択してプレイできる。 ・健康的な身体活動を理解し、楽しく球技をプレイできる。		
指導方法	・体育授業なので積極的な学生の受講を促す。 ・受講生とのコミュニケーションをとりながら、安全に楽しく身体活動が出来るよう注意して行う。		
教科書・参考書	・教科書・参考書:特になし。		
評価方法	・受講姿勢(70%)、到達目標に対する努力(30%)、受講姿勢(積極性など)(+α)等を総合的に評価する。		
受講上の注意	・体育館シューズ(大学指定)を必ず用意すること。 ・安全に身体活動を行えるよう勝手な行動をとらないこと。 ・その他は開講時に説明する。 ・オフィスアワー:授業終了後に質問を受け付ける。 ・教職関係:本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教養に関する科目の「体育」区分の必修科目に該当する。		
授業外における学習方法	・特にないが、健康に注意し、実技が出来ない状態にならないように注意して生活する。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	・能動的授業科目有無:なし 能動的授業科目種類:－ ・地域志向科目有無:なし 地域志向科目内容:－		

授業年度	2017	シラバスNo	CE104A
講義科目名称	体育Ⅱ		
英文科目名称	Physical Education 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	選択
担当教員	佐藤 茂夫		
開講意義目的	運動・スポーツなどの身体活動を通じてその意義と役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的、精神的、社会的な健康の維持増進や自己管理に関する基礎的な知識の習得や態度を実践と講義を通じて育成する。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 授業計画 成績評価 到達目標等 受講の注意事項 基礎体力作り運動(スーパーサッカイト)</p> <p>第2回 ネット型球技① スーパーサッカイト① バドミントン競技 シングルのリーグ戦実施①</p> <p>第3回 ネット型球技② スーパーサッカイト② バドミントン競技 シングルのリーグ戦実施②</p> <p>第4回 ネット型球技③ スーパーサッカイト③ バドミントン競技 シングルのリーグ戦実施③</p> <p>第5回 ネット型球技④ スーパーサッカイト④ バドミントン競技 シングルのリーグ戦実施④</p> <p>第6回 ネット型球技⑤ スーパーサッカイト⑤ バドミントン競技 ダブルスのリーグ戦実施①</p> <p>第7回 ネット型球技 スーパーサッカイト⑥ バドミントン競技 ダブルスのリーグ戦実施②</p> <p>第8回 ネット型球技 スーパーサッカイト⑦ バドミントン競技 ダブルスのリーグ戦実施③</p> <p>第9回 ネット型球技 スーパーサッカイト⑧ バドミントン競技 バドミントン技能を基に班編成をし、団体戦に備える</p> <p>第10回 ネット型球技 スーパーサッカイト⑨ バドミントン競技 班別団体戦①</p> <p>第11回 ネット型球技 スーパーサッカイト⑩ バドミントン競技 班別団体戦②</p> <p>第12回 ゴール型球技 スーパーサッカイト⑪ バスケットボール競技 班編成実施</p> <p>第13回 ゴール型球技 スーパーサッカイト⑫ バスケットボール競技 班別リーグ戦実施①</p> <p>第14回 ゴール型球技 スーパーサッカイト⑬ バスケットボール競技 班別リーグ戦実施②</p> <p>第15回 ゴール型球技 スーパーサッカイト⑭ バスケットボール競技 班別リーグ戦実施③</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとして、目標に向かい自主的、継続的に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技における個人的な戦術行動を選択してプレイできる。</li> <li>・仲間と協調して集団的な戦術行動を選択してプレイできる。</li> <li>・健康的な身体活動を理解し、楽しく球技をプレイできる。</li> </ul>		

指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育授業なので積極的な学生の受講を促す。</li> <li>・受講生とのコミュニケーションをとりながら、安全に楽しく身体活動が出来るよう注意して行う。</li> </ul>
教科書・参考書	・教科書・参考書:特になし。
評価方法	・受講姿勢(70%),到達目標に対する努力(30%),受講姿勢(積極性など)(+α)等を総合的に評価する。
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館シューズを必ず用意すること。</li> <li>・安全に身体活動を行えるよう勝手な行動をとらないこと。</li> <li>・その他は開講時に説明する。</li> <li>・オフシアワー:授業終了後に質問を受け付ける。</li> <li>・教職関係:本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教養に関する科目の「体育」区分の必修科目に該当する。</li> </ul>
授業外における学習方法	・特にないが、健康に注意し、実技が出来ない状態にならないように注意して生活する。
能動的授業科目及び地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的授業科目有無:なし</li> <li>・能動的授業科目種類:ー</li> <li>・地域志向科目有無:なし</li> <li>・地域志向科目内容:ー</li> </ul>

授業年度	2017	シラバスNo	CE104B
講義科目名称	体育Ⅱ		
英文科目名称	Physical Education 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	選択
担当教員	長嶺 健		
開講意義目的	運動・スポーツなどの身体活動を通じてその意義と役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的、精神的、社会的な健康の維持増進や自己管理に関する基礎的な知識の習得や態度を実技と講義を通じて育成する。		
授業計画	<p>第1回 ①ガイダンス 授業計画 成績評価 到達目標等 受講の注意事項</p> <p>第2回① ②ネット型球技 バドミントン ダブルス</p> <p>第2回② ③ネット型球技 バドミントン ダブルス</p> <p>第3回① ④ネット型球技 バレーボール</p> <p>第3回② ⑤ネット型球技 バレーボール</p> <p>第4回① ⑥ネット型球技 卓球</p> <p>第4回② ⑦ネット型球技 バドミントン</p> <p>第5回① ⑧ネット型球技 卓球</p> <p>第5回② ⑨ネット型球技 バドミントン</p> <p>第6回① ⑩ゴール型球技 バスケットボール</p> <p>第6回② ⑪ゴール型球技 バスケットボール</p> <p>第7回① ⑫ゴール型球技 サッカー またはフットサル</p> <p>第7回② ⑬ゴール型球技 サッカー またはフットサル</p> <p>第8回① ⑭ゴール型球技 バスケットボール</p> <p>第8回② ⑮ゴール型球技 バスケットボール</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとして、目標に向かい自主的、継続的に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技における個人的な戦術行動を選択してプレイできる。</li> <li>・仲間と協調して集団的な戦術行動を選択してプレイできる。</li> <li>・健康的な身体活動を理解し、楽しく球技をプレイできる。</li> </ul>		
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育授業なので積極的な学生の受講を促す。</li> <li>・受講生とのコミュニケーションをとりながら、安全に楽しく身体活動が出来るよう注意して行う。</li> </ul>		
教科書・参考書	・教科書・参考書: 特になし。		
評価方法	・受講姿勢(70%)、到達目標に対する努力(30%)、受講姿勢(積極性など)(+α)等を総合的に評価する。		
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館シューズ(大学指定)を必ず用意すること。</li> <li>・安全に身体活動を行えるよう勝手な行動をとらないこと。</li> <li>・その他は開講時に説明する。</li> <li>・オフィスアワー: 授業終了後に質問を受け付ける。</li> <li>・教職関係: 本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教養に関する科目の「体育」区分の必修科目に該当する。</li> </ul>		
授業外における学習方法	・特にないが、健康に注意し、実技が出来ない状態にならないように注意して生活する。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的授業科目有無: なし</li> <li>・能動的授業科目種類: ー</li> <li>・地域志向科目有無: なし</li> <li>・地域志向科目内容: ー</li> </ul>		

授業年度	2017	シラバスNo	CE104C
講義科目名称	体育Ⅱ		
英文科目名称	Physical Education 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	選択
担当教員	島屋 八生		
開講意義目的	運動・スポーツなどの身体活動を通じてその意義と役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的、精神的、社会的な健康の維持増進や自己管理に関する基礎的な知識の習得や態度を実技と講義を通じて育成する。		
授業計画	<p>第1回 ①ガイダンス 授業計画 成績評価 到達目標等 受講の注意事項</p> <p>第2回① ②ネット型球技 バドミントン ダブルス</p> <p>第2回② ③ネット型球技 バドミントン ダブルス</p> <p>第3回① ④ネット型球技 バレーボール</p> <p>第3回② ⑤ネット型球技 バレーボール</p> <p>第4回① ⑥ネット型球技 卓球</p> <p>第4回② ⑦ネット型球技 バドミントン</p> <p>第5回① ⑧ネット型球技 卓球</p> <p>第5回② ⑨ネット型球技 バドミントン</p> <p>第6回① ⑩ゴール型球技 バスケットボール</p> <p>第6回② ⑪ゴール型球技 バスケットボール</p> <p>第7回① ⑫ゴール型球技 サッカー またはフットサル</p> <p>第7回② ⑬ゴール型球技 サッカー またはフットサル</p> <p>第8回① ⑭ゴール型球技 バスケットボール</p> <p>第8回② ⑮ゴール型球技 バスケットボール</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとして、目標に向かい自主的、継続的に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技における個人的な戦術行動を選択してプレイできる。</li> <li>・仲間と協調して集団的な戦術行動を選択してプレイできる。</li> <li>・健康的な身体活動を理解し、楽しく球技をプレイできる。</li> </ul>		
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育授業なので積極的な学生の受講を促す。</li> <li>・受講生とのコミュニケーションをとりながら、安全に楽しく身体活動が出来るよう注意して行う。</li> </ul>		
教科書・参考書	・教科書・参考書: 特になし。		
評価方法	・受講姿勢(70%)、到達目標に対する努力(30%)、受講姿勢(積極性など)(+α)等を総合的に評価する。		
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館シューズ(大学指定)を必ず用意すること。</li> <li>・安全に身体活動を行えるよう勝手な行動をとらないこと。</li> <li>・その他は開講時に説明する。</li> <li>・オフィスアワー: 授業終了後に質問を受け付ける。</li> <li>・教職関係: 本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教養に関する科目の「体育」区分の必修科目に該当する。</li> </ul>		
授業外における学習方法	・特にないが、健康に注意し、実技が出来ない状態にならないように注意して生活する。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的授業科目有無: なし</li> <li>・能動的授業科目種類: ー</li> <li>・地域志向科目有無: なし</li> <li>・地域志向科目内容: ー</li> </ul>		

授業年度	2017	シラバスNo	CE105A
講義科目名称	福岡地域学		
英文科目名称	Regional Studies of Fukuoka Prefecture		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前:D学部、後:工学部	1年	2単位	必修
担当教員	河野 雅也, 竜口 隆三, 菊池 満		
開講意義目的	工学部が立地する苅田町, デザイン学部が立地する北九州市を含む福岡県について, 現状や歴史などを正しく認識し, 福岡県や県内各地域が抱える諸問題を理解した上で, 大学人としていかに地域の発展に寄与できるかについて学ぶことを目的として講義を行う。		
授業計画	<p>1回 福岡地域学とは ・履修ガイダンス; 開講意義・目的, 講義の進め方, 単位認定方法など ・福岡地域学とは ・福岡地域学の狙いと内容, 地域と大学 [担当: 河野]</p> <p>2回 福岡県の歴史(1) ・江戸時代まで ・明治 ・大正 [担当: 菊池]</p> <p>3回 福岡県の歴史(2) ・昭和 ・平成 [担当: 菊池]</p> <p>4回 福岡県の文化(1) ・福岡県の伝統芸能 ・福岡県の文化 [担当: 菊池]</p> <p>5回 福岡県の文化(2) ・福岡県の文化遺産 [担当: 菊池]</p> <p>6回 福岡県の文化(3) ・福岡県の産業遺産 [担当: 菊池]</p> <p>7回 福岡県の自然と環境 ・福岡県の自然 ・福岡県の環境 ・福岡県の地域資源 [担当: 竜口]</p> <p>8回 福岡県の観光と交通 ・福岡県の観光 ・福岡県の交通 [担当: 竜口]</p> <p>9回 福岡県の産業(1) ・福岡県の産業構造 ・福岡県の農林水産業 [担当: 竜口]</p> <p>10回 福岡県の産業(2) ・福岡県の工業(重工業: 製鉄, 自動車他); 日本を代表する企業 [担当: 竜口]</p> <p>11回 福岡県の産業(3) ・福岡県の商業 [担当: 竜口]</p> <p>12回 福岡県総合計画 ・福岡県の現状 ・福岡県の課題 ・福岡県の主な取り組み [担当: 河野]</p> <p>13回 福岡県の望ましい姿(1) ・課題の抽出と整理 ・課題解決の方針 ・課題解決に必要なデータ, 資料 [担当: 河野]</p> <p>14回 福岡県の望ましい姿(2) ・課題解決の検討 ・課題解決のF/S ・期待される効果 [担当: 河野]</p> <p>15回 まとめ ・課題解決の発表 ・全体のまとめ ・今後の学習に向けて [担当: 河野]</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は, 以下の教育目標との対応科目である.</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力 ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる.</p> <p>4) 実務型技術者としての実践力 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し, システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる.</p>		

授業の到達目標	大学人として福岡県の発展に寄与するために、福岡県の現状、地理、歴史、産業などを正しく理解するとともに、地域発展策に関する提案が行える。
指導方法	本科目は、オムニバス形式で授業を実施し、授業計画に回ごとに担当教員名を記載する。 前半は、配付資料にもとづく座学が中心であるが、後半は、問題解決のためのグループワークが中心となる。
教科書・参考書	教科書:なし、参考書:なし 適宜資料を配付する。
評価方法	講義内容に関わる複数回のレポート(30%)、プレゼンテーション(30%)および期末試験(40%)で成績を評価する。
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河野のオフィスアワー:工学部 M309研究室, デザイン学部 1002研究室;在室時であればいつでも訪問可。 (※)質問等については, email: mkawano@nishitech.ac.jp でも受け付ける。</li> <li>・菊池, 竜口のオフィスアワー:授業終了後に教室にて質問を受け付ける。</li> <li>・交通機関の遅れなどの理由がない限り, 授業開始後10分以上の遅刻は欠席扱いとする。また, 無断で途中退出した場合も欠席扱いとする。</li> <li>・学習態度が良好で, かつすべてのレポートが受理された者のみに定期試験の受験資格を与える。</li> </ul>
授業外における学習方法	授業計画に記載している内容についてテーマや事前配付資料等をもとに調べておくとともに、前回の講義内容を復習した上で、講義に臨むこと。また、新聞やネットニュース等で、福岡県に関する最近の動向を把握しておくこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的授業科目有無:あり</li> <li>・能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング</li> <li>・地域志向科目有無:あり</li> <li>・地域志向科目内容:福岡県が抱える問題点を踏まえ、その望ましい姿を描く作業を行う。</li> </ul>

授業年度	2017	シラバスNo	CE106A
講義科目名称	日本国憲法		
英文科目名称	Constitution of Japan		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	山脇 直祐		
開講意義目的	<p>そもそも「憲法」とはあらゆる集団に存在する基本ルールをさし、「日本国憲法」はわが国の考え方や仕組みを定めたものである。それは私たちが生きる日本それ自体の枠組みを決定し保障しており、社会生活の秩序と政府機関を作りあげデザインした技術でもある。したがって工業技術やデザインを学ぶ学生諸君が社会人となるにあたって、また教員として教壇に立つにあたって踏まえてほしい知恵が詰まっています。</p>		
授業計画	<p>1回 講義ガイダンス/憲法総論/人権概論 本講義の運営及び進行、対象となる「憲法」の意義を提示し、「日本国憲法」が保障する人権の全体像を概説する。 (教科書:第1章・第7章・第8章相当)</p> <p>2回 人権総論～人権保護の対象とその限界～ 日本国憲法における人権とその保障はどこまで及ぶか、また及ばないのかについて、学説・裁判例をもとに講ずる。 (教科書:第8章・第9章相当)</p> <p>3回 人権各論～幸福追求権/平等権～ 包括的基本権(幸福追求権)/平等権の意義と範囲について、学説・裁判例をもとに講ずる。 (教科書:第15章相当)</p> <p>4回 人権各論～思想・良心・信教・学問の自由～ 精神的自由権のうち、思想・良心の自由/信教の自由/学問の自由の意義と範囲について、学説・裁判例をもとに講ずる。 (教科書:第10章相当)</p> <p>5回 人権各論～表現・集会の自由と通信の秘密～ 精神的自由権のうち、表現の自由/集会・結社の自由/通信の秘密の保障について、学説・裁判例をもとに講ずる。 (教科書:第11章相当)</p> <p>6回 人権各論～経済的自由権～ 経済的自由権(職業選択・居住・移転・外国移住・国籍離脱の自由/財産権)の意義と範囲について、学説・裁判例をもとに講ずる。 (教科書:第12章相当)</p> <p>7回 人権各論～人身の自由～ 人身の自由(奴隷的拘束・苦役からの自由/適正手続/被疑者・被告人の権利/拷問・残虐刑の禁止)の意義と範囲を学説・裁判例から講ずる。 (教科書:第13章相当)</p> <p>8回 人権各論～社会権～ 社会権(生存権/教育を受ける権利/勤労の権利/労働基本権)の意義と範囲を学説・裁判例から講ずる。 (教科書:第14章相当)</p> <p>9回 人権各論～請求権/参政権/三大義務～ 請求権(請願権/裁判を受ける権利/国家賠償請求権/刑事補償請求権)/参政権のほか、三大義務の意義と範囲を学説・裁判例から講ずる。 (教科書:第2章相当)</p> <p>10回 統治機構総論/国会の地位・組織・活動 「日本国憲法」による基本的人権の保障を前提とした統治機構の全体像を示し、とくに国会の地位・組織・活動について講ずる。 (教科書:第3章相当)</p> <p>11回 国会・両議院の権能 「日本国憲法」による基本的人権の保障を前提とした国会の全体像を示し、また国会を構成する衆参両議院個々の働きについて講ずる。 (教科書:第3章相当)</p> <p>12回 内閣 「日本国憲法」による基本的人権の保障を前提とした内閣の働きについて講ずる。 (教科書:第4章相当)</p> <p>13回 裁判所 「日本国憲法」による基本的人権の保障を前提とした裁判所の働きについて講ずる。 (教科書:第5章相当)</p> <p>14回 違憲立法審査制/地方自治 基本的人権の保証を前提とした「日本国憲法」による国家体制を支える諸制度について講ずる。 (教科書:第5章相当)</p> <p>15回 天皇制/憲法の効力とその限界 「日本国憲法」の効力が及ぶ範囲についてその限界を中心に講ずる。 (教科書:第6章相当)</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、 目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。</p>		
授業の到達目標	<p>1)社会問題の克服に際し要求されることの多い、比較考量を伴うリーガルマインドに慣れる。 2)わが国の理念と社会システムを理解する。 3)法令を解釈し、より適切に対応する能力を習得する。 4)社会通念や法令を踏まえつつ、より積極的かつ能動的に社会参加できるようになる。</p>		
指導方法	知識の定着と活用を図るため、事前学習を前提とし、板書中心の講義形式で進めて極小テスト・定期試験を行う。		
教科書・参考書	<p>教科書:駒村圭吾編『プレステップ17 憲法』弘文堂2014年 参考書:小室直樹『痛快!憲法学—Amazing study of constitutions &amp; democracy』集英社インターナショナル2001年</p>		

評価方法	<p>定期試験(1回)/小テスト(15回)/授業参加・態度により評価する。          なお、試験などの出題とその評価にあたっては通説・有力説・多数説・少数説の別ではなく、回答にあたっての根拠づけや明晰さをより重視する。          また、授業参加・態度については平素の成績を総合して評価し、講義内外の参加姿勢、学内外での就学姿勢を加減点する。          評価の比率は、定期試験60%/小テスト30%(2%×15)/授業参加・態度10%とする。</p>
受講上の注意	<p>教職関係:本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教養に関する科目の「日本国憲法」区分の          必修科目に該当する。          オフィスアワー:原則として、授業終了後に教室にて質問を受け付ける。          ※不明点についての質問や提案を躊躇しないこと。</p> <p>1) 講義各回は事前学習を前提として実施するため、教科書の該当する章に目を通しておくこと。          2) 知識の定着のため、講義各回は板書にて行うのでノートを重視し整理してつけること。          3) 講義各回の最後には評価に含</p>
授業外における学習方法	<p>1) 講義各回の最後に極小テストを実施するため、授業計画に授業回ごと事前に予習しておく内容を記載しているので確認されたい。          教科書で該当する章を通読、とくに各章冒頭の議論について考えておいてください。          2) 講義各回の極小テストと定期試験を中心に評価するため、講義各回のあとは教科書で該当する章及びノートより復習されたい。          3) 予習にあたっては細部より論点、復習にあたっては極小テストで扱った事項を意識してください。          4) 小テスト平常点と定期試験を総合し評価するため、単位取得が途中で危うくなった場合は講義外で</p>
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:あり          2. 能動的授業科目種類:事前学習にもとづくアクティブラーニング(PBL)          3. 地域志向科目有無:なし          4. 地域志向科目内容:—</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CE107A
講義科目名称	日本文化と社会		
英文科目名称	Japanese Culture and Society		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	留学生対象科目(必修)
担当教員	一木 達彦		
開講意義目的	この授業は、外国人留学生に対して、日本の生活文化、伝統文化について具体的に講義するものである。日本社会の中の様々な特徴について学ぶことで、留学生の皆さんに日本の姿について理解し、自文化と比較して考えてもらうことを目的とする。		
授業計画	<p>第1回 インタロダクション／日本の住宅事情 授業の全体の概要を説明する。 日本の住宅事情について、配布する課題をおこなう。 日本の住宅事情について、自分の文化と比較して違いをとらえる。</p> <p>第2回 結婚と女性の社会進出 結婚と女性の社会進出について、配布する課題をおこなう。 結婚と女性の社会進出について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第3回 高齢化社会 高齢化問題について、配布する課題をおこなう。 高齢化問題について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第4回 日本料理 日本料理について、配布する課題をおこなう。 料理について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第5回 平等社会と中流意識 平等社会や中流意識について、配布する課題をおこなう。 平等社会や中流意識について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第6回 教育 教育の状況について、配布する課題をおこなう。 教育の状況について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第7回 伝統芸術 日本の伝統芸術について、配布する課題をおこなう。 伝統芸術について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第8回 日本的経営 日本の会社経営について、配布する課題をおこなう。 日本の会社経営について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第9回 日本人の労働観 労働観について、配布する課題をおこなう。 労働観について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第10回 集団意識と肩書き 集団意識と肩書きについて、配布する課題をおこなう。 集団意識と肩書きについて、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第11回 社会保障と社会参加活動 社会保障と社会参加活動について、配布する課題をおこなう。 社会保障と社会参加活動について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第12回 年中行事 年中行事について、配布する課題をおこなう。 年中行事について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第13回 政治のしくみ 日本の政治のしくみについて、配布する課題をおこなう。 日本の政治のしくみについて、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第14回 日本の歴史1 日本の歴史について、配布する課題をおこなう。 日本の歴史について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p> <p>第15回 日本の歴史2 日本の歴史について、配布する課題をおこなう。 日本の歴史について、自分の文化と比較する発表をして違いをとらえる。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	日本の現代社会や文化を理解し、自文化と対比して、日本で生活する基礎知識を作る。 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとして、目標に向かい自主的、継続的に取り組むことができる。		
授業の到達目標	1. 日本での生活には日本語理解能力が必須であるので、日本語の能力をしっかりと身につける。 2. 日本での生活を送る上で、日本人が持っている考え方を理解し、また自分の文化との違いを把握して双方の文化を尊重できるようにする。		
指導方法	配布資料やDVD等を通して学習する。 授業中には学んだ日本文化と学生の皆さんの文化とがどのように異なるか、学生に発表してもらう。		
教科書・参考書	無し。授業資料は授業中に配布する。		
評価方法	授業中の発表と受講態度(20パーセント)、確認テスト(30パーセント)、定期試験(50パーセント)で評価する。		
受講上の注意	授業中の私語や、携帯電話を扱うことは禁止する。 他学生の受講を妨げる場合は、退室を命ずることもある。 また座席指定にする可能性もある。		
授業外における学習方法	授業時に毎回課題を配布するので、課題はきちんと行ってから授業に臨むこと。 また、日本のテレビでのニュースや新聞、ドラマや映画等に注意しておくこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	【能動的授業の種類】無 【地域課題解決目的】無		

授業年度	2017	シラバスNo	CE108A
講義科目名称	日本事情とビジネス		
英文科目名称	Japanese Society & Business		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	留学生対象科目(必修)
担当教員	皆川 重男		

開講意義目的	留学生を対象に、留学目的を達成するのに必要な現在の日本の社会状況、自然環境、生活習慣、国民性等に関する知識と日本の経済状況、企業経営活動、ビジネス慣習等を説明する。同時に、語学としての日本語を会話だけでなく、生活・ビジネスの様々なシチュエーションで活用できる、いわばビジネス日本語としても講義する。知識欲の旺盛な留学生の現代日本の状況に関する知識欲求に応じるための授業でありたい。		
授業計画	1回	講義の内容とスケジュール ~オリエンテーションとして~ 日本事情とビジネスの開講意義と授業目的、講義の進め方、スケジュールを確認し予習・復習の方法、などについて説明する。	
	2回	日本の季節(きせつ) 日本の四季を理解し、挨拶に取り入れる。 ①桜(さくら)前線(ぜんせん) ②入梅(にゅうばい) ③真夏日(まなつび) ④台風 ⑤秋晴れ	
	3回	年中行事(1) 日本の年中行事を理解し積極的に参加する ①お正月 ②成人の日 ③ひな祭り ④入学式 ⑤子供の日・端午の節句	
	4回	年中行事(2) ⑥七夕(たなばた) ⑦七五三 ⑧紅葉狩り ⑨師走の行事	
	5回	日本人の社会と生活(1) 日本の社会を構成している事柄と日本人の生活との関連をを理解する。 ①タテ社会 ②「恥」の文化 ③中流意識とワーキングプア ④年功序列	
	6回	日本人の社会と生活(2) ⑤学歴偏重社会 ⑥勤務時間と休暇 ⑦単身赴任 ⑧日本の宗教 ⑨男女雇用機会均等法 ⑩日本人の結婚	
	7回	安全・確実な日本の社会 「急速に経済が成長し、しかも信頼できる社会を作り出した秘密は何ですか」こんな質問に答えられる日本人は少ないでしょう。日本人にとって、電車が時間通りに来ること、公衆電話がほとんど壊れていないこと、道路が整備され補修されていることは、当たり前のことのですから。社会を維持していく国民性について説明する	
	8回	日本の文化を探る 伝統的な日本の文化にふれ体験する ①ひらがなとカタカナ ②生け花 ③茶の湯 ④盆栽 ⑤能と歌舞伎	
	9回	日本と諸外国の企業を比較してビジネスを知ろう (1)企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility) 企業活動を社会的公正性や環境保全等の観点から制御し、利益の追求だけでなく、さまざまな社会的側面(法令の遵守、人権擁護、労働環境、消費者保護等)、環境的な側面においても成果を高め、企業の利害関係者(ステークホルダー)をに対しても責任を果たすべきだとする理念として解説。	
	10回	(2)環境経営(eco management) 企業の社会的責任の一つとして、M&A、技術・新製品開発、一般投資・設備投資など企業経営のあらゆる活動において自然環境との共生の思想を貫くこと。 これらの考え方を理解する前提として、企業と経営について理解する	
	11回	(3)組織の中の個人 企業だけでなく社会の様々な組織において、最も重要なのは「人的資源」である。人によって構成される「組織のメカニズム」を様々な視点から理解できるようにする。より高い成果・効率を生み出すための「人と組織」の在り方を解説する。	
	12回	(4)組織の中の集団・チーム 組織における集団・チームの立ち・特徴を理解する。また、組織で働く意味を解説する。	
	13回	(5)組織のマネージメント 経営目標・理念・戦略を実現するための「人と組織の在り方」と組織における個人の立場と役割について理解する	
	14回	(6)会社の仕組み(会社を社会的存在との視点で解説) 出資(回収)→仕入・製造・販売・営業・回収 管理機能の所在 財務管理・生産管理・販売管理	
	15回	期末試験とその解説 期末試験を行い、その解説とこれまでの講義を振り返る。	

教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。
授業の到達目標	日本の社会・生活・ビジネスを学び、日常の学習の方向を定め、生活態度を確立し有意義な留学生生活を送れるようにする。さらに、適正と能力に合致した進路を選択し、そのための具体的な学習計画を策定し、計画に沿った留学生生活の実践ができる。
指導方法	日本での生活の様々なシチュエーションを想定し、その中で必要な知識を説明する。具体的は、居住空間(近所付き合い)、職場(アルバイト先)、(学校)、旅行先などである。現物、写真、資料等を組み合わせて実践的に授業を進める。
教科書・参考書	教科書:特に設けない。必要な資料をその都度配布する。 参考書:参考書については、講義の進展に合わせて、紹介する。
評価方法	毎回の講義を重視する。そのため講義への参加態度を重視し評価する 期末試験(40%)、講義への参加(35%)、レポート(25%)で評価する。
受講上の注意	オフィスアワー:授業終了後に教室にて質問を受け付ける。または、メール(minagawa@nishitech.ac.jp)で随時受け付ける。予習、復習は欠かせない。
授業外における学習方法	特に、現在日本で起こっている社会的課題・事件・生活等に関心を持ち、多様な媒体でのニュース等に関心を持つように求める。必要に応じて、ディスカッションをして、レポートを提出させることもある。
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング、プレゼンテーションなど。 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:-

授業年度	2017	シラバスNo	CE108B
講義科目名称	日本事情とビジネス		
英文科目名称	Japanese Society & Business		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	留学生対象科目(必修)
担当教員	竹中 知華子		
開講意義目的	留学生のみなさんが、日本での生活に慣れ、覚えておくと便利な日本の常識、生活事情などを講義します。また、日本におけるさまざまな問題を取り上げ、日本の政治と経済についても学習しましょう。		
授業計画	1回 イントロダクション 講義概要 2回 日本の生活事情 住宅や買い物などについて 3回 交通事情 海上、空、陸上交通などについて 4回 法律について アルバイトやアパートの契約などについて 5回 日本の食 食事風景、食生活などについて 6回 日本の四季 春夏秋冬について 7回 日本の名所や祭り 観光地、昔ながらの祭り、史跡、名所などについて 8回 日本の芸能・芸道・文化 能や歌舞伎、茶道、華道 音楽、レジャーなどについて 9回 日本の大学・教育 日本の大学の特徴 大学での4年間について 10回 日本と国際社会 日本と世界のつながり 国際的ビジネスについて 11回 日本の政治経済(1) これまでの日本の政治・経済のあゆみ 12回 日本の政治経済(2) これからの日本の政治・経済について 13回 日本が抱える諸問題(1) 人口・労働問題について 14回 日本が抱える諸問題(2) 家族・女性の社会進出問題 15回 総括 これまでの講義を振り返ります		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	DP(ディプロマ・ポリシー)の中で、デザイン学部情報デザイン学科では1-1)、デザイン学部建築学科では2) が該当する。豊かな人間性と幅広い教養を備え、情報デザインの分野から社会に貢献できるデザイナー、エンジニアを目指して、日本の社会で活躍できるコミュニケーション力を身に付けることができる。		
授業の到達目標	現代日本の政治、経済、社会、文化、歴史、地理など幅広い知識を得て、日本観を構築していきましょう。		
指導方法	講義スタイルで行いますが、日本語の日常表現などは、学生のレベルの合わせて、個別指導を行うことがあります。		
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:なし		
評価方法	受講態度:60% レポート提出:40%		
受講上の注意	講義は日本語で行います。電子辞書などを持ってきてください。		
授業外における学習方法	講義は日本語で行います。教科書を再読したりして、日本語の勉強をしっかりとっておいてください。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目:あり 2. 能動的授業科目種類:レポート形式によるアクティブラーニング 3. 地域志向科目:なし 4. 地域志向科目内容:ー		

授業年度	2017	シラバスNo	CE301A
講義科目名称	地域プロジェクト		
英文科目名称	Regional Project		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	2年	2単位	選択
担当教員	中島 浩二, 梶谷 克彦		
開講意義目的	地域の課題を見つけ、デザイン力で解決するといった本学COC活動の入門的講義である。地域について考え、自分たちでなんとかしようと行動し、提案できることを目的とする。課題を発見するプロセス、アイデアを出しあう方法、課題を解決するための発想、プロジェクトのプレゼンテーションなどを身につけ、今後プロジェクト活動を積極的に行える人材を育成する。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 進め方の説明 最終目標の確認 注意事項</p> <p>第2回 チームビルディング1 新入社員研修で行われているようなアイスブレイクを行う。課題に入る前の準備・ウォーミングアップ</p> <p>第3回 チームビルディング2 新入社員研修で行われているようなアイスブレイクを行う。課題に入る前の準備・ウォーミングアップ</p> <p>第4回 地域について考える 北九州市がどのような地域なのかを調査し、どのような課題があるのか、その課題の緊急性などについて整理する。</p> <p>第5回 課題発見方法 課題を発見するために行われている手法をいくつか紹介し、体験してみる</p> <p>第6回 アイデア抽出方法 ブレインストーミング KJ法</p> <p>第7回 テーマ決め 実在する課題を紹介しその中からテーマを選定する。あるいは発見された課題を選択してもよい。選定に至るプロセスを記録する。</p> <p>第8回 テーマに対するアイデア抽出 これまで学習した方法などを使ってテーマに対するアイデアを抽出する</p> <p>第9回 問題解決アイデア展開 第8回で出た問題解決のアイデアを整理し、効果を予測しながら最適化する</p> <p>第10回 問題解決ワーク1 アイデアを実現するための方法や問題点などを整理して、クオリティを上げる</p> <p>第11回 問題解決ワーク2 アイデアを実現するための方法や問題点などを整理して、クオリティを上げる</p> <p>第12回 問題解決ワーク3 アイデアを実現するための方法や問題点などを整理して、クオリティを上げる</p> <p>第13回 プレゼンテーション作成・練習 効果的なプレゼンテーションを考え、資料を制作、役割分担を決めて練習しておく</p> <p>第14回 プレゼンテーション 最終プレゼンテーションを行い、議論する</p> <p>第15回 プレゼンテーション・まとめ 最終プレゼンテーションを行い、議論する 授業を振り返りまとめる。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>3)専門総合教育科目 自信・気力・創意工夫力を高め、主体的な課題解決力を養うために、各学科専門科目群にゼミナール、卒業研究など?の科目を配置する。【思考・判断・表現】</p> <p>4)学部共通科目・専門教育科目 産業界を支える技術者として、ものづくりやデザインなど?に関する基礎知識・実用技術など?を修得するために、学部共通科目群、専門教育科目 群を配置する。【知識・技能】</p>		
授業の到達目標	・地域の課題を把握する ・アイデアを出すプロセスを体験できる ・プレゼンテーション能力が高まる		
指導方法	本科目は、担当教員の全てで授業を実施する。グループ分けを行い、それぞれ各教員が指導を行う。プロジェクト進行を指示するが、アイデアを出したりプレゼンテーションを行う部分は事後に評価する。		
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:随時紹介		
評価方法	成果発表:60% 授業参加・態度:40%		
受講上の注意	グループワークを行う性質上、遅刻・欠席はグループワークに支障をきたすだけでなくグループメンバーに迷惑をかけるので絶対にしないこと。		
授業外における学習方法	講義内でのグループ活動のみではプロジェクトの進行ができない。しっかりとプロセス管理を行い、チームで集まったり手分けしたりして遅れが出ないよう授業外で調節する		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング</p> <p>3. 地域志向科目有無:あり</p> <p>4. 地域志向科目内容:地域課題を発見し解決するプロセスを学ぶ</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CE302A
講義科目名称	キャリアプラン I		
英文科目名称	Career Planning 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位	必修
担当教員	荒巻 森一朗, 高藤 圭一郎, 中島 潤二, 瀬々 昌文		
開講意義目的	1年次のスタートアップセミナー I, II を受けて, 自分をさらに知り, その上で自分らしい生き方を模索していくことが本講義の主たる目的である。すなわち, 世の中の動きや社会の要請を知るとともに, それに対処していくための基礎学力やコミュニケーション能力を養う。		
授業計画	<p>1回 キャリアプラン I とは ・履修ガイダンス; 開講意義?的, 講義の進め?, 単位認定?法など ・キャリアプラン I の狙いと内容; 1年次のスタートアップセミナー I, II との関連 ・グループ分け; 課題発表やグループディスカッションのためのグループ</p> <p>2回 学修に関する自己分析 ・前学期の振り返り; 前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。 ・学修ポートフォリオの入力</p> <p>3回 キャリアプラン(1) ・ボランティア活動参加の呼びかけ。(担当: 学生代表 10分) ・キャリアとは ・キャリアプランの意義; キャリア形成の必要性</p> <p>4回 キャリアプラン(2) 学生大会の告知(20分、学生代表) ・「働く」とは; 働くことの意義, 会社の役割, 大学卒業生に求められるものなど ・ライフプランの作成; おおまかなライフプラン(卒業後の進路や10年後の姿)を作成する。 ・グループ内での発表; 作成したライフプランをグループの中で発表する。</p> <p>5回 キャリアプラン(3) ・学生大会の告知(担当: 学生代表 20分) ・ジョブリサーチ; 世の中にどのような仕事, 職業があるかを自ら探し, リストを作成する。 ・グループ内での発表; 作成したリストをグループの中で発表する。</p> <p>6回 SPI対策(1) ・SPI言語分野対策</p> <p>7回 SPI対策(2) ・SPI非言語分野対策</p> <p>8回 キャリアプラン(4) ・外部講師による講話; 働くことの意義, 大学生に求められる資質・スキル ・レポートの作成と提出; 講話内容をレポートにまとめ, 提出する。</p> <p>9回 グループディスカッション(1) ・グループディスカッションとは; グループディスカッションの目的, 意義 ・グループディスカッションのやり方; 役割分担, 進行方法など ・グループディスカッション; 30分程度, テーマは学科・系で設定</p> <p>10回 グループディスカッション(2) ・前回のグループディスカッションの反省点の確認 ・グループディスカッション1; 30分程度(前回とは異なるテーマで), テーマは学科・系で設定 ・グループディスカッション2; 30分程度(グループディスカッション1とは異なるグループ, テーマで) ・学生大会の報告</p> <p>11回 SPI対策(3) ・SPI言語分野対策 ・学生大会の報告</p> <p>12回 SPI対策(4) ・SPI非言語分野対策</p> <p>13回 キャリアプラン(5) ・4年生による講話; 進路の決め方, 就活のやり方など ・レポートの作成と提出; 講話内容をレポートにまとめ, 提出する。</p> <p>14回 キャリアプラン(6) ・ライフプランのブラッシュアップ; 第4回で作成したライフプランを見直す(より具体的に, より詳しく) ・グループ内での発表; 改訂したライフプランをグループの中で発表する。</p> <p>15回 まとめ ・全体のまとめ ・キャリアプラン II について ・さらなるキャリアアップへ向けて</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p>		
授業の到達目標	「働く」という視点から社会の仕組みを理解し, その中で自分らしく生きていくためには何をすべきかをきちんと把握する。		
指導方法	キャリアゼミではSPI以外に講義、フリーディスカッション、作文等を実施する。 また、随時個別面談を行い、就学状況や進路等についての相談を受ける。		
教科書・参考書	1年次に購入した「阪東恭一著、最強のSPI、新星出版社」を使用する。		
評価方法	授業参加への積極性(50%), その他(提出物)(50%)にて総合的に評価する。		

受講上の注意	全出席が原則である。遅刻や無断欠席は原則禁止する。病気やサークル等の関係で欠席する場合はガイダンス教員に欠席届を必ず提出すること。
授業外における学習方法	社会や経済の動きなどに関連した課題を課すので、新聞には毎日目を通しておき、将来どのような職に就きたいかもあわせて考えておくこと。 書籍やインターネットによるSPI模擬試験等の活用を推奨する。
能動的授業科目及び地域志向科目	1.能動的授業科目有無:なし 2.能動的授業科目種類:- 3.地域志向科目有無:なし 4.地域志向科目内容:-

授業年度	2017	シラバスNo	CE302B
講義科目名称	キャリアプラン I		
英文科目名称	Career Planning 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位	必修
担当教員	高峰, 上條 恵右		
開講意義目的	1年次のスタートアップセミナー I, II を受けて, ?分をさらに知り, その上で?分らしい?き?を模索していくことが本講義の主たる?的である. すなわち, 世の中の動きや社会の要請を知るとともに, それに対処していくための基礎学?やコミュニケーション能?を養う.		
授業計画	<p>1回 キャリアプラン I とは ・履修ガイダンス?開講意義?的, 講義の進め?, 単位認定?法など ・キャリアプラン I の狙いと内容?1年次のスタートアップセミナー I, II との関連 ・グループ分け?課題発表やグループディスカッションのためのグループ</p> <p>2回 学修に関する??分析 ・前学期の振り返り?前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる ・学修ポートフォリオの入力</p> <p>3回 キャリアプラン(1) ・キャリアとは ・キャリアプランの意義?キャリア形成の必要性 ・ボランティア活動参加への呼びかけ</p> <p>4回 キャリアプラン(2) ・「働く」とは?働くことの意義, 会社の役割, ?学卒業?に求められるものなど ・ライフプランの作成?おおまかなライフプラン(卒業後の進路や10年後の姿)を作成する ・グループ内での発表?作成したライフプランをグループの中で発表する ・学生大会の告知</p> <p>5回 キャリアプラン(3) ・ジョブリサーチ?世の中にどのような仕事, 職業があるかを?ら探し, リストを作成する. ・グループ内での発表?作成したリストをグループの中で発表する. ・学生大会の告知</p> <p>6回 SPI対策(1) ・SPI?語分野対策</p> <p>7回 SPI対策(2) ・SPI言語分野対策</p> <p>8回 キャリアプラン(4) ・外部講師による講話?働くことの意義, ?学?に求められる資質・スキル ・レポートの作成と提出?講話内容をレポートにまとめ, 提出する</p> <p>9回 グループディスカッション(1) ・グループディスカッションとは?グループディスカッションの?的, 意義 ・グループディスカッションのやり??役割分担, 進??法など ・グループディスカッション?30分程度, テーマは学科・系で設定</p> <p>10回 グループディスカッション(2) ・前回のグループディスカッションの反省点の確認 ・グループディスカッション1?30分程度(前回とは異なるテーマで), テーマは学科・系で設定 ・グループディスカッション2?30分程度(グループディスカッション1とは異なるグループ, テーマで) ・学生大会の告知</p> <p>11回 SPI対策(3) ・SPI言語分野対策 ・学生大会の告知</p> <p>12回 SPI対策(4) ・SPI非言語分野対策</p> <p>13回 キャリアプラン(5) ・4年生による講話, 進路の決め, 就活のやり方など ・レポートの作成と提出, 講話内容をレポートにまとめ, 提出する</p> <p>14回 キャリアプラン(6) ・ライフプランのブラッシュアップ?第4回で作成したライフプランを見直す(より具体的に, より詳しく) ・グループ内での発表?改訂したライフプランをグループの中で発表する</p> <p>15回 まとめ ・全体のまとめ ・キャリアプラン II について ・さらなるキャリアアップへ向けて</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p>		
授業の到達目標	「働く」という視点から社会の仕組みを理解し, その中で?分らしく?きていくためには何をすべきかをきちんと把握する.		
指導方法	学期始めと学期末及び必要に応じて修学状況や進路等についての個人面談を実施する。 キャリアガイダンスの中で就業力を向上するための「SPI」トレーニング, 「企業の実務者によるキャリア教育」や「学生生活に関する講演会」などが予定されている。		
教科書・参考書	教科書: 阪東恭一著, 「最強のSPI攻略1000題(H29年度発行最新版)」, 新星出版社。 参考書: なし		
評価方法	受講態度30%, 作文やレポート20%, SPIの取り組み30%, 面談判断など20%で総合的に評価する。		
受講上の注意	学生生活を有意義なものとし, かつ社会人として成長していくためにこの時間の学びを大切にすること。		
授業外における学習方法	授業以外一定な時間を確保し, 就職試験に必要なSPIの演習を行うこと。		
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無: なし</p> <p>2. 能動的授業科目種類: なし</p> <p>3. 地域志向科目有無: なし</p> <p>4. 地域志向科目内容: なし</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CE302C
講義科目名称	キャリアプラン I		
英文科目名称	Career Planning 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位	必修
担当教員	井上 翼, 川島健児, 小畑 大地, 新澤 信彦, 松崎 和孝		
開講意義目的	1年次のスタートアップセミナー I, IIを受けて、自分をさらに知り、その上で自分らしい生き方を模索していくことが本講義の主たる目的である。すなわち、世の中の動きや社会の要請を知るとともに、それに対処していくための基礎学力やコミュニケーション能力を養う。		
授業計画	<p>1回 キャリアプラン I とは ・履修ガイダンス: 開講意義目的, 講義の進め方, 単位認定方法など</p> <p>2回 学修に関する自己分析及び個人面談1 ・学修ポートフォリオの入力説明 ・面談を通じて前学期の振り返りを行う</p> <p>3回 キャリアプラン I 及び個人面談2 ・ボランティア活動参加への呼びかけ ・キャリアプランの意義: キャリア形成の必要性 ・面談を通じて前学期の振り返りを行う</p> <p>4回 内部講師によるセミナー1 ・内部講師によるキャリアに関するセミナーを行う ・セミナー内容: キャリアについて ・学生大会の告知(担当: 学生代表)</p> <p>5回 内部講師によるセミナー2 ・学生大会の告知(担当: 学生代表) ・内部講師によるキャリアに関するセミナーを行う ・セミナー内容: 働くということについて</p> <p>6回 内部講師によるセミナー3 ・内部講師によるキャリアに関するセミナーを行う ・セミナー内容: ライフプランについて</p> <p>7回 内部講師によるセミナー4 ・内部講師によるキャリアに関するセミナーを行う ・セミナー内容: 金融について</p> <p>8回 就活対策適性検査1 ・就活対策として, SPIを行う</p> <p>9回 就活対策適性検査2 ・就活対策として, GABを行う</p> <p>10回 就活対策適性検査3 ・学生大会の報告(担当: 学生代表) ・就活対策として, CABを行う</p> <p>11回 外部講師によるセミナー ・学生大会の報告(担当: 学生代表) ・外部講師によるキャリアセミナーを行い, レポート提出を行う</p> <p>12回 健康セミナー ・健康管理, ストレス対処法について</p> <p>13回 グループディスカッション1 ・グループディスカッションの目的, 意義, やり方, 進行方法等の説明 ・30分程度のグループディスカッションの実施</p> <p>14回 グループディスカッション2 ・前回のグループディスカッションの復習 ・30分程度のグループディスカッションの実施</p> <p>15回 まとめ ・キャリアプランについての感想文作成 ・学期末の連絡事項など ・個別面談(予備)</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p>		
授業の到達目標	働く、という視点から社会の仕組みを理解し、その中で自分らしく生きていくためには何をすべきかきちんと把握する。		
指導方法	キャリア形成に役立つセミナーを開催し、適宜面談を通して継続的に学生の成長を見守る。 また、就職試験対策として種々の模擬試験を行う。		
教科書・参考書	教科書: なし 必要に応じて適宜資料を配布する。 参考書: なし		
評価方法	受講態度: 20% 課題提出: 80% 講義の妨げになる行為は減点対象とする。		
受講上の注意	・ オフィスアワー以外では、随時各研究室にて受け付ける。 開講されたセミナーに対して、友人や教員とディスカッションをすることが望ましい。 常に自分の考えをアウトプットすることを意識して受講すること。 内容及び日程は適宜変更されることがある。		
授業外における学習方法	ニュースや新聞、インターネット等のメディアから時事的な話題を収集し、進路に生かすこと。		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:有 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式によるアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無:無 4. 地域志向科目種類:-
---------------------	---

授業年度	2017	シラバスNo	CE302D
講義科目名称	キャリアプラン I		
英文科目名称	Career Plan 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位	必修
担当教員	早川 信介, 石川 誠		
開講意義目的	社会や経済の動きを把握する。自己の専門と社会の関係を理解し、進路を考える力、協調する力、基礎力、コミュニケーション力の向上を図ることを目的とする。		
授業計画	<p>1回4/10 履修ガイダンス ・履修上の注意 ・個別ガイダンス (担当: 早川・石川)</p> <p>2回4/17 自己分析 ・学習ポートフォリオの入力 (担当: 早川)</p> <p>3回4/24 1. キャリアデザインについて ・キャリアデザインの基礎理解、振り返りシートの作成 (担当: 早川) ・ひまわり駅伝告知 5分 (担当: 学生代表)</p> <p>4回5/1 キャリア教育 1 ・会社とは? (担当: 石川)</p> <p>5回5/8 キャリア教育 2 ・大学と企業の違い ・演習 (担当: 石川)</p> <p>6回5/15 6回5/15 ・体育祭告知 10分 (担当: 学生代表) キャリア教育 3 ・働くことは? ・演習 (担当: 石川)</p> <p>7回5/22 7回5/22 ・春季学生大会告知・委任状配布回収 20分 (担当: 学生代表) キャリア教育 4 ・企業の求める人材 ・演習 (担当: 石川)</p> <p>8回5/30 8回5/30 キャリア教育 5 ・自分自身を知ろう ・演習 (担当: 石川)</p> <p>9回6/5 9回6/5 2. キャリアデザインと人生設計(1) ・現代人のライフサイクルと職業 ・振り返りシートの作成 (担当: 早川)</p> <p>10回6/12 10回6/12 食育講習 ・食育講習 (米光主査) ・「学生大会の報告」5分 (担当: 学生代表) (担当: 早川)</p> <p>11回6/19 11回6/19 食育講習のまとめ ・講習内容のまとめを各自作成 ・「学生大会の報告」5分 (担当: 学生代表) (担当: 早川)</p> <p>12回6/26 12回6/26 3. キャリアデザインと人生設計(2) ・現代人の生涯収支と職業、振り返りシートの作成 (担当: 早川)</p> <p>13回7/3 13回7/3 4. キャリアデザインと人生設計(3) ・現代人のライフキャリア、振り返りシートの作成 ・「学生大会の報告」5分 (担当: 学生代表) (担当: 早川)</p> <p>14回7/10 14回7/10 キャリア3講義のまとめ ・前期の振り返りと後期の取り組みについて考えレポートにまとめる。 (担当: 早川)</p> <p>15回7/24 15回7/24 総まとめ ・後期に向けて個別面談を行う。 (担当: 早川・石川)</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>”本授業は以下の教育目標との対応科目である。 2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。 3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。 ”</p>		
授業の到達目標	自己の進路についての理解を深め、自己分析、基礎力の自己評価を行えるようにすることを目標とする。		
指導方法	プリント指導とする。個人面談等をおこなう。 常識力等基礎力の向上に努めると共に、自己の希望進路の根拠を確定させる。		
教科書・参考書	教科書: なし 参考書: なし		
評価方法	授業参加・態度40%、レポート60%。		
受講上の注意	レポートの提出期限厳守。		
授業外における学習方法	事前に次回の内容について関連事項を調べておくこと。 また、授業中に、課題を提示するので、次回までにレポートを作成し、提出すること。		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:無し 2. 能動的授業科目種類:－ 3. 地域志向科目有無:無し 4. 地域志向科目内容:－
---------------------	--

授業年度	2017	シラバスNo	CE302E
講義科目名称	キャリアプラン I		
英文科目名称	Career Planning 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位	必修
担当教員	矢野 淳, 三笠 友洋, 船本 憲治, 新藤 智		
開講意義目的	1年次のスタートアップセミナー I, II を受けて、自分をさらに知り、その上で自分らしい生き方を模索していくことが本講義の主たる目的である。すなわち、世の中の動きや社会の要請を知るとともに、それに対処していくための基礎学力やコミュニケーション能力を養う。社会や経済の動きを把握し、自己の専門と社会との関係を理解させる。その上で、進路を考える力、協調する力、基礎力、コミュニケーション力の向上をはかる。キャリアゼミの時間では、主にSPIの非言語の問題を解き、数学の基礎力の充実をめざす。		
授業計画	<p>1回 キャリアプラン I とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修ガイダンス; 開講意義目的, 講義の進め方, 単位認定方法など</li> <li>・キャリアプラン I の狙いと内容; 1年次のスタートアップセミナー I, II との関係</li> <li>・グループ分け; 課題発表やグループディスカッションのためのグループ</li> </ul> <p>2回 学修に関する自己分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前学期の振り返り; 前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。</li> <li>・学修ポートフォリオの入力</li> </ul> <p>3回 キャリアプラン(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアとは</li> <li>・キャリアプランの意義; キャリア形成の必要性</li> <li>・ボランティア活動参加への呼びかけ</li> </ul> <p>4回 キャリアプラン(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「働く」とは; 働くことの意義, 会社の役割, 大学卒業生に求められるものなど</li> <li>・ライフプランの作成; おおまかなライフプラン(卒業後の進路や10年後の姿)を作成する。</li> <li>・グループ内での発表; 作成したライフプランをグループの中で発表する。</li> <li>・学生大会の告知</li> </ul> <p>5回 キャリアプラン(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブリサーチ; 世の中にどのような仕事, 職業があるかを自ら探し, リストを作成する。</li> <li>・グループ内での発表; 作成したリストをグループの中で発表する。</li> <li>・学生大会の告知</li> </ul> <p>6回 SPI対策(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI言語分野対策</li> </ul> <p>7回 SPI対策(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI非言語分野対策</li> </ul> <p>8回 キャリアプラン(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講話; 働くことの意義, 大学生に求められる資質・スキル</li> <li>・レポートの作成と提出; 講話内容をレポートにまとめ, 提出する。</li> </ul> <p>9回 グループディスカッション(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションとは; グループディスカッションの目的, 意義</li> <li>・グループディスカッションのやり方; 役割分担, 進行方法など</li> <li>・グループディスカッション; 30分程度, テーマは学科・系で設定</li> </ul> <p>10回 グループディスカッション(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のグループディスカッションの反省点の確認</li> <li>・グループディスカッション1; 30分程度(前回とは異なるテーマで), テーマは学科・系で設定</li> <li>・グループディスカッション2; 30分程度(グループディスカッション1とは異なるグループ, テーマで)</li> <li>・学生大会の報告</li> </ul> <p>11回 SPI対策(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI言語分野対策</li> <li>・学生大会の報告</li> </ul> <p>12回 SPI対策(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI非言語分野対策</li> </ul> <p>13回 キャリアプラン(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生による講話; 進路の決め方, 就活のやり方など</li> <li>・レポートの作成と提出; 講話内容をレポートにまとめ, 提出する。</li> </ul> <p>14回 キャリアプラン(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフプランのブラッシュアップ; 第4回で作成したライフプランを見直す(より具体的に, より詳しく)</li> <li>・グループ内での発表; 改訂したライフプランをグループの中で発表する。</li> </ul> <p>15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体のまとめ</li> <li>・キャリアプラン II について・さらなるキャリアアップへ向けて</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は、以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>2) 創意工夫力・問題解決力 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力 ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p>		
授業の到達目標	<p>「働く」という視点から社会の仕組みを理解し、その中で自分らしく生きていくためには何をすべきかをきちんと把握する。自分の考えをまとめて、相手に伝えることができる。</p> <p>SPIの基礎力・応用力をつける。</p> <p>「就職のために現在すべきこと」を自覚して、継続的に努力できる。</p>		
指導方法	<p>キャリアゼミではSPI以外に講義、フリーディスカッション、作文等を実施する。</p> <p>また、随時個別面談を行い、就学状況や進路等についての相談を受ける。</p>		
教科書・参考書	<p>なし。</p> <p>適宜資料を配布する。</p>		

評価方法	授業参加への積極性(50%), 提出物(50%)にて総合的に評価する。
受講上の注意	全出席が原則である。遅刻や無断欠席は原則禁止する。病気やサークル等の関係で欠席する場合はガイダンス教員に欠席届を必ず提出すること。
授業外における学習方法	社会や経済の動きなどに関連した課題を課すので、新聞には毎日目を通しておき、将来どのような職に就きたいかもあわせて考えておくこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 能動的授業科目有無:あり</li> <li>2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング</li> <li>3. 地域志向科目有無:なし</li> <li>4. 地域志向科目内容:ー</li> </ol>

授業年度	2017	シラバスNo	CE302F
講義科目名称	キャリアプラン I		
英文科目名称	Career Plan 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位	必修
担当教員	高柳 弥生, 竹中 知華子, 内田 恵里子, 宇佐 圭司		
開講意義目的	<p>本学では大学入学時からキャリア教育に取り組んでおり、1年次のスタートアップセミナーⅠ、Ⅱを受けて、自分をさらに知り、その上で自分らしい生き方を模索していくことが本講義の主たる目的です。本講義においては、学生の卒業後の進路や生き方について考える機会を与えることで、大学での過ごし方を考える支援を行います。経済産業省が提唱している3つの社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)を養うための講義を展開していきます。</p>		
授業計画	<p>1 オリエンテーション キャリアプランⅠとは ・履修ガイダンス:開講意義目的、講義の進め方、単位認定方法など ・キャリアプランⅠの狙いと内容:1年次のスタートアップセミナーⅠ、Ⅱとの関連 ・グループ分け:課題発表やグループディスカッションのためのグループ</p> <p>2 学修に関する??分析 ・前学期の振り返り:前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。 ・学修ポートフォリオの入力</p> <p>3 キャリアプラン(1) ・ひまわり駅伝告知(学生代表:5分) ・キャリアとは ・キャリアプランの意義:キャリア形成の必要性 ・ボランティア活動参加への呼びかけ</p> <p>4 キャリアプラン(2) ・「働く」とは:働くことの意義、会社の役割、?学卒業?に求められるものなど ・ライフプランの作成?おおまかなライフプラン(卒業後の進路や10年後の姿)を作成する。 ・グループ内での発表?作成したライフプランをグループの中で発表する。 ・学生大会の告知</p> <p>5 キャリアプラン(3) ・体育祭告知(学生代表:10分) ・ジョブリサーチ:世の中にどのような仕事、職業があるかを自ら探し、リストを作成する。 ・グループ内での発表?作成したリストをグループの中で発表する。</p> <p>6 SPI対策(1) ・春季学生大会告知・委任状配付回収(学生代表:20分) ・SPI言語分野対策専門分野の講義</p> <p>7 SPI対策(2) ・SPI非言語分野対策専門分野の講義</p> <p>8 キャリアプラン(4) ・外部講師による講話:働くことの意義、大学に求められる資質・スキル ・レポートの作成と提出:講話内容をレポートにまとめ、提出する。 ・ガイダンス毎に個人面談を実施</p> <p>9 グループディスカッション(1) ・グループディスカッションとは:グループディスカッションの目的、意義 ・グループディスカッションのやり方:役割分担、進行方法など ・グループディスカッション:30分程度、テーマは学科・系で設定専門分野の講義</p> <p>10 グループディスカッション(2) ・学生大会の報告(学生代表:5分) ・前回のグループディスカッションの反省点の確認 ・グループディスカッション1:30分程度(前回とは異なるテーマで) ・グループディスカッション2:30分程度(グループディスカッション1とは異なるグループ、テーマで)</p> <p>11 SPI対策(3) ・SPI言語分野対策</p> <p>12 SPI対策(4) ・SPI非言語分野対策</p> <p>13 キャリアプラン(5) ・4年生による講話:進路の決め方、就活のやり方など ・レポートの作成と提出:講話内容をレポートにまとめ、提出する。</p> <p>14 キャリアプラン(6) ・ライフプランのブラッシュアップ:第4回で作成したライフプランを見直す(より具体的に、より詳しく) ・グループ内での発表?改訂したライフプランをグループの中で発表する。</p> <p>15 まとめ ・全体のまとめ ・キャリアプランⅡについて ・さらなるキャリアアップへ向けて</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目です。 2)人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、それを解決するための工業技術、デザインの仕事を理解することができる(思考・判断) 4)課題解決に向けて、協調的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる(技能・表現)</p>		
授業の到達目標	<p>自己分析、企業研究、履歴書の書き方など就職のための基本的なキャリア教育だけではなく、激変する社会的環境を生き抜くための基礎学力と専門知識を習得し、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力という3つの能力を育成します。</p>		
指導方法	<p>講義・演習・個人面談を行います。個人面談の日程については、初回の講義で説明します。</p>		

教科書・参考書	教科書:なし 参考書:なし
評価方法	受講態度:70% レポート等提出状況:30%
受講上の注意	欠席・遅刻をしないように気を付けましょう。
授業外における学習方法	経済、経営、政治などの分野も「情報デザイン」とどう関わっているかを考え、企業や地域について学ぶ姿勢を持ち続けてください。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目:あり 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目:なし 4. 地域志向科目内容:ー

授業年度	2017	シラバスNo	CE303A
講義科目名称	キャリアプランⅡ		
英文科目名称	Career Planning 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	必修
担当教員	荒巻 森一朗, 高藤 圭一郎, 中島 潤二, 瀬々 昌文		
開講意義目的	キャリアプランⅡを受けて、キャリアの形成方法の習得をより確実にすることが本講義の主たる目的である。具体的には、基礎学力、コミュニケーション能力や協調・協同能力を着実に自分のものにつつま、専?性を生かしたキャリアプランの作成とそれを実践するための必要なスキルを正しく認識する。		
授業計画	<p>1回 キャリアプランⅡとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修ガイダンス;開講意義目的、講義の進め方、単位認定方法など</li> <li>・キャリアプランⅡの狙いと内容;キャリアプランⅠとの関連</li> <li>・グループ分け;課題発表やワークショップのためのグループ</li> </ul> <p>2回 クレペリン検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレペリン検査</li> </ul> <p>3回 学修に関する自己分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前学期の振り返り;前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。</li> <li>・学修ポートフォリオの入力</li> </ul> <p>4回 SPI対策(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI言語分野対策</li> </ul> <p>5回 SPI対策(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI非言語分野対策</li> <li>・学生大会の告知</li> </ul> <p>6回 クレペリン検査結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレペリン検査結果報告</li> <li>・学生大会の告知</li> </ul> <p>7回 ワークショップ(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップとは;ワークショップの目的、意義</li> <li>・ワークショップのやり方;役割分担、進?方法など</li> <li>・ワークショップ テーマ「学生時代に取り組んでおくべきこと」;30分程度</li> <li>・グループ代表者による発表;得た結論をグループ代表者が全員の前で発表する。</li> </ul> <p>8回 キャリアプラン(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講話;エンジニアあるいはデザイナーに求められる資質・スキル</li> <li>・レポートの作成と提出;講話内容をレポートにまとめ、提出する。</li> </ul> <p>9回 キャリアプラン(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブリサーチ;自分の専?あるいはやりたいことと関係する業界(業種、職種)を自ら探す。</li> <li>・業界研究;その業界で必要とされる知識、スキル、資格などを調べる。</li> <li>・グループ内での発表;業界研究の結果をグループの中で発表する。</li> </ul> <p>10回 ワークショップ(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のワークショップの反省点の確認</li> <li>・ワークショップ テーマ「エンジニア、デザイナーとして社会に貢献するには」;45分程度</li> <li>・グループ代表者による発表;得た結論をグループ代表者が全員の前で発表する。</li> </ul> <p>11回 SPI対策(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI言語分野対策</li> <li>・学生大会の報告</li> </ul> <p>12回 SPI対策(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI非言語分野対策</li> <li>・学生大会の報告</li> </ul> <p>13回 キャリアプラン(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフプランの作成;専門性を生かしたライフプラン(10年後、20年後の姿)を作る。</li> <li>・グループ内での発表;作成したライフプランをグループの中で発表する。</li> </ul> <p>14回 キャリアプラン(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフプランのブラッシュアップ;前回作成したライフプランを?直す(より具体的に、より詳しく)</li> <li>・グループ内での発表;改訂したライフプランをグループの中で発表する。</li> </ul> <p>15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体のまとめ</li> <li>・キャリアデザインⅠについて</li> <li>・次年度学生代表の選出</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。 3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。		
授業の到達目標	反復的な基礎的知識の学習や自己分析、グループワークを通して、社会人基礎力として求められる「考える力」、「チームで働く力」を養う。		
指導方法	グループあるいは個人別に指導を行い、積極性、企画力、社会性などを養うために学校行事への参加を働きかける。修学状況や進路などの調査・アドバイスをを行うために面談を実施する。基礎力を養うためのSPIなどの演習も行う。		
教科書・参考書	教科書: 必要に応じて資料を配布する。 参考書: 特に指定しないが、「SPI攻略1000」などを購入し、自学自習することが望ましい。		
評価方法	授業参加・態度60%、レポートを20%、成果発表(プレゼンテーション)を20%の割合で総合的に評価する。		
受講上の注意	この科目はガイダンス担当教員との接点となる科目であるから、他の科目と重複しない限り受講すること。		
授業外における学習方法	講義前には、授業計画に記載している内容を確認しておくこと。 講義後には、講義でアドバイスされた内容を考えて、実施してみること。 普段の生活の中で社会人とはどういうものか考える習慣をつけること。 授業に関する質問・疑問があれば、遠慮なく教授室のドアをたたくこと。 書籍やインターネットによるSPI模擬試験等の活用を推奨する。		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1.能動的授業科目有無:なし 2.能動的授業科目種類:- 3.地域志向科目有無:なし 4.地域志向科目内容:-
---------------------	--

授業年度	2017	シラバスNo	CE303B
講義科目名称	キャリアプランⅡ		
英文科目名称	Career Planning 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	必修
担当教員	高峰, 上條 恵右		
開講意義目的	キャリアプランⅡを受けて、キャリアの形成?法の習得をより確実にすることが本講義の主たる?的である。具体的には、基礎学?、コミュニケーション能?や協調・協同能?を着実に?分のものにつつ、専?性を?かしたキャリアプランの作成とそれを実践するための必要なスキルを正しく認識する。		
授業計画	<p>1回 キャリアプランⅡとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修ガイダンス?開講意義?的、講義の進め?、単位認定?法など</li> <li>・キャリアプランⅡの狙いと内容?キャリアプランⅠとの関連</li> <li>・グループ分け?課題発表やワークショップのためのグループ</li> </ul> <p>2回 クレペリン検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレペリン検査</li> </ul> <p>3回 学修に関する??分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前学期の振り返り?前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。</li> <li>・学修ポートフォリオの??</li> </ul> <p>4回 SPI対策(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI??語分野対策</li> </ul> <p>5回 SPI対策(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI??語分野対策</li> <li>・学??会の告知</li> </ul> <p>6回 クレペリン検査結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレペリン検査結果報告</li> <li>・学??会の告知</li> </ul> <p>7回 ワークショップ(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップとは;ワークショップの?的、意義</li> <li>・ワークショップのやり?;役割分担、進??法など</li> <li>・ワークショップ テーマ「学?時代に取り組んでおくべきこと」;30分程度</li> <li>・グループ代表者による発表;得た結論をグループ代表者が全員の前で発表する</li> </ul> <p>8回 キャリアプラン(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講話?エンジニアあるいはデザイナーに求められる資質・スキル</li> <li>・レポートの作成と提出?講話内容をレポートにまとめ、提出する</li> </ul> <p>9回 キャリアプラン(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブリサーチ??分の専?あるいはやりたいことと関係する業界(業種、職種)を?ら探す</li> <li>・業界研究?その業界で必要とされる知識、スキル、資格などを調べる</li> <li>・グループ内での発表?業界研究の結果をグループの中で発表する</li> </ul> <p>10回 ワークショップ(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のワークショップの反省点の確認</li> <li>・ワークショップ テーマ「エンジニア、デザイナーとして社会に貢献するには」;45分程度</li> <li>・グループ代表者による発表;得た結論をグループ代表者が全員の前で発表する</li> </ul> <p>11回 SPI対策(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI??語分野対策</li> <li>・学??会の報告</li> </ul> <p>12回 SPI対策(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI??語分野対策</li> <li>・学??会の報告</li> </ul> <p>13回 キャリアプラン(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフプランの作成?専?性を?かしたライフプラン(10年後、20年後の姿)を作る</li> <li>・グループ内での発表?作成したライフプランをグループの中で発表する</li> </ul> <p>14回 キャリアプラン(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフプランのブラッシュアップ;前回作成したライフプランを?直す(より具体的に、より詳しく)</li> <li>・グループ内での発表;改訂したライフプランをグループの中で発表する</li> </ul> <p>15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体のまとめ</li> <li>・キャリアデザインⅠについて</li> <li>・次年度学?代表の選出</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。 3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。		
授業の到達目標	反復的な基礎的知識の学習や分析、グループワークを通して、社会?基礎?として求められる「考える」、「チームで働く力」を養う。		
指導方法	学期始めと学期末及び必要に応じて修学状況や進路等についての個人面談を実施する。 キャリアガイダンスの中で就業力を向上するための「SPI」トレーニング、「企業の実務者によるキャリア教育」や「学生生活に関する講演会」などが予定されている。		
教科書・参考書	教科書: 阪東恭一著、「最強のSPI攻略1000題(H29年度発行最新版)」, 新星出版社。(キャリアガイダンスⅢと同じ教科書)。		
評価方法	受講態度30%、作文やレポート20%、SPIの取り組み30%、面談判断など20%で総合的に評価する。		
受講上の注意	学生生活を有意義なものとし、かつ社会人として成長していくためにこの時間の学びを大切にすること。		
授業外における学習方法	授業以外一定な時間を確保し、就職試験に必要なSPIの演習を行うこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目種類: なし 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: なし		

授業年度	2017	シラバスNo	CE303C
講義科目名称	キャリアプランⅡ		
英文科目名称	Career Planning 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	必修
担当教員	井上 翼, 高城 実, 小畑 大地, 新澤 信彦, 松崎 和孝		
開講意義目的	キャリアプランⅠを受けて、キャリアの形成方法の習得をより確実にすることが本講義の主たる目的である。具体的には、基礎学力、コミュニケーション能力や協調・協同能力を着実に自分のものにつつま、専門性を生かしたキャリアプランの作成とそれを実践するための必要なスキルを正しく認識する。		
授業計画	<p>1回 キャリアプランⅡとは ・履修ガイダンス: 開講意義目的、講義の進め方、単位認定方法など</p> <p>2回 クレペリン検査 クレペリン検査を行う</p> <p>3回 就活対策適性検査1 就活対策として、SPI等を行う</p> <p>4回 ワークショップ1 ・ワークショップの目的、意義、やり方等の説明 ・グループ作成、役割分担 ・テーマ発表、実施 ・代表者による発表</p> <p>5回 ワークショップ2 ・前回の反省点の確認 ・テーマ発表、実施 ・代表者による発表 ・学生大会の告知(担当: 学生代表)</p> <p>6回 クレペリン検査結果報告及び個人面談1 ・学生大会の告知(担当: 学生代表) ・クレペリン検査結果を基にした個人面談(前半)</p> <p>7回 クレペリン検査結果報告及び個人面談2 クレペリン検査結果を基にした個人面談(後半)</p> <p>8回 内部講師によるセミナー1 ・内部講師によるキャリアに関するセミナーを行う ・セミナー内容: キャリアについて</p> <p>9回 内部講師によるセミナー2 ・内部講師によるキャリアに関するセミナーを行う ・セミナー内容: 履歴書とESについて</p> <p>10回 内部講師によるセミナー3 ・内部講師によるキャリアに関するセミナーを行う ・セミナー内容: 金融、経済について</p> <p>11回 内部講師によるセミナー4 ・学生大会の報告(担当: 学生代表) ・内部講師によるキャリアに関するセミナーを行う ・セミナー内容: 就職について</p> <p>12回 健康セミナー ・学生大会の報告(担当: 学生代表) ・健康管理、食育についてのセミナー</p> <p>13回 外部講師によるセミナー ・外部講師によるセミナーを行う ・感想文提出</p> <p>14回 キャリアプラン ・10年後、20年後のライフプランの作成 ・グループ内での発表</p> <p>15回 まとめ ・全体のまとめ ・次年度学生代表の選出 ・個人面談(予備)</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p>		
授業の到達目標	反復的な基礎的知識の学習や自己分析、グループワークを通して、社会人基礎力として求められる「考える力」、「チームで働く力」を養う。		
指導方法	キャリア形成に役立つセミナーを開催し、適宜面談を通して継続的に学生の成長を見守る。 また、就職試験対策として種々の模擬試験を行う。		
教科書・参考書	教科書: なし 必要に応じて適宜資料を配布する。 参考書: なし		
評価方法	受講態度: 20% 課題提出: 80% 講義の妨げになる行為は減点対象とする。		
受講上の注意	<p>・ オフィスアワー以外では、随時各研究室にて受け付ける。</p> <p>開講されたセミナーに対して、友人や教員とディスカッションすることが望ましい。</p> <p>常に自分の考えをアウトプットすることを意識して受講すること。</p> <p>内容及び日程は適宜変更されることがある。</p>		

授業外における学習方法	ニュースや新聞、インターネット等のメディアから時事的な話題を収集し、進路に生かすこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 能動的授業科目有無:有</li> <li>2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式によるアクティブラーニング</li> <li>3. 地域志向科目有無:無</li> <li>4. 地域志向科目種類:-</li> </ol>

授業年度	2017	シラバスNo	CE303D
講義科目名称	キャリアプランⅡ		
英文科目名称	Career Plan 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	必修
担当教員	早川 信介, 石川 誠		

開講意義目的	社会や経済の動きを把握する。自己の専門と社会の関係を理解し、進路を考える力、協調する力、基礎力、コミュニケーション力の向上を図ることを目的とする。		
授業計画	1回9/28	履修ガイダンス ・履修上の注意 ・個別ガイダンス (担当: 早川・石川)	
	2回10/5	クレペリン検査 クレペリン検査 90分 (担当: 早川)	
	3回10/12	ストレス講習 ・ストレス講習 (米光主査)  (担当: 早川)	
	4回10/19	5. キャリアデザインのための自己理解(1) ・働く意味と自分の職業観 ・振り返りシートの作成 (担当: 早川)	
	5回10/26	6. キャリアデザインのための自己理解(2) ・自分史による自己分析 ・自己分析シートの作成 (担当: 早川)	
	6回11/2	クレペリン検査結果 ・クレペリン検査結果報告・解説 90分 (担当: 石川)	
	7回11/9	7. キャリアデザインと仕事理解(1) ・学生生活とキャリアデザイン ・振り返りシートの作成 (担当: 早川)	
	8回11/16	8. キャリアデザインと仕事理解(2) ・キャリア形成影響を与える外的環境 (担当: 早川) ・振り返りシートの作成 ・学生大会の告知・委任状配布回収 20分(担当: 学生代表)	
	9回11/30	キャリア教育 6 ・円滑な会議の方法 (担当: 石川) ・演習	
	10回12/7	キャリア教育 7 ・問題を分析しよう ・演習 (担当: 石川)	
	11回12/14	キャリア教育 8 ・わかりやすく伝えるには ・演習 ・学生大会の報告 5分(担当: 学生代表) (担当: 石川)	
	12回12/21	キャリア教育 9 ・組織での働き方 (担当: 石川) ・演習	
	13回1/11	キャリア教育 10 ・今後に向けて ・演習 (担当: 石川)	
	14回1/18	キャリア4講義のまとめ ・後期の振り返りと後期の取り組みについて考えレポートにまとめる。 (担当: 早川)	
	15回1/25	総まとめ ・次年度に向けて個別面談を行う。 (担当: 早川・石川) ・次年度学生代表選出 20分 (担当: 学生代表)	

教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>“本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p> <p>”</p>
授業の到達目標	自己の進路についての理解を深め、自己分析、基礎力の自己評価を行えるようにすることを目標とする。
指導方法	プリント指導とする。個人面談等をおこなう。
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:なし
評価方法	授業参加・態度40%、レポート60%。
受講上の注意	レポートの提出期限厳守。学期内で学外授業を行う予定。
授業外における学習方法	事前に次回の内容について関連事項を調べておくこと。 また、授業中に、課題を提示するので、次回までにレポートを作成し、提出すること。
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:無し</p> <p>2. 能動的授業科目種類:—</p> <p>3. 地域志向科目有無:無し</p> <p>4. 地域志向科目内容:—</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CE303E
講義科目名称	キャリアプランⅡ		
英文科目名称	Career Planning 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	必修
担当教員	矢野 淳, 三笠 友洋, 船本 憲治, 新藤 智		
開講意義目的	キャリアプランⅠを受けて、キャリアの形成方法の習得をより確実にすることが本講義の主たる目的である。具体的には、基礎学力、コミュニケーション能力や協調・協同能力を着実に自分のものにつつま、専門性を生かしたキャリアプランの作成とそれをするための必要なスキルを正しく認識する。 基礎学力(SPI)、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高め、自分のキャリアをデザインするための基礎力を身に付ける。		
授業計画	<p>1回 キャリアプランⅡとは ・履修ガイダンス;開講意義目的, 講義の進め方, 単位認定方法など ・キャリアプランⅡの狙いと内容;キャリアプランⅠとの関連 ・グループ分け;課題発表やワークショップのためのグループ</p> <p>2回 クレペリン検査 ・クレペリン検査</p> <p>3回 学修に関する自己分析 ・前学期の振り返り;前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。 ・学修ポートフォリオの入力</p> <p>4回 SPI対策(1) ・SPI言語分野対策</p> <p>5回 SPI対策(2) ・SPI非言語分野対策 ・学生大会の告知</p> <p>6回 クレペリン検査結果報告 ・クレペリン検査結果報告 ・学生大会の告知</p> <p>7回 ワークショップ(1) ・ワークショップとは;ワークショップの目的, 意義 ・ワークショップのやり方;役割分担, 進行方法など ・ワークショップ テーマ「学生時代に取り組んでおくべきこと」;30分程度 ・グループ代表者による発表;得た結論をグループ代表者が全員の前で発表する。</p> <p>8回 キャリアプラン(1) ・外部講師による講話;エンジニアあるいはデザイナーに求められる資質・スキル ・レポートの作成と提出;講話内容をレポートにまとめ, 提出する。</p> <p>9回 キャリアプラン(2) ・ジョブリサーチ;自分の専門あるいはやりたいことと関係する業界(業種, 職種)を自ら探す。 ・業界研究;その業界で必要とされる知識, スキル, 資格などを調べる。 ・グループ内での発表;業界研究の結果をグループの中で発表する。</p> <p>10回 ワークショップ(2) ・前回のワークショップの反省点の確認 ・ワークショップ テーマ「エンジニア, デザイナーとして社会に貢献するには」;45分程度 ・グループ代表者による発表;得た結論をグループ代表者が全員の前で発表する。</p> <p>11回 SPI対策(3) ・SPI非言語分野対策 ・学生大会の報告</p> <p>12回 SPI対策(4) ・SPI言語分野対策 ・学生大会の報告</p> <p>13回 キャリアプラン(3) ・ライフプランの作成;専門性を生かしたライフプラン(10年後, 20年後の姿)を作る。 ・グループ内での発表;作成したライフプランをグループの中で発表する。</p> <p>14回 キャリアプラン(4) ・ライフプランのブラッシュアップ;前回作成したライフプランを見直す(より具体的に, より詳しく) ・グループ内での発表;改訂したライフプランをグループの中で発表する。</p> <p>15回 まとめ ・全体のまとめ ・キャリアデザインⅠについて ・次年度学生代表の選出</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は、以下の教育目標との対応科目である。 2) 創意工夫力・問題解決力 人間社会における諸問題の原因を追究、発目し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。 3) 専門的知識・技術の活用力 ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。		
授業の到達目標	反復的な基礎的知識の学習や自己分析, グループワークをして, 社会人基礎力として求められる「考える力」, 「チームで働く力」を養う。		
指導方法	内容に応じて, 講義形式, あるいはグループによる演習形式で行う。		
教科書・参考書	なし。 適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の提出物(80%), 授業への参加態度(20%)により評価を行う		
受講上の注意	なし		
授業外における学習方法	授業中出された課題について, 次の週の授業までに完成させ提出すること		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー
---------------------	---

授業年度	2017	シラバスNo	CE303F
講義科目名称	キャリアプランⅡ		
英文科目名称	Career Plan 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	必修
担当教員	高柳 弥生, 竹中 知華子, 内田 恵里子, 宇佐 圭司		
開講意義目的	<p>本学では大学入学時からキャリア教育に取り組んでおり、キャリアプランⅠを受けて、キャリアの形成方法の習得をより確実にすることが本講義の主たる目的です。具体的には、基礎学力、コミュニケーション能力や協調・協同能力を着実に自分のものにして、専門性を?かしたキャリアプランの作成とそれを実践するための必要なスキルを正しく認識します。本講義においては、学生の卒業後の進路や生き方について考える機会を与えることで、大学での過ごし方考える支援を行います。</p>		
授業計画	<p>1 イントロダクション キャリアプランⅡとは ・履修ガイダンス:開講意義目的、講義の進め方、単位認定方法など ・キャリアプランⅡの狙いと内容:キャリアプランⅠとの関連 ・グループ分け:課題発表やワークショップのためのグループ</p> <p>2 クレペリン検査 ・クレペリン検査</p> <p>3 学修に関する自己分析 ・前学期の振り返り:前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。 ・学修ポートフォリオの入力</p> <p>4 SPI対策(1) ・SPI言語分野対策</p> <p>5 SPI対策(2) ・SPI非言語分野対策</p> <p>6 クレペリン検査結果報告 ・クレペリン検査結果報告</p> <p>7 ワークショップ(1) ・ワークショップとは:ワークショップの目的、意義 ・ワークショップのやり方:役割分担、進行方法など ・ワークショップ テーマ「学生時代に取り組んでおくべきこと」:30分程度 ・グループ代表者による発表:得た結論をグループ代表者が全員の前で発表する。</p> <p>8 キャリアプラン(1) ・学生大会の告知(学生代表:20分) ・外部講師による講話?エンジニアあるいはデザイナーに求められる資質・スキル ・レポートの作成と提出?講話内容をレポートにまとめ、提出する。</p> <p>9 キャリアプラン(2) ・ジョブリサーチ?分の専?あるいはやりたいことと関係する業界(業種、職種)を自ら探す。 ・業界研究:その業界で必要とされる知識、スキル、資格などを調べる。 ・グループ内での発表:業界研究の結果をグループの中で発表する。</p> <p>10 ワークショップ(2) ・前回のワークショップの反省点の確認 ・ワークショップ テーマ「エンジニア、デザイナーとして社会に貢献するには」:45分程度 ・グループ代表者による発表?得た結論をグループ代表者が全員の前で発表する。</p> <p>11 SPI対策(3) ・学生大会の報告(学生代表:5分) ・SPI言語分野対策</p> <p>12 SPI対策(4) ・SPI非言語分野対策</p> <p>13 キャリアプラン(3) ・ライフプランの作成?専?性を?かしたライフプラン(10年後、20年後の姿)を作る。 ・グループ内での発表:作成したライフプランをグループの中で発表する。</p> <p>14 キャリアプラン(4) ・ライフプランのブラッシュアップ:前回作成したライフプランを見直す(より具体的に、より詳しく) ・グループ内での発表:改訂したライフプランをグループの中で発表する。</p> <p>15 まとめ ・次年度学生代表選出(学生代表:20分) ・全体のまとめ ・キャリアデザインⅠについて</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。 2)人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、それを解決するための工業技術、デザインの仕組みを理解することができる(思考・判断) 4)課題解決に向けて、協動的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる(技能・表現)</p>		
授業の到達目標	<p>自己分析、企業研究、履歴書の書き方など就職のための基本的なキャリア教育だけではなく、激変する社会的環境を生き抜くための基礎学力と専門知識を習得し、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力という3つの能力を育成します。</p>		
指導方法	<p>講義・演習・個人面談を行います。個人面談の日程については初回の講義で説明します。</p>		
教科書・参考書	<p>教科書:なし 参考書:なし</p>		
評価方法	<p>受講態度:70% レポート等提出状況:30%</p>		
受講上の注意	<p>欠席・遅刻をしないようにしましょう。</p>		
授業外における学習方法	<p>経済、経営、政治などの分野も「情報デザイン」とどう関わっているかを考え、企業や地域について学ぶ姿勢を持ってください。</p>		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目:あり 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目:なし 4. 地域志向科目内容:ー
---------------------	---

授業年度	2017	シラバスNo	CE501A
講義科目名称	ものづくりと倫理		
英文科目名称	Ethics in Design and Engineering		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	清水 満		
開講意義目的	自動車に代表されるように、工業製品の製作は倫理的な行動と深い関係をもつが、製作、設計の際にはあまり意識されてこなかった。この講義は、今後の技術者、設計者にとって、工業製品の製作、設計に必要な倫理的な思考を身につけることを目的とする。また技術士試験などに必要な基礎的知識の習得も意図している。		
授業計画	<p>1回 技術と倫理: イントロダクション 工業製品・工業デザインが日常的な道徳的行為とどのようにかわるか実例で考察していく。</p> <p>2回 応用倫理学の基礎的な考え方 技術倫理を含む現代の応用倫理学の基礎をなす考え方を学ぶ。 1, 自由主義, 2, 功利主義, 3, 人格主義と自律・自己責任の三つの倫理思想を考察する。</p> <p>3回 技術の哲学 現代において技術倫理に大きな影響を与えている二つの技術の哲学を学ぶ。 1, ハイデガーの技術論, 2, フランクフルト学派の批判理論</p> <p>4回 「プロフェッション」とは何か 高度技術者、技術士・建築士など国家資格取得者などに求められている「プロフェッション」概念について学び、「プロフェッション」意識を身につける。</p> <p>5回 技術者と法律(1) 技術者に求められるコンプライアンスの基礎として、知的財産権と著作権の概要について学び、規範意識を涵養する。</p> <p>6回 技術者と法律(2) 技術者に求められるコンプライアンスの基礎として、公益通報と製造物責任の概要について学び、規範意識を涵養する。</p> <p>7回 技術者と法律(3) 技術者に求められるコンプライアンスの基礎として、技術者の義務と労働法の概要について学び、規範意識を涵養する。</p> <p>8回 企業の社会的責任: ISO26000 企業の社会的責任(CSR)の概要を学び、ISO26000についての理解を深める。</p> <p>9回 研究の倫理 「STAP細胞事件」など昨今頻出している研究不正の実例をもとに、科学技術研究の際の基礎的な倫理を学ぶ。</p> <p>10回 技術倫理事例(1): 職人氣質: 宮大工 日本の伝統的なものづくりの倫理として「職人氣質」を学び、宮大工を事例として取り上げ、そこにあるものづくりの倫理を浮き彫りにする。</p> <p>11回 技術倫理事例(2): 下町ロケット 技術立国日本を担ったのは、東京の大田区や新潟の燕市などの町工場であり、今も世界的な企業に技術供与している。彼らの国際的な技術の高さは町工場で培われたものづくりの倫理に由来する。それらの事例を取り上げ、町工場のものづくりの倫理を考察する。</p> <p>12回 技術倫理事例(3): ウィリアム・モリスと柳宗悦 産業革命以後、機械制大工業が進み、粗悪品が生産される中、近代的なものづくりの倫理を確立した人がウィリアム・モリスであり、日本においては柳宗悦である。産業デザインの創始者ともいえるこの二人のものづくりの倫理を学ぶ。</p> <p>13回 技術倫理事例(4): 「モダンタイムス」とパウハウス 現代の産業デザインの基礎をきずいたのは、ドイツのパウハウスである。近代社会の疎外、大量生産で失われる人間性の問題に向き合い、現代のものづくりに大きな影響を及ぼしたパウハウスの思想的な意義を学ぶ。</p> <p>14回 技術倫理事例(5): 適正技術、「スモール・イズ・ビューティフル」 現代の科学技術の生産物が環境に負荷を与え、破壊してきたのは否定できない事実である。環境と共存でき、地球に優しいものづくりの倫理の代表例として、シューマッハーらの構想した「適正技術」の考え方、「スモール・イズ・ビューティフル」の地域分散型技術の倫理について学ぶ。</p> <p>15回 期末試験と解説 期末試験を実施し、のちその問題について解説を行う。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。 4) 実務型技術者としての実践力: 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。		
授業の到達目標	ものづくり、デザイン、設計の際に倫理的な思考ができ、それを製作・設計・デザインに生かすことができる。 プロフェッション意識を涵養し、社会的な倫理観をもった技術者となれるようにする。		
指導方法	講義と演習を適宜組み合わせて進める。演習では課題を自分で考察する。 演習解答(小テスト)は、次回の講義で講義に対して汎用性のあるものについてコメントする。 理解をしやすいするために、視聴覚教材を利用する。		
教科書・参考書	教科書: なし。プリントを使用。 参考書: 毎回の講義で指示する。		
評価方法	小テスト(演習問題解答)40パーセント。 試験 50パーセント。授業参加・態度 10パーセント。		
受講上の注意	オフィスアワー: 授業終了後に質問等を受けつける。 それ以外では、メールで受けつける。mann@asahi.email.ne.jp 30分以上の遅刻は、受講は認めるが欠席扱いとする。 私語、内職が目に見える場合は、授業授業参加・態度での減点を行う。		
授業外における学習方法	毎回講義で参考文献、推薦映像などを指示するので、講義後はそれらの文献を読み、映像作品を鑑賞すること。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1, 能動的授業科目有無: なし 2, 能動的授業科目種類: - 3, 地域志向科目有無: なし 4, 地域志向科目種類: -		

授業年度	2017	シラバスNo	CE502A
講義科目名称	キャリアデザイン I		
英文科目名称	Career Design I		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1単位	選択
担当教員	中島 潤二, 高藤 圭一郎, 田代 武博, 瀬々 昌文		
開講意義目的	2年次のキャリアプラン I、IIを受けて、自己の分析をさらに進め、習得した知識やスキルを活かしながら社会の中でいかに生きていくかを模索していくことが本講義の主たる目的である。つまり、自己を表現する方法や社会から求められるものを知るとともに、それに対処していくための基礎学力やコミュニケーション能力を養う。キャリア教育の一環として、進路についての方針を決めその実現に向けての取り組みを指導する。さらに、就職活動や就職後に必要な基礎力の向上を目指す。そのために、就職に関する基礎知識を与える講義、SPI試験への対策、		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 個人面談(ガイダンスクラス別に実施) ポートフォリオ作成  ○就職活動の導入  授業内容と進め方について説明。  大学生生活の現状についての聞き取りとアドバイス。  ポートフォリオの作成の説明。  学生代表選出。  ・履修ガイダンス;開講意義目的、講義の進め方、単位認定方法など。  ・キャリアデザイン I の狙いと内容;2年次のキャリアプラン I、IIとの関連  ・グループ分け;グループディスカッションのためのグループ</p> <p>2回 個人面談(ガイダンスクラス別に実施)学修に関する自己分析  ○就職活動の導入(担当:就職指導担当)  大学生生活の現状についての聞き取りとアドバイス。  ・前学期の振り返り;前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。  ・学修ポートフォリオの入力。</p> <p>3回 学生行事の紹介と説明 就職活動の導入 キャリアデザイン(1):スタートアップ  ○ボランティア活動参加の呼びかけ(担当:学生代表)  ボランティア活動とひまわり駅伝についての紹介と説明。  ・今後の就職活動の進め方についての説明  ・キャリア形成の必要性  ・進路選択に関する指導、これから1年間にやるべきこと、SPI等の準備  ・ボランティア活動参加への呼びかけ</p> <p>4回 インターンシップに関する説明 外部講師の講話  ○インターンシップ  インターンシップと社会人の心構えについての説明。  模擬試験の実施。  ・外部講師による講話;働くことの意義、関連技術の最新動向など  ・レポートの作成と提出;講話内容をレポートにまとめ、提出する。</p> <p>5回 学生行事の紹介と説明 業界研究 キャリアデザイン(2):インターンシップ  ○学生大会告知(担当:学生代表)  学生代表により、学生大会の委任状配布と回収。  ・業界研究(担当:就職指導担当)  就職先として想定される業界の動向などを説明  ・インターンシップの必要性  ・インターンシップの手続き方法  ・学生大会の告知</p> <p>6回 履歴書の書き方と自己分析(1) SPI対策(1)  ○自己分析・自己PR  履歴書の書き方について説明。  履歴書記入の練習。  ・SPI言語分野対策</p> <p>7回 履歴書の書き方と自己分析(2) キャリアデザイン(3):自己分析・PR  ○自己分析・自己PR  自己分析方法について説明。  自己分析を行い、履歴書を作成。  ・自己表現のための自己分析・PRの方法  ・文書作成の基礎</p> <p>8回 リクナビ・マイナビの登録 SPI対策(2)  ○ナビ登録  就職ナビの登録方法について説明。  就職ナビの活用方法について説明。  ・SPI非言語分野対策</p> <p>9回 SPI検査模試 キャリアデザイン(4):ナビ登録  ○SPI模試  SPI模試の実施  ・就職ナビとは  ・各種就職ナビへの登録</p> <p>10回 学生行事の紹介と説明 一般常識模試 キャリアデザイン(5):SPI模試</p>		

	<p>○学生大会の報告(担当:学生代表)</p> <p>○一般常識模試 一般常識模試の実施。</p> <p>・SPI模試</p> <p>学生行事の紹介と説明 進路の決め方 キャリアデザイン(6):一般常識模試</p> <p>○学生大会の報告(担当:学生代表)</p> <p>・進路決めについての説明。 企業求人情報・大学院などの検索方法の説明。 進路先の検索・調査と調査票の作成。</p> <p>・一般常識模試</p> <p>・学生大会の報告</p>
11回	
12回	<p>ビジネスマナー グループディスカッション</p> <p>○ビジネスマナー 就活時に心得ておくべきビジネスマナーについて説明</p> <p>・グループディスカッション;就活を想定した具体的なテーマによるグループディスカッション</p>
13回	<p>SPI・一般常識模試の試験結果解説 キャリアデザイン(7):ビジネスマナー</p> <p>○各試験結果報告</p> <p>SPI・一般常識模試の試験結果報告</p> <p>SPI・一般常識模試の試験結果の見方について解説</p> <p>・就活に必要なビジネスマナー、見だしなみ</p>
14回	<p>個人面談(ガイダンスクラス別に実施) キャリアデザイン(8):試験結果報告</p> <p>大学生生活の現状についての聞き取りとアドバイス。</p> <p>・各種模試の結果報告</p> <p>・対策方法</p>
15回	<p>個人面談(ガイダンスクラス別に実施) まとめ</p> <p>大学生生活の現状についての聞き取りとアドバイス。</p> <p>・全体のまとめ</p> <p>・キャリアデザインⅡについて</p> <p>・さらなるキャリアアップへ向けて</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は、総合システム工学科のディプロマ・ポリシーに掲げている以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>3)専門的知識・技術の活用力。 ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p> <p>4)実務型技術者としての実践力。 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。</p>
授業の到達目標	<p>学生それぞれが将来の進路を決め、それに向かい進むことができるようになることを目標とする。</p>
指導方法	<p>グループあるいは個人別に指導を行い、積極性、企画力、社会性などを養うために学校行事への参加を働きかける。</p> <p>修学状況や進路などの調査・アドバイスを行うために面談を実施する。</p> <p>基礎力を養うためのSPIなどの演習も行う。</p>
教科書・参考書	<p>教科書:必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考書:特に指定しないが、「SPI攻略1000」などを購入し、自学自習することが望ましい。</p>
評価方法	<p>レポート、授業参加・学習態度、プレゼンテーションで総合的に評価する。</p> <p>なお、欠席をした者に対しては、「授業に参加しない者は、授業で実施する特別講義・演習等を履修していない」と判断し、必要に応じ追加の課題を付与する。与えられた課題を提出しない者には原則単位を付与しない。</p>
受講上の注意	<p>この科目はガイダンス担当教員との接点となる科目であるから、他の科目と重複しない限り受講すること。</p>
授業外における学習方法	<p>講義前には、授業計画に記載している内容を確認しておくこと。</p> <p>講義後には、講義でアドバイスされた内容を考え、実施してみること。</p> <p>普段の生活の中で社会人とはどういふものか考える習慣をつけること。</p> <p>授業に関する質問・疑問があれば、遠慮なく教授室のドアをたたくこと。</p>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1.能動的授業科目有無:有</p> <p>2.能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング</p> <p>3.地域志向科目有無:無</p> <p>4.地域志向科目内容:—</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CE502B
講義科目名称	キャリアデザイン I		
英文科目名称	Career Design I		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1単位	選択
担当教員	野中 智博		
開講意義目的	学生個人々へのキャリア教育の一環として、主に進路相談と修学支援、学内行事への取り組みについて指導する。		
授業計画	<p>1回 ・基礎演習1 今後の学習に向けて、中学、高校数学、物理などの基礎知識の復習の為の演習を行い、学習への自覚を促す。</p> <p>2回 ・インターンシップ、企業研究 インターンシップへの参加を促し、就職に向けての自覚を涵養する。</p> <p>3回 ボランティア活動およびひまわり駅伝の参加呼びかけ 自主活動、学校行事への参加募集を行うにあたり、その重要性について説明し、大学行事へ参加する積極性を養う。また、身近な学内献血への呼び掛けなどにより、社会性を身につける。</p> <p>4回 ・SPI模擬試験 SPI模擬試験を実施し、各自の得意・不得意分野を把握する。</p> <p>5回 ・学生大会資料配付 ・図書館利用の促進 学生大会の資料配布にて、キャンパス環境をさらに改善するための意見を集約する。 図書館の利用を促し、自主的に読書に親しむようにする。</p> <p>6回 ・クレペリン検査 クレペリン検査による自己分析を実施。</p> <p>7回 ・学内献血の呼びかけ、基礎演習2 身近な学内献血への呼び掛けにより、社会性を身につける。 自分の学習への取り組みを再認識するために、中学、高校数学、物理などの基礎知識の復習の為の演習を行う。</p> <p>8回 ・SPI模擬試験の解説、学生大会およびSpicydayの告知 ガイダンス担当教官がSPI模擬試験の問題解説を行い、SPIの重要性を理解する。 また、学生大会およびSpicydayの告知を行い、社会性を身につける。</p> <p>9回 ・一般常識試験 一般常識試験を行い、就職に向けての自覚を涵養する。</p> <p>10回 ・業界研究 進路を決める上で、必要になる業界研究を行う。</p> <p>11回 ・基礎演習3 中学、高校数学、物理などの基礎知識の復習の為の演習を行い、今後の学習、就職への準備に向けて、自分がどれだけ努力をしているかを自覚する。</p> <p>12回 ・就職試験対策 就職試験に向けて、準備すべき事、自己開拓の重要性を解説し、今後の学習、就職活動に向けての更なる自覚を促す。</p> <p>13回 エントリーシート作成指導 就職指導委員により、エントリーシートの作成指導を行う。</p> <p>14回 ・就職ナビの登録 就職ナビの登録方法について指導するとともに、実際に登録を行う。</p> <p>15回 まとめ 授業全体を振り返るとともに、演習、試験について総合的な解説を行い、今後の学習、就職活動に向けての更なる自覚を促す。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>“本授業は以下の教育目標との対応科目である。 3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。 4) 実務型技術者としての実践力: 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。”</p>		
授業の到達目標	就職に向けて、思考・判断能力を向上させる。また、就職活動のための準備を行うとともに、後期から始まるキャリアデザインⅡに向けて自覚を促す。		
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料による講義と演習により、授業を進める。</li> <li>・適宜、模擬テスト、就職ガイダンスを行う。</li> <li>・各時間、主にガイダンス担当教官が指導にあたり、就職に向けての自覚を促す。</li> <li>・積極性や企画力、社会性を養うために学校行事への参加を促す。</li> </ul>		
教科書・参考書	<p>教科書:特になし。 参考書:「最強のSPI攻略1000題」坂東 恭一著 発行:新星出版社などのSPI対策本の購入を勧める。</p>		
評価方法	小テスト10%、レポート10%、授業参加・態度60%、その他(大学行事の参加、資格取得)20%		
受講上の注意	ノート・筆記用具は毎回必ず持参。理由なき欠席、遅刻に対しては厳しく評価する。		
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップに参加する。</li> <li>・企業研究を積極的にを行う。</li> <li>・就職を希望する者は、リクナビ、マイナビなどの新卒者用就職・求人サイトへの登録を必ず行う。</li> </ul>		
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:課題の調査研究によるアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無:なし 地域志向科目内容:—		

授業年度	2017	シラバスNo	CE502C
講義科目名称	キャリアデザイン I		
英文科目名称	Career Design I		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1単位	選択
担当教員	池田 英広, 大木 正彦, 眞田 篤		
開講意義目的	2年次のキャリアプラン I, IIを受けて, 自己の分析をさらに進め, 習得した知識やスキルを活かしながら社会の中でいかに生きていくかを模索していくことが本講義の主たる目的である。つまり, 自己を表現する方法や社会から求められるものを知るとともに, それに対処していくための基礎学力やコミュニケーション能力を養う。		
授業計画	<p>1回 キャリアデザイン I とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修ガイダンス; 開講意義目的, 講義の進め方, 単位認定方法など</li> <li>・キャリアデザイン I の狙いと内容; 2年次のキャリアプラン I, II との関連</li> <li>・グループ分け; グループディスカッションのためのグループ</li> </ul> <p>2回 学修に関する自己分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前学期の振り返り; 前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。</li> <li>・学修ポートフォリオの入力</li> </ul> <p>3回 キャリアデザイン(1): スタートアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア形成の必要性</li> <li>・進路選択に関する指導, これから1年間にやるべきこと, SPI等の準備</li> <li>・ボランティア活動参加への呼びかけ</li> </ul> <p>4回 外部講師の講話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講話; 働くことの意味, 関連技術の最新動向など</li> <li>・レポートの作成と提出; 講話内容をレポートにまとめ, 提出する。</li> </ul> <p>5回 キャリアデザイン(2): インターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップの必要性</li> <li>・インターンシップの手続き方法</li> <li>・学生大会の告知</li> </ul> <p>6回 SPI対策(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI言語分野対策</li> </ul> <p>7回 キャリアデザイン(3): 分析・PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己表現のための自己分析・PRの方法</li> <li>・文書作成の基礎</li> </ul> <p>8回 SPI対策(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI非言語分野対策</li> </ul> <p>9回 キャリアデザイン(4): ナビ登録</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職ナビとは</li> <li>・各種就職ナビへの登録</li> </ul> <p>10回 キャリアデザイン(5): SPI模試</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI模試</li> </ul> <p>11回 キャリアデザイン(6): 一般常識模試</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般常識模試</li> <li>・学生大会の報告</li> </ul> <p>12回 グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッション; 就活を想定した具体的なテーマによるグループディスカッション</li> </ul> <p>13回 キャリアデザイン(7): ビジスマナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就活に必要なビジスマナー, ?だしなみ</li> </ul> <p>14回 キャリアデザイン(8): 試験結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種模試の結果報告</li> <li>・対策方法</li> </ul> <p>15回 研究室紹介(教務委員), 就職指導委員講話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミナールの説明, 各研究室の説明</li> <li>・進学・就職活動についての講話</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。 4) 実務型技術者としての実践力: 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し, システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。		
授業の到達目標	① 様々な進路について理解する ② 具体的な進路希望を確定する ③ 自己分析, 自己PRを行う能力を身に付ける ④ 適性試験の能力および一般常識が向上する		
指導方法	・基本的に座学方式で指導する。 ・適宜, 適性試験の指導を行い, SPIと一般常識の模試を実施する。 ・その他, 自己分析・自己PR, 業界動向, ビジスマナーに関する内容を教授し, さらに適宜個人面談を行うことで, 適切な進路を決定し社会人基礎力を養うよう指導する。		
教科書・参考書	教科書: なし 参考書: なし (適宜, 資料を配布する)		
評価方法	・評価の比率は, 提出物(4回程度)50%, 授業参加・態度: 50%とする。		
受講上の注意	・本科目では工学の専門的な教授を行うことはないが, 今後の進学・就職活動, ゼミナール, 卒業研究に関連する重要な科目であるため, 積極的に受講すること。 ・またオフィスアワー以外でも, 研究室(大木: D506, 眞田: D410, 池田: D511)にて質問を受け付ける。		
授業外における学習方法	・進路に関する調査をインターネットなどで適宜行うこと。 ・適性試験や一般常識に関する参考書を用いて, 授業外でも試験対策を行うこと。 ・新聞などをよく読んで, 社会情勢を把握すること。 ・自らの長所・短所やPRポイントを把握すること。		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:グループディスカッション, レポート・ライティング 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー
---------------------	--

授業年度	2017	シラバスNo	CE502D
講義科目名称	キャリアデザイン I		
英文科目名称	Career Design I		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1単位	選択
担当教員	河野 雅也, 山本 健太郎		
開講意義目的	4年次での就職活動前の自分の目標や適性等について意識を高める時間が必要であり、そのために時期的にも良く教育効果ができると言える。実際の進路選択、職業選択に向けて、社会経済の動向把握力、常識力、協調性等の人物力、コミュニケーション力など、社会人としての基礎力の向上を図れるように努める。		
授業計画	<p>1回 キャリアデザイン I とは ・履修ガイダンス?開講意義目的, 講義の進め方, 単位認定方法など ・キャリアデザイン I の狙いと内容?2年次のキャリアプラン I, II との関連</p> <p>2回 学修に関する自己分析 ・前学期の振り返り、前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。 ・学修ポートフォリオの入力</p> <p>3回 キャリアデザイン(1): スタートアップ ・キャリア形成の必要性 ・進路選択に関する指導, これから1年間にやるべきこと, SPI等の準備 ・ボランティア活動参加への呼びかけ</p> <p>4回 外部講師の講話 ・外部講師による講話、働くことの意義、関連技術の最新動向など ・レポートの作成と提出:講話内容をレポートにまとめ、提出する。</p> <p>5回 キャリアデザイン(2): インターンシップ ・インターンシップの必要性 ・インターンシップの手続き方法・学生大会の告知</p> <p>6回 SPI対策(1) ・SPI言語分野対策</p> <p>7回 キャリアデザイン(3): 自己分析・PR ・自己表現のための自己分析・PRの方法 ・文書作成の基礎</p> <p>8回 SPI対策(2) ・SPI非言語分野対策</p> <p>9回 キャリアデザイン(4): ナビ登録 ・就職ナビとは ・各種就職ナビへの登録</p> <p>10回 キャリアデザイン(5): SPI模試 ・SPI模試</p> <p>11回 キャリアデザイン(6): 一般常識模試 ・一般常識模試 ・学生大会の報告</p> <p>12回 グループディスカッション ・グループディスカッション: 就活を想定した具体的なテーマによるグループディスカッション</p> <p>13回 キャリアデザイン(7): ビジネスマナー ・就活に必要なビジネスマナー, 身だしなみ</p> <p>14回 キャリアデザイン(8): 試験結果報告 ・各種模試の結果報告 ・対策方法</p> <p>15回 まとめ ・全体のまとめ ・キャリアデザイン II について ・さらなるキャリアアップへ向けて</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。2)人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、それを解決するための工業技術、デザインの仕組みを理解することができる。(思考・判断)4)課題解決に向けて、協調的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる。(技能・表現)		
授業の到達目標	入社試験に必要な小論文指導、面談の対応を通して、大学生としての資質の向上を図る。 自己分析を通してエントリーシートの作成ができ、SPI試験等能力判定試験の向上も目標とする。		
指導方法	講義、フリーディスカッション、作文、模擬試験等を行う。また、随時、面談等を実施し、修学状況や進路等についての相談を行う。		
教科書・参考書	教科書:なし	適宜、資料を配布する。参考書:なし	
評価方法	レポート内容と提出状況:70%、受講態度30%を主とし、総合的に評価する。		
受講上の注意	3年生は選択であるが、就職に向けての目標や作文等の演習ができるので、履修することが望ましい。 また、限られた時間でレポートを作成すること。		
授業外における学習方法	レポート作成のための準備を各自、行って講義に望むこと。 希望する進路を早く見つけ、日頃から基礎学力の向上や自己PR等のコミュニケーション能力を養うように心掛ける。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類: - 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容: -		

授業年度	2017	シラバスNo	CE502E
講義科目名称	キャリアデザイン I		
英文科目名称	Career Design I		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1単位	選択
担当教員	石垣 充, 矢野 淳, 水野 貴博		
開講意義目的	2年次のキャリアプラン I、IIを受けて、自己の分析をさらに進め、習得した知識やスキルを活かしながら社会の中でいかに生きていくかを模索していくことが本講義の主たる目的である。つまり、自己を表現する方法や社会から求められるものを知るとともに、それに対処していくための基礎学力やコミュニケーション能力を養う。		
授業計画	<p>1回 ガイダンス 進路について 授業の進め方や就職や進学に対する今後の取り組みについての講話(業界研究)を行う。</p> <p>2回 スタートアップ導入 進路選択に関する指導等これから1年間でやるべきこと。SPI・一般常識の試験準備</p> <p>3回 上手な文章の書き方(1) 文章作成の指導を行う。 ボランティア活動及びひまわり駅伝の参加呼びかけ</p> <p>4回 インターンシップ インターンシップに関する説明</p> <p>5回 上手な文章の書き方(2) 文章作成の指導を行う。 学生大会の委任状配布及び回収(学生代表)</p> <p>6回 自己分析・自己PR インターンシップや就職活動の履歴書作成時に必要となる自己分析・自己PRの講座。文書作成の基礎</p> <p>7回 上手な文章の書き方(3) 文章作成の指導を行う。</p> <p>8回 ナビ登録 各業者(マイナビ・リクナビ・キャリアタス)ナビ登録を実施</p> <p>9回 SPI模試 SPI模試の実施</p> <p>10回 一般常識模試 一般常識模試の実施</p> <p>11回 SPI演習① SPI演習①(非言語、問題及び解説)</p> <p>12回 SPI演習② SPI演習②(非言語、問題及び解説)</p> <p>13回 ビジネスマナー 就職活動に必要な身だしなみ、立ち振る舞い等の指導</p> <p>14回 SPI演習③ SPI演習③(非言語、問題及び解説)</p> <p>15回 各種試験報告 SPI・一般常識の試験報告</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は、以下の教育目標との対応科目である。3) 専門的知識・技術の活用力 ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。4) 実務型技術者としての実践力 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。		
授業の到達目標	学生それぞれが将来の進路を定め、その目標に向かい前進するようになる事。		
指導方法	講義と演習を中心に行い、随時、面談等を実施し進路等についての相談を行う。授業計画に則り担当教員全員で指導する。		
教科書・参考書	参考書: 阪東恭一 これで突破!! 最強のSPI攻略1000題 2015年度版 新星出版社		
評価方法	レポートや感想文70%、SPI演習結果10%、受講態度20%として評価する。		
受講上の注意	選択科目であるが、すぐ間近に迫っている就職対策として重要な科目である。希望する企業に就職できるための基礎能力を得るためのものであり、各自の自覚が最も大切である。		
授業外における学習方法	指定した参考書を、授業計画に記載している内容に沿い事前に予習を行い十分に準備する事。 作文その他文章を作成する回についてはレポートとう作成のために十分準備を行い授業に臨むこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: あり 2. 能動的授業科目種類: グループワーク形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無: なし		

授業年度	2017	シラバスNo	CE502F
講義科目名称	キャリアデザイン I		
英文科目名称	Career Design I		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1単位	選択
担当教員	野崎, 中島, 宝珠山, 高柳, 内田, 宇佐		
開講意義目的	2年次のキャリアプラン I、IIを受けて、自己の分析をさらに進め、習得した知識やスキルを活かしながら社会の中でいかに生きていくかを模索していくことが本講義の主たる目的である。つまり、自己を表現する方法や社会から求められるものを知るとともに、それに対処していくための基礎学力やコミュニケーション能力を養う。		
授業計画	<p>1回 キャリアデザイン Iとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修ガイダンス(担当:野崎)602講義室集合</li> <li>開講意義・目的</li> <li>・講義の進め方、単位認定方法など</li> <li>・学修ポートフォリオの入力⇒504講義室</li> <li>・担当教員(6名)別の個人面談実施(担当:野崎、中島、宝珠、高柳、内田、宇佐)</li> <li>個人面談の結果を修学簿に記入する</li> </ul> <p>2回 キャリアデザイン(1):スタートアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア形成の必要性</li> </ul> <p>3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI等の準備</li> </ul> <p>キャリアデザイン(2):インターンシップに関する説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップの必要性</li> <li>インターンシップの手続き方法</li> </ul> <p>4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり駅伝告知(担当:学生代表)</li> </ul> <p>キャリアデザイン(3):自己分析・自己PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップや就職活動の履歴書の作成時に必要となる自己分析・自己PR</li> <li>・文書作成の基礎</li> </ul> <p>5回 外部講師の講話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講話(佐藤裕季子氏)</li> <li>レポートの作成と提出:講話内容をレポートにまとめ、提出する</li> <li>・体育祭告知(担当:学生代表)</li> </ul> <p>6回 SPI対策テスト(1)模試の実施と試験結果の解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI言語・非言語分野対策(担当:宇佐)</li> <li>模試の実施とその結果の解説</li> <li>・春季学生大会告知、委任状配布回収(担当:学生代表)</li> </ul> <p>7回 SPI対策テスト(2)模試の実施と試験結果の解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI言語・非言語分野対策(担当:高柳)</li> <li>模試の実施とその結果の解説</li> </ul> <p>8回 キャリアデザイン(4):ナビ登録 504講義室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職ナビとは</li> <li>各種就職ナビの登録</li> </ul> <p>9回 キャリアデザイン(5):SPI模試</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI模試の実施</li> </ul> <p>10回 キャリアデザイン(6):一般常識模試</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般常識模試の実施</li> <li>・学生大会の報告(担当:学生代表)</li> </ul> <p>11回 SPI対策テスト(3)模試の実施と試験結果の解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPI言語・非言語分野対策(担当:中島)</li> <li>模試並びに模試の解説</li> </ul> <p>12回 キャリアデザイン(7):ビジネスマナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動に必要なビジネスマナー、身だしなみ</li> </ul> <p>13回 個人面談実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回から第12回の講義を踏まえて、各担当教員(6名)との面談実施(担当:野崎、中島、宝珠、高柳、内田、宇佐)</li> <li>個人面談の結果を修学簿に記入する</li> </ul> <p>14回 キャリアデザイン(8):試験結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種模試の結果報告</li> <li>対策方法</li> </ul> <p>15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ</li> <li>・全体のまとめ(担当:野崎)</li> <li>・キャリアデザインの学習に対する感想文提出</li> </ul>		

教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は、以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>教養教育科目として</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力 ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p> <p>4) 実務型技術者としての実践力 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。</p> <p>情報デザイン学科として</p> <p>4) 実務型技術者としての実践力 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高</p>
授業の到達目標	<p>本講義では、就職を踏まえ、社会人力アップを図るための基礎的知識やコミュニケーション能力を身につける。さらに、就職についての心構えなどについて指導し、今後の進路選択に対し適切に対応できる能力を育成する。</p>
指導方法	<p>講義を中心に、随時、面談等を実施し進路等についての相談を行う。授業計画に則り担当教員全員(野崎、中島、宝珠山、高柳、内田、宇佐の計6名)で指導する。7グループに分けて、それぞれの教員が面談指導を行う。</p>
教科書・参考書	<p>教科書:なし。随時、資料配布</p> <p>参考書:阪東恭一著、「これで突破!!最強のSPI攻略1000題 2018年度版」、新星出版社</p>
評価方法	<p>下記、評価基準とする</p> <p>①講義での課題等の提出(2回)やSPI模試(3回)による評価(60%)</p> <p>②積極的な発言、講義姿勢などの総合的な評価(40%)</p>
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の最後に質問時間を設けるので、その場で解決すること。</li> <li>・オフィスアワー以外では、メールでの質問等を受け付ける。 eriko@nishitech.ac.jp(学生委員担当)</li> <li>・メールの件名は「学籍番号・氏名・受講科目名」を記載すること。</li> <li>・講義開始後30分以上の遅刻や無断で途中退室した場合は、欠席扱いとする。また、遅刻3回は欠席1回として扱う。</li> </ul>
授業外における学習方法	<p>第6回以降にSPI模試を複数回実施するため、指定したSPI対策用の参考書やそれに類似した書籍を購入し、事前に内容を把握しておくこと。</p> <p>また、就職活動を行うためには、社会動向を学習するために新聞等の記事を事前に読んでおくこと。</p>
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目:あり</p> <p>2. 地域志向科目:なし</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CE503A
講義科目名称	キャリアデザインⅡ		
英文科目名称	Career Design 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	中島 潤二, 高藤 圭一郎, 田代 武博, 瀬々 昌文		
開講意義目的	キャリアデザインⅠを受けて、自己の表現方法やコミュニケーション力の養成をさらに進め、キャリアの形成方法の習得をより確実にすることが本講義の主たる目的である。具体的には、コミュニケーション能力および協調・協同能力を着実に自分のものにした上で、専門性を活かしたキャリア形成能力を養う。キャリア教育の一環として、進路についての方針を決めその実現に向けての取り組みを指導する。さらに、就職活動や就職後に必要な基礎力の向上を目指す。そのために、就職に関する基礎知識を与える講義、SPI試験への対策、さらにコミュニケーション		
授業計画	<p>1回 キャリアデザインⅡとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修ガイダンス: 開講意義目的、講義の進め方、単位認定方法など</li> <li>キャリアデザインⅡの狙いと内容; キャリアデザインⅠとの関連</li> <li>グループ分け; グループディスカッションのためのグループ</li> </ul> <p>2回 学修に関する自己分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前学期の振り返り; 前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。</li> <li>学修ポートフォリオの入力</li> </ul> <p>3回 キャリアデザイン(1): 体験発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4年生による就職・進学活動体験の発表</li> </ul> <p>4回 SPI対策(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SPI言語分野対策</li> </ul> <p>5回 SPI対策(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SPI言語分野対策</li> </ul> <p>6回 キャリアデザイン(2): 就職のしおり・企業情報検索</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就活に当たっての手続き等の説明</li> <li>就職登録票の登録</li> <li>求人情報の検索の仕方</li> </ul> <p>7回 キャリアデザイン(3): エントリーシート1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エントリーシートおよび履歴書の作成方法</li> <li>エントリーシートの作成</li> </ul> <p>8回 外部講師の講話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による講話: 働くことの意義、関連技術の最新動向など</li> </ul> <p>9回 キャリアデザイン(4): グループディスカッション対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループディスカッションにおけるポイント、注意事項</li> <li>一般的なテーマによるグループディスカッションの実施</li> </ul> <p>10回 グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回グループディスカッションの反省点</li> <li>就活を想定した具体的なテーマによるグループディスカッションの実施</li> </ul> <p>11回 業界研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主な業界の動向</li> <li>業界研究のやり方</li> </ul> <p>12回 キャリアデザイン(5): 面接指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就活における面接対策とマナー指導</li> </ul> <p>13回 キャリアデザイン(6): エントリーシート2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エントリーシートの添削結果の報告</li> <li>エントリーシートの改善</li> </ul> <p>14回 自己分析・PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己分析を踏まえた自己PRの完成</li> <li>履歴書、エントリーシートの完成</li> </ul> <p>15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体のまとめ</li> <li>就活に向けて</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は、総合システム工学科のディプロマ・ポリシーに掲げている以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用。 ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p> <p>4) 実務型技術者としての実践力 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。</p>		
授業の到達目標	学生それぞれが将来の進路を決め、それに向かい進むことができるようになることを目標とすることができる。		
指導方法	グループあるいは個人別に指導を行い、積極性、企画力、社会性などを養うために学校行事への参加を働きかける。 修学状況や進路などの調査・アドバイスを行うために面談を実施する。 基礎力を養うためのSPIなどの演習も行う、必要に応じ特別講義を行う。		
教科書・参考書	<p>教科書: 必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考書: 特に指定しないが、「SPI攻略1000」などを購入し、自学自習することが望ましい。</p>		

評価方法	レポート、授業参加・学習態度、プレゼンテーションで総合的に評価する。 なお、欠席をした者に対しては、「授業に参加しない者は、授業で実施する特別講義・演習等を履修していない」と判断し、必要に応じ追加の課題を付与する。与えられた課題を提出しない者には原則単位を付与しない。
受講上の注意	この科目はガイダンス担当教員との接点となる科目であるから、他の科目と重複しない限り受講すること。
授業外における学習方法	講義前には、授業計画に記載している内容を確認しておくこと。 講義後には、講義でアドバイスされた内容を考え、実施してみること。 普段の生活の中で社会人とはどういふものか考える習慣をつけること。 授業に関する質問・疑問があれば、遠慮なく教授室のドアをたたくこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	1.能動的授業科目有無:有 2.能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング 3.地域志向科目有無:無 4.地域志向科目内容:-

授業年度	2017	シラバスNo	CE503B
講義科目名称	キャリアデザインⅡ		
英文科目名称	Career Design 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1単位	選択
担当教員	野中 智博		
開講意義目的	キャリアデザインⅡを受けて、自己の表現方法やコミュニケーション力の養成をさらに進め、キャリアの形成方法の習得をより確実にすることが本講義の主たる目的である。具体的には、コミュニケーション能力および協調・協同能力を着実に自分のものにした上で、専門性を活かしたキャリア形成能力を養う。		
授業計画	<p>1回 キャリアデザインⅡとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修ガイダンス;開講意義目的、講義の進め方、単位認定方法など</li> <li>キャリアデザインⅡの狙いと内容;キャリアデザインⅠとの関連</li> <li>グループ分け;グループディスカッションのためのグループ</li> </ul> <p>2回 学修に関する自己分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前学期の振り返り;前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。</li> <li>学修ポートフォリオの入力</li> </ul> <p>3回 キャリアデザイン(1):体験発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4年生による就職・進学活動体験の発表</li> </ul> <p>4回 SPI対策(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SPI言語分野対策</li> </ul> <p>5回 SPI対策(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SPI非言語分野対策</li> </ul> <p>6回 キャリアデザイン(2):就職のしおり・企業情報検索</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就活に当たっての手続き等の説明</li> <li>就職登録票の登録</li> <li>求人情報の検索の仕方</li> </ul> <p>7回 キャリアデザイン(3):エントリーシート1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エントリーシートおよび履歴書の作成法</li> <li>エントリーシートの作成</li> </ul> <p>8回 外部講師の講話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による講話;働くことの意義、関連技術の最新動向など</li> <li>レポートの作成と提出;講話内容をレポートにまとめ、提出する</li> </ul> <p>9回 キャリアデザイン(4):グループディスカッション対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループディスカッションにおけるポイント、注意事項</li> <li>一般的なテーマによるグループディスカッションの実施</li> </ul> <p>10回 グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回のグループディスカッションの反省点</li> <li>就活を想定した具体的なテーマによるグループディスカッションの実施</li> </ul> <p>11回 業界研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主な業界の動向</li> <li>業界研究のやり方</li> </ul> <p>12回 キャリアデザイン(5):面接指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就活における面接対策とマナー指導</li> </ul> <p>13回 キャリアデザイン(6):エントリーシート2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エントリーシートの添削結果の報告</li> <li>エントリーシートの改善</li> </ul> <p>14回 ??分析・PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>??分析を踏まえた??PRの完成</li> <li>履歴書、エントリーシートの完成</li> </ul> <p>15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体のまとめ</li> <li>就活に向けて</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>“本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p> <p>4) 実務型技術者としての実践力: 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。”</p>		
授業の到達目標	<p>①様々な進路について理解する</p> <p>②具体的な進路希望を確定する</p> <p>③自己分析、自己PRを行う能力を身に付ける</p> <p>④適性試験の能力および一般常識が向上する</p>		
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的に座学方式で指導し、適宜グループを組んでディスカッションを行う。</li> <li>エントリーシート作成や面接指導を行う。</li> </ul>		
教科書・参考書	<p>教科書:なし</p> <p>参考書:なし</p> <p>(適宜、資料を配布する)</p>		
評価方法	小テスト10%、レポート10%、授業参加・態度60%、その他(大学行事の参加、資格取得)20%		
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>本科目では工学の専門的な教授を行うことはないが、今後の進学・就職活動、卒業研究に関連する重要な科目であるため、積極的に受講すること。</li> </ul>		
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する調査をインターネットなどで適宜行うこと。</li> <li>適性試験や一般常識に関する参考書を用いて、授業外でも試験対策を行うこと。</li> <li>新聞などをよく読んで、社会情勢を把握すること。</li> <li>自らの長所・短所やPRポイントを把握すること。</li> </ul>		
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類:グループディスカッション、レポート・ライティング</p> <p>3. 地域志向科目有無:なし</p> <p>4. 地域志向科目内容:ー</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CE503C
講義科目名称	キャリアデザインⅡ		
英文科目名称	Career Design 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1単位	選択
担当教員	池田, 井上, 大木, 高城, 小田, 川島, 亀井, 武村, 及川, 新澤, 松崎, 眞田, 小畑		
開講意義目的	キャリアデザインⅡを受けて、自己の表現方法やコミュニケーション力の養成をさらに進め、キャリアの形成方法の習得をより確実にすることが本講義の主たる目的である。具体的には、コミュニケーション能力および協調・協同能力を着実に自分のものにした上で、専門性を活かしたキャリア形成能力を養う。		
授業計画	<p>1回 キャリアデザインⅡとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修ガイダンス; 開講意義目的, 講義の進め方, 単位認定方法など</li> <li>キャリアデザインⅡの狙いと内容; キャリアデザインⅠとの関連</li> <li>グループ分け; グループディスカッションのためのグループ</li> </ul> <p>2回 学修に関する自己分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前学期の振り返り; 前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。</li> <li>学修ポートフォリオの入力</li> </ul> <p>3回 キャリアデザイン(1): 体験発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4年生による就職・進学活動体験の発表</li> </ul> <p>4回 SPI対策(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SPI言語分野対策</li> </ul> <p>5回 SPI対策(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SPI非言語分野対策</li> </ul> <p>6回 キャリアデザイン(2): 就職のしおり・企業情報検索</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就活に当たっての手続き等の説明</li> <li>就職登録票の登録</li> <li>求人情報の検索の仕方</li> </ul> <p>7回 キャリアデザイン(3): エントリーシート1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エントリーシートおよび履歴書の作成法</li> <li>エントリーシートの作成</li> </ul> <p>8回 外部講師の講話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による講話; 働くことの意義, 関連技術の最新動向など</li> <li>レポートの作成と提出; 講話内容をレポートにまとめ, 提出する</li> </ul> <p>9回 キャリアデザイン(4): グループディスカッション対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループディスカッションにおけるポイント, 注意事項</li> <li>一般的なテーマによるグループディスカッションの実施</li> </ul> <p>10回 グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回のグループディスカッションの反省点</li> <li>就活を想定した具体的なテーマによるグループディスカッションの実施</li> </ul> <p>11回 業界研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主な業界の動向</li> <li>業界研究のやり方</li> </ul> <p>12回 キャリアデザイン(5): 面接指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就活における面接対策とマナー指導</li> </ul> <p>13回 キャリアデザイン(6): エントリーシート2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エントリーシートの添削結果の報告</li> <li>エントリーシートの改善</li> </ul> <p>14回 自己分析・PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己分析を踏まえた自己PRの完成</li> <li>履歴書, エントリーシートの完成</li> </ul> <p>15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体のまとめ</li> <li>就活に向けて</li> </ul>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>3) 専門的知識・技術の活用力: ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p> <p>4) 実務型技術者としての実践力: 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。</p>		
授業の到達目標	<p>①様々な進路について理解する</p> <p>②具体的な進路希望を確定する</p> <p>③自己分析, 自己PRを行う能力を身に付ける</p> <p>④適性試験の能力および一般常識が向上する</p>		
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的に座学方式で指導し, 適宜グループを組んでディスカッションを行う。</li> <li>エントリーシート作成や面接指導を行う。</li> </ul>		
教科書・参考書	<p>教科書: なし</p> <p>参考書: なし</p> <p>(適宜, 資料を配布する)</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価の比率は, 提出物(4回程度)50%, 授業参加・態度: 50%とする。</li> </ul>		
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>本科目では工学の専門的な教授を行うことはないが, 今後の進学・就職活動, 卒業研究に関連する重要な科目であるため, 積極的に受講すること。</li> <li>またオフィスアワー以外でも, 研究室(大木: D506, 眞田: D410, 池田: D511)にて質問を受け付ける。</li> </ul>		
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する調査をインターネットなどで適宜行うこと。</li> <li>適性試験や一般常識に関する参考書を用いて, 授業外でも試験対策を行うこと。</li> <li>新聞などをよく読んで, 社会情勢を把握すること。</li> <li>自らの長所・短所やPRポイントを把握すること。</li> </ul>		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無: あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類: グループディスカッション, レポート・ライティング</p> <p>3. 地域志向科目有無: なし</p> <p>4. 地域志向科目内容: -</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CE503D
講義科目名称	キャリアデザインⅡ		
英文科目名称	Career Design 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1単位	選択
担当教員	河野 雅也、山本 健太郎		
開講意義目的	キャリアデザインⅠを受けて、自己の表現方法やコミュニケーション力の養成をさらに進め、キャリアの形成方法の習得をより確実にすることが本講義の主たる目的である。具体的には、コミュニケーション能力および協調・協同能力を着実に自分のものにした上で、専門性を活かしたキャリア形成能力を養う。		
授業計画	<p>1回 キャリアデザインⅡとは ・履修ガイダンス:開講意義目的、講義の進め方、単位認定方法など ・キャリアデザインⅡの狙いと内容:キャリアデザインⅠとの関連</p> <p>2回 学修に関する自己分析 ・前学期の振り返り、前学期における履修状況と学修への取り組み姿勢を振り返ってみる。 ・学修ポートフォリオの入力</p> <p>3回 キャリアデザイン(1):体験発表 ・4年生による就職・進学活動体験の発表</p> <p>4回 SPI対策(1) ・SPI言語分野対策</p> <p>5回 SPI対策(2) ・SPI非言語分野対策</p> <p>6回 キャリアデザイン(2):就職のしおり・企業情報検索 ・就活に当たっての手続き等の説明 ・就職登録票の登録 ・求人情報の検索の仕方</p> <p>7回 キャリアデザイン(3):エントリーシート1 ・エントリーシートおよび履歴書の作成方法 ・エントリーシートの作成</p> <p>8回 外部講師の講話 ・外部講師による講話:働くことの意義、関連技術の最新動向など ・レポートの作成と提出:講話内容をレポートにまとめ、提出する。</p> <p>9回 キャリアデザイン(4):グループディスカッション対策 ・グループディスカッションにおけるポイント、注意事項 ・一般的なテーマによるグループディスカッションの実施</p> <p>10回 グループディスカッション ・前回グループディスカッションの反省点 ・就活を想定した具体的なテーマによるグループディスカッションの実施</p> <p>11回 業界研究 ・主な業界の動向 ・業界研究のやり方</p> <p>12回 キャリアデザイン(5):面接指導 ・就活における面接対策とマナー指導</p> <p>13回 キャリアデザイン(6):エントリーシート2 ・エントリーシートの添削結果の報告 ・エントリーシートの改善</p> <p>14回 自己分析・PR ・自己分析を踏まえた自己PRの完成 ・履歴書、エントリーシートの完成</p> <p>15回 まとめ ・全体のまとめ ・就活に向けて</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。2)人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、それを解決するための工業技術、デザインの仕組みを理解することができる。(思考・判断)4)課題解決に向けて、協調的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる。(技能・表現)		
授業の到達目標	入社試験に必要な小論文指導、面談の対応を通して、大学生としての資質の向上を図る。 自己分析を通してエントリーシートの作成ができ、SPI試験等能力判定試験の向上も目標とする。		
指導方法	講義、フリーディスカッション、作文、模擬試験等を行う。また、随時、面談等を実施し、修学状況や進路等についての相談を行う。		
教科書・参考書	教科書:なし	適宜、資料を配布する。参考書:なし	
評価方法	レポート内容と提出状況:70%、受講態度30%を主とし、総合的に評価する。		
受講上の注意	3年生は選択であるが、就職に向けての目標や作文等の演習ができるので、履修することが望ましい。 また、限られた時間でレポートを作成すること。		
授業外における学習方法	レポート作成のための準備を各自、行って講義に望むこと。 希望する進路を早く見つけ、日頃から基礎学力の向上や自己PR等のコミュニケーション能力を養うように心掛ける。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:－ 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:－		

授業年度	2017	シラバスNo	CE503E
講義科目名称	キャリアデザインⅡ		
英文科目名称	Career Design 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1単位	選択
担当教員	石垣 充, 矢野 淳, 水野 貴博		
開講意義目的	キャリアデザインⅠを受けて、自己の表現方法やコミュニケーション力の養成をさらに進め、キャリアの形成方法の習得をより確実にすることが本講義の主たる目的である。具体的には、コミュニケーション能力および協調・協同能力を着実に自分のものにした上で、専門性を活かしたキャリア形成能力を養う。		
授業計画	<p>1回 ガイダンス 進路について 授業の進め方や就職や進学に対する今後の取り組みについての講話(業界研究)を行う。</p> <p>2回 就職のしおり・企業情報検索 就職活動における手続方法等についてしおりを用いて説明。就職進学活動に必要な登録票の作成(Web入力)および求人情報検索についての説明</p> <p>3回 上手な文章の書き方(1) 文章作成の指導を行う。 ボランティア活動及びひまわり駅伝の参加呼びかけ</p> <p>4回 SPI模擬試験 SPI模擬試験を行う。</p> <p>5回 エントリーシート作成 エントリーシート、履歴書作成指導</p> <p>6回 インターンシップ説明 SPI演習① インターンシップの説明を行う。 SPI演習(非言語、問題及び解説)を行う。</p> <p>7回 面接指導 面接、マナー指導</p> <p>8回 SPI演習② SPI演習(非言語、問題及び解説)を行う。 学生大会の告知(学生代表)</p> <p>9回 グループディスカッション対策 グループディスカッション指導</p> <p>10回 SPI演習③ SPI演習(非言語、問題及び解説)を行う。 学生大会の報告(学生代表)</p> <p>11回 体験発表 4学生による就職進学活動体験発表</p> <p>12回 エントリーシート作成・面接指導 エントリーシート作成指導・面接指導を行う。</p> <p>13回 エントリーシート作成2 エントリーシートの添削報告</p> <p>14回 SPI演習④ ガイダンス① SPI演習(非言語、問題及び解説)を行う。 ガイダンス(個人面談)を行う。</p> <p>15回 SPI演習⑤ ガイダンス② SPI演習(非言語、問題及び解説)を行う。 ガイダンス(個人面談)を行う。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は、以下の教育目標との対応科目である。3)専門的知識・技術の活用力 ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。4)実務型技術者としての実践力 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。		
授業の到達目標	学生それぞれが将来の進路を定め、その目標に向かい前進するようになる事。		
指導方法	講義と演習を中心に行い、随時、面談等を実施し進路等についての相談を行う。授業計画に則り担当教員全員で指導する。		
教科書・参考書	参考書: 阪東恭一 これで突破!!最強のSPI攻略1000題 2015年度版 新星出版社		
評価方法	レポートや感想文70%、SPI演習結果10%、受講態度20%として評価する。		
受講上の注意	選択科目であるが、すぐ間近に迫っている就職対策として重要な科目である。希望する企業に就職できるための基礎能力を得るためのものであり、各自の自覚が最も大切である。		
授業外における学習方法	指定した参考書を、授業計画に記載している内容に沿い事前に予習を行い十分に準備する事。 作文その他文章を作成する回についてはレポートとう作成のために十分準備を行い授業に臨むこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング 3. 地域志向科目有無:なし		

授業年度	2017	シラバスNo	CE503F
講義科目名称	キャリアデザインⅡ		
英文科目名称	Career Design 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1単位	選択
担当教員	野崎, 中島, 宝珠山, 趙, 浜地, 高柳, 竹中, 内田, 宇佐		
開講意義目的	キャリアデザインⅡでは、自己の表現方法やコミュニケーションの養成をさらに進め、キャリアの形成方法の習得をより確実にすることが本講義の主たる目的である。具体的には、コミュニケーション能力および協調・協同能力を着実に自分のものにした上で、専門性を活かしたキャリア形成能力を養う。		
授業計画	<p>1回 キャリアデザインⅡとは ・履修ガイダンス(担当:野崎) 開講意義・目的 ・講義の進め方、単位認定方法など(担当:学生委員)  ・学修ポートフォリオの入力</p> <p>2回 個人面談実施 ・担当教員(9名)別の個人面談実施(担当:野崎、中島、趙、宝珠山、浜地、高柳、竹中、内田、宇佐) 個人面談の結果を修学簿に記入</p> <p>3回 SPI対策(1)模試の実施と試験結果の解説 ・SPI言語・非言語分野対策(担当:宝珠山) 模試並びに模試の解説</p> <p>4回 キャリアデザイン(1):体験発表(全員) ・4年生による就職・進学活動体験談の発表</p> <p>5回 外部講師の講話(全員) ・外部講師による講話:働くことの意義など レポートの作成と提出:講話内容をレポートにまとめ、提出する</p> <p>6回 キャリアデザイン(3):エントリーシート1 ・エントリーシートおよび履歴書の作成方法 ・エントリーシートの作成</p> <p>7回 キャリアデザイン(2):就職のしおり・企業情報検索 ・就活に当たっての手続き等の説明 ・就職登録票の登録 ・求人情報の検索の仕方</p> <p>8回 エントリーシート完成(各卒研別) ・エントリーシートの作成 ・担当教員(9名)別実施(担当:野崎、中島、趙、宝珠山、浜地、高柳、竹中、内田、宇佐)</p> <p>9回 SPI対策(2)模試の実施と試験結果の解説 ・SPI非言語分野対策(担当:浜地) 模試並びに模試の解説</p> <p>10回 キャリアデザイン(4):面接指導 ・就職活動における面接対策とマナー指導</p> <p>11回 キャリアデザイン(5):エントリーシート2 ・エントリーシートの添削結果の報告 ・エントリーシートの改善</p> <p>12回 キャリアデザイン(6):グループディスカッション対策 ・グループディスカッション指導</p> <p>13回 キャリアデザイン(7):業界研究(全員) ・次週開催する業界セミナーの企業概要他の調査 各担当教員(9名)別に分かれて、企業研究並びに個人面談を実施 (担当:野崎、中島、趙、宝珠山、浜地、高柳、竹中、内田、宇佐)</p> <p>14回 キャリアデザイン(8):業界研究セミナー(全員) ・企業を招聘してのブース形式での説明会(担当:野崎、中島、趙、宝珠山、浜地、高柳、竹中、内田、宇佐)</p> <p>15回 まとめ(全員) ・全体のまとめ(担当:野崎) ・キャリアデザインの学習に対する感想文提出</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は、以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>教養教育科目として 3)専門的知識・技術の活用力 ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用することができる。</p> <p>4)実務型技術者としての実践力 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。</p> <p>情報デザイン学科として 3)専門的知識・技術の活用力 ものづくりやデザインなどに関する基礎知識・応用技術を人間社会における諸課題の解決に活用</p>		
授業の到達目標	<p>本講義では、実社会で求められる文書作成能力やコミュニケーション能力等社会人基礎力の育成を行う。</p> <p>具体的には、履歴書の作成や面接指導を通じて、就職活動で求められる基礎的な知識を理解し習得する。</p>		
指導方法	<p>講義を中心に行い、随時、面談等を実施し進路等についての個人面談を行う。授業計画に則り担当教員全員(野崎、中島、宝珠山、趙、浜地、高柳、竹中、内田、宇佐の計9名)で指導する。9グループに分けて、それぞれの教員が面談指導を行う。</p>		

教科書・参考書	教科書:なし。随時、資料を配布 参考書:阪東恭一著、「これで突破!!最強のSPI攻略1000題 2018年度版」、新星出版社
評価方法	下記、評価基準とする ①講義での課題等(2回)と模試(3回)による評価(60%) ②積極的な発言、講義姿勢などの総合的な評価(40%)
受講上の注意	・講義の最後に質問時間を設けるので、その場で解決すること。 ・オフィスアワー以外では、メールでの質問等を受け付ける。 eriko@nishitech.ac.jp(学生委員担当) メールの件名は「学籍番号・氏名・受講科目名」を記載すること。 ・講義開始後30分以上の遅刻や無断で途中退室した場合は、欠席扱いとする。また、遅刻3回は欠席1回として扱う。
授業外における学習方法	SPI模試を複数回実施するため、指定したSPI対策用の参考書やそれに類似した書籍を購入し、事前に内容を把握しておくこと。 また、就職活動を行うためには、社会動向を学習するために新聞等の記事を事前に読んでおくこと。
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:- 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:-

授業年度	2017	シラバスNo	CF101A
講義科目名称	経営学概論		
英文科目名称	Introduction to Management		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前:D学部、後:工学部	1年	2単位	選択
担当教員	宇佐 圭司		
開講意義目的	経営学は「企業」という特定の領域を対象とする学問である。現代では企業が私たちの日常生活に及ぼす影響力は非常に強くなってきた。つまり企業の影響を顕著に受けている「企業社会」において、企業経営について学ぶことは社会を学ぶことにも通ずる。この講義では、経営学の三大要素である「経営組織論」「経営管理論」「経営戦略論」を学ぶことで、個人や組織、社会全体のあり方を考えていく。また、会計知識の基礎について学び、エンジニア、デザイナーとして働く際に必要となる顧客との対応や自社業務の理解を深めていく。		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション イントロダクションとして、経営学を学ぶ意義や、学習方法、講義の概要等を紹介、説明する。</p> <p>第2回 企業の特徴 経営学が対象とする企業について、最新の事例や取組を紹介しながら考察をしていく。</p> <p>第3回 株式会社の特徴と仕組み 株式会社の成り立ちと特徴、およびそれを形成する機関について紹介する。</p> <p>第4回 所有と経営の分離 パリーとミーンズによる経営者支配論や、パーナムらによる経営者革命論について解説し、日本と欧米による経営についての違いや、ガバナンス論について解説を行う。</p> <p>第5回 簿記の基礎理論1 簿記の意義と基礎理論を解説し、一連のプロセスについて紹介する。</p> <p>第6回 簿記の基礎理論2 仕訳、転記、試算表などの一連のプロセスに関わる作成作業の解説と実施を行う。</p> <p>第7回 財務諸表を読む 貸借対照表、損益計算書の見方について解説し、財務諸表を通して企業活動を考察する手法を解説する。</p> <p>第8回 中間試験、試験内容の解説 中間試験およびその解説、また講義で最も重要な点について再度説明する。</p> <p>第9回 原価計算1 原価計算の基礎理論を解説し、一連のプロセスについて紹介する。</p> <p>第10回 原価計算2 材料費、労務費等のデータを示し、原価計算表の作成作業の解説と実施を行う。</p> <p>第11回 経営分析 財務諸表、原価計算の基礎知識を基にした経営分析手法の解説を行う。主に、損益分岐点、安全性、効率性、収益性などの視点から分析を行う。</p> <p>第12回 経営管理論 科学的管理法からの発展した行動科学と統合理論、コンティジェンシー理論への移行について解説を行う。</p> <p>第13回 経営組織論 経営組織の特徴とその理論についての解説を行う。</p> <p>第14回 経営戦略論 経営戦略論について、PLC、PPM、市場地位別戦略などの解説を行う。</p> <p>第15回 期末試験、試験内容の解説 期末試験およびその解説、また講義で最も重要な点について再度説明する。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。 4) 実務型技術者としての実践力: 工業技術やデザインの人間社会への寄与を正しく理解し、システムやプロダクトの付加価値を高める工夫により地域社会に貢献することができる。”		
授業の到達目標	経営学の三本柱である経営組織論、経営管理論、経営戦略論を理解し、現在の日本企業の経営課題をグローバルな市場のなかで勝ち抜くための戦略の基礎を理解できる。		
指導方法	講義形式で行う。主に、パワーポイントによるスライドを用い、講義を進めていく。 また、前回内容の理解を確かめながら授業を進めていくために、毎週の授業の始めに前回内容についての確認を行い、複数回のレポート提出を実施する。		
教科書・参考書	教科書:なし 参考書:適宜講義内で紹介する		
評価方法	評価は、レポート20%、中間・期末試験80%により評価する。		
受講上の注意	講義の最後に質問の時間を設けるので、わからないところがあるときはその場で解決すること。 また、オフィスアワー以外では、メールで質問等を受け付ける。 usa@nishitech.ac.jp メールの件名は「学籍番号 氏名 受講科目名」を記載のこと。 授業開始後30分以上の遅刻や無断で途中退室した場合は、欠席扱いとする。また遅刻2回は欠席1回として扱う。		
授業外における学習方法	講義で使用するスライドは、Moodleに掲載しているため、事前に目を通しておくこと。 復習は、講義で扱った内容を確認し、ノートで確認すること。		
能動的授業科目及び地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:— 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:—		

授業年度	2017	シラバスNo	CF102A
講義科目名称	情報リテラシー		
英文科目名称	Information Literacy		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	山本 俊朗		
開講意義目的	現代社会生活において、携帯電話・PDAなどの情報端末を使った通信、Web閲覧、日常生活から仕事上パソコンによる文書作成、発表、資料解析まで、情報処理に関連する基本操作は欠かせない技能の一つとなる。本講義は、世界中もっとも普及しているビジネス用アプリケーションソフトウェアのMicrosoft Officeを使用して、情報処理の基礎を解説し、文書処理、表計算の応用およびプレゼンテーションスライドの作成に必要な能力を習得する。		
授業計画	1回	オリエンテーション 本講義の意義、内容および進め方についての説明 word,Excel,PowerPointの保有スキルについてアンケート調査 PPにて、講師の学生生活の体験についてプレゼンテーション	
	2回	Word実習(基本操作) 文例(建学の精神)を題材にWordの基本操作を修得する。	
	3回	Word実習(詳細機能) フォント、段落、画像の取り込みなどを修得する。	
	4回	Word実習(応用操作) 履歴書の作成により実用的なWordの利用を修得する。	
	5回	Excel実習(基本操作) スコアボードを題材にExcelの基本操作を修得する。	
	6回	Excel実習(詳細機能) スコアボードを題材に詳細機能を修得する。 複数シートの連結などの実用的な機能を修得する。	
	7回	Excel実習(応用操作) スコアボードを完成させる。 九州地区大学野球の試合結果をネットより入手しより実用的な実習を行う。	
	8回	PowerPoint実習(基本操作) 文例(建学の精神)を題材にPowerPointの基本操作を修得する。	
	9回	PowerPoint実習(詳細機能) 自己紹介のスライドを作成し、詳細機能を修得する。 グーグルマップの画像などを使用し、著作権などの取り扱いの知識も得る。	
	10回	PowerPoint実習(応用操作) 自己紹介のスライドを作成し、応用操作を修得する。 自己紹介のプレゼンテーションを行い、プレゼン技術を修得する。	
	11回	プレゼンテーションの高度化 PowerPoint,Excel,Wordの組み合わせた活用法を修得する。	
	12回	プレゼンテーションの実習 PowerPointによる個人発表を体験する。	
	13回	レポートの準備作業 レポート要件の説明と作成の準備作業	
	14回	まとめ 本講義全体のまとめとレポート要件の討議	
	15回	レポート提出 レポート提出とコメント	
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。 2)創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。		
授業の到達目標	(1)情報社会に必要な情報処理に関する基礎的な知識を習得する。 (2)使用頻度がもっとも高いMicrosoft Officeの操作方法をマスターする。		
指導方法	パソコンによる操作を中心にして講義を行う。		
教科書・参考書	教科書: 今すぐ使えるかんたん Word & Excel & PowerPoint [Office 2016 対応版] 技術評論社 参考書: 必要に応じ資料を配布する。		
評価方法	評価項目は、レポート(50%)、成果発表(25%)、授業参加・態度(25%)とする。		
受講上の注意	・本科目は、中学校一種免許状(数学)と高等学校一種免許状(数学)と高等学校一種免許状(工業)と高等学校一種免許状(情報)の教養に関する科目の中で「情報機器の操作」区分の必修科目に該当する。 ・オフィスアワー: 授業終了後に教室で質問を受け付ける、又は、随時電子メールで質問を受け付ける。 メールの件名は「学籍番号 氏名 受講科目名」を記載のこと。 ya_ya.yamamoto@nifty.com		
授業外における学習方法	情報科学センターのパソコンを利用して演習時間を確保し、講義した内容をほかの授業のレポートや報告書または日常生活の情報処理に積極的に応用すること。		

能動的授業科目及び 地域志向科目	身に着けた情報リテラシーの活用をグループワークにより実践する。 1. 能動的授業科目有無:あり 2. 能動的授業科目種類:PowerPointによる意見発表のグループワーク 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー
---------------------	---

授業年度	2017	シラバスNo	CF102C
講義科目名称	情報リテラシー		
英文科目名称	Information Literacy		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	水戸 三千秋		
開講意義目的	パソコンを勉学や研究の道具として活用するための基本的なアプリケーションソフトの利用法について修得する。 具体的には、日本語ワードプロセッサWord、表計算ソフトExcelの基本操作について学ぶ。		
授業計画	<p>1回 パソコンの基本操作 パソコンのハードウェアと機器の取り扱いについて</p> <p>2回 Windowsの基本操作と文字入力 Windowsの要素(デスクトップ、ドライブ、フォルダファイル、アイコン、ショートカットなど)、 Windowsの基本的な操作、文字入力、カナ漢字変換、マウス操作、キーボードショートカット</p> <p>3回 インターネットの利用 WWWブラウザの操作とインターネット情報検索</p> <p>4回 日本語ワープロWord: 1 文章の入力と整形</p> <p>5回 日本語ワープロWord: 2 書式設定と画像貼付</p> <p>6回 日本語ワープロWord: 3 箇条書きと段組</p> <p>7回 日本語ワープロWord: 4 表と作図</p> <p>8回 表計算Excel: 1 セルへのデータ入力と書式設定</p> <p>9回 表計算Excel: 2 数式とセルの参照</p> <p>10回 表計算Excel: 3 関数の利用</p> <p>11回 表計算Excel: 4 データベース機能: ソートと抽出</p> <p>12回 表計算Excel: 5 データのグラフ表示</p> <p>13回 WordとExcelの連携 オブジェクトのコピー&amp;貼り付け</p> <p>14回 オンラインソフトの活用 オンラインソフトの紹介と利用法について</p> <p>15回 まとめ 講義のまとめと提出レポートの最終評価について</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>2) 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、それを解決するための工業技術、デザインの仕組みを理解することができる。(思考・判断)</p> <p>4) 課題解決に向けて、協調的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる。(技能・表現)</p>		
授業の到達目標	<p>1. パソコンの基本的な操作ができるようになる。</p> <p>2. Wordで簡単なレポート等が作成できるレベルの文書処理能力を身につける。</p> <p>3. Excelで実験レポート作成に必要なレベルのデータ処理やグラフ表示ができるようになる。</p>		
指導方法	<p>ほぼ毎回の授業で、最初に30分程度を課題と必要な操作について説明し、その後30分程度で完成するレベルのレポートを課す。 各自レポートを作成し印刷し提出する。</p>		
教科書・参考書	<p>教科書: 無し。課題とその説明文書や必要な素材は、学内ネットワークを通じて公開する。</p> <p>参考書: (授業では直接使用しないので必ずしも購入の必要はない)</p> <p>1. 「情報リテラシー 入門編」 FOM出版</p> <p>2. 「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013」実教出版</p>		
評価方法	<p>課題ごとのレポートで評価する(100%)。</p>		
受講上の注意	<p>カナ漢字変換など高校で習得しておくべき基本的なパソコン操作については事前に予習しておくこと。</p> <p>教職関係: 本科目は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教養に関する科目の「情報機器の操作」区分の必修科目に該当する。</p> <p>オフィスアワー: 授業終了後に教室にて質問を受け付ける。</p>		
授業外における学習方法	<p>パソコン利用技術は積み重ねであるので、毎週2時間以上の自習時間を前回の復習等に当てて勉強しておくこと。</p>		
能動的授業科目及び地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無: あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類: 学生自らが考え取組むアクティブラーニング</p> <p>3. 地域志向科目有無: なし</p> <p>4. 地域志向科目内容: -</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CF102D
講義科目名称	情報リテラシー		
英文科目名称	Information Literacy		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	濱本 朋久		

開講意義目的	Windowsをオペレーティング・システムとしたパーソナルコンピュータの基本操作と日本語の入力方法、インターネットの利用方法を習得する。次いで、Word、Excel、Power Pointの基礎的な利用方法を習得することが本授業の目的である。		
授業計画	1回	コンピュータの基礎(1) ・ガイダンス ・工学分野における情報処理の概要 ・ハードウェアの概論	
	2回	コンピュータの基礎(2) ・ソフトウェアの概論 ・PCの基本原理 ・PCの基本操作 ・演習15分	
	3回	Windowsの基礎(1) ・Windowsとは ・Windowsの起動と終了 ・マウスとキーボードの効率的な使用方法 ・演習15分	
	4回	Windowsの基礎(2) ・デスクトップとタスクバー ・Windowsの基本操作 ・演習15分	
	5回	アプリケーションの役割 ・インターネットとは ・インターネットメールの概要 ・メール受送信演習 ・演習15分	
	6回	インターネット(2) ・ブラウザの概要 ・ブラウザ演習 ・Gメール ・演習15分	
	7回	Wordの操作(1) ・Wordの起動と終了 ・日本語入力の原理 ・IMEの起動と操作方法 ・英数字とカタカナの入力方法 ・かな漢字交じり文の作成 ・記号の入力方法 ・演習30分	
	8回	Wordの操作(2) ・ページ設定 ・フォントの設定 ・文字の配置 ・演習30分	
	9回	Wordの操作(3) ・罫線の作成 ・文章ファイルの保存 ・文章の印刷 ・演習30分	
	10回	Wordを用いたタイピングテスト ・Wordによる英文入力 ・Wordによる和文入力	
	11回	Excelの操作(1) ・Excelの起動と終了 ・簡単な表の作成 ・セルへの日本語入力 ・連続データの入力 ・行の移動と削除 ・文字サイズと配置の変更 ・演習45分	
	12回	Excelの操作(2) ・セルを使った計算 ・セルの結合 ・ブックの保存 ・表の印刷 ・演習45分	
	13回	Excelの操作(3) ・簡単なグラフの作成 ・グラフウザード ・位置とサイズの変更 ・課題による計算と作図演習 ・演習45分	
	14回	Power Pointの操作(1)	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Power Pointの起動と終了</li> <li>・スライドの作成</li> <li>・デザインテンプレート</li> <li>・マスタスライド</li> <li>・新規スライドの挿入</li> <li>・演習30分</li> </ul> <p>15回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Power Pointの操作(1)</li> <li>・グラフの挿入</li> <li>・画像データの挿入</li> <li>・ファイルの保存</li> <li>・スライドと配布資料の印刷</li> <li>・課題pptファイルの作成</li> <li>・演習30分</li> </ul>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は、以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>2) 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、それを解決するための工業技術、デザインの仕組みを理解することができる。(思考・判断)</p> <p>4) 課題解決に向けて、協動的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる。(技能・表現)</p>
授業の到達目標	<p>パソコンの基本操作技術とインターネットが利用できる。</p> <p>Word、Excel、Power Pointの基礎的な利用方法を習得する。</p>
指導方法	<p>講義とパソコン演習を組み合わせた形式で行う。</p> <p>演習は情報科学センターに設置されているパーソナルコンピュータを使って行う。</p> <p>適宜、レポートやFDの提出を求める。</p>
教科書・参考書	<p>教科書:「Word2013 Excel2013 PowerPoint2013ステップアップラーニング 技術評論社、定平 誠」</p> <p>参考書:なし</p>
評価方法	<p>定期試験・タイピングテスト70%、受講態度10%、演習レポート・課題のFD提出20%で評価する。</p> <p>3回以上欠席の場合、定期試験の受験を認めない。</p> <p>毎週、教科書を持参すること。</p>
受講上の注意	<p>全てのレポートを提出しなければならない。</p> <p>授業内容に関する質問などは随時、研究室に来室のこと。</p> <p>教職関係:本科目は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教養に関する科目の「情報機器の操作」区分の必修科目に該当する。</p>
授業外における学習方法	<p>次週の授業内容について、教科書を読んで予習すること。</p> <p>英文・和文のタイピングテストは、それぞれ合格ボーダーを設けるので、履修時間外に練習すること。</p>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:無し</p> <p>2. 能動的授業科目種類: -</p> <p>3. 地域志向科目有無:無し</p> <p>4. 地域志向科目内容: -</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CF102E
講義科目名称	情報リテラシー		
英文科目名称	Information Literacy		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	選択
担当教員	平川 美穂		
開講意義目的	<p>本講義では、インターネット/Microsoft Word / Excel / PowerPoint の基礎実習を通して、情報を適切に活用するための知識や技能を養う。</p> <p>学校生活でのレポート作成や、情報化社会の中で今後必須となるITスキル基礎を習得することを目的としている。</p>		
授業計画	<p>第1回 初回オリエンテーションとWindows基礎 ・初回オリエンテーション ・情報化社会のモラルとセキュリティ ・タイピング練習</p> <p>第2回 Windows基礎とMicrosoft Word 2013基礎 ・Webによるコミュニケーション ・Windows基礎 ・タイピング練習 ・Microsoft Wordの特徴と基本的な文書作成</p> <p>第3回 Microsoft Word 2013基礎 ・タイピング練習 ・文書に図や表の挿入 ・表現力をアップする機能 (ワードアートの挿入など)</p> <p>第4回 Microsoft Word 2013基礎 ・タイピング練習 ・ビジネス文書とは ・課題作成</p> <p>第5回 Microsoft Word 2013総合 ・タイピング練習 ・課題作成</p> <p>第6回 Microsoft Word 2013総合 ・タイピング練習 ・課題作成と提出</p> <p>第7回 Microsoft Excel 2013基礎 ・Excelの特徴と基本操作および表作成 ・四則演算</p> <p>第8回 Microsoft Excel 2013基礎 ・四則演算と関数 ・表の編集 ・ページ設定、印刷の設定</p> <p>第9回 Microsoft Excel 2013基礎 ・グラフの作成</p> <p>第10回 Microsoft Excel 2013基礎 ・データベース機能</p> <p>第11回 Microsoft Excel 2013総合 ・Excelまとめと小テストおよび解説</p> <p>第12回 Microsoft PowerPoint2013基礎 ・PowerPointの特徴とプレゼンテーションの作成 ・オブジェクトの利用</p> <p>第13回 Microsoft PowerPoint2013基礎 ・プレゼンテーションの基本と流れ ・他のアプリケーションのデータ利用 ・課題作成のためのインターネットを利用した情報収集</p> <p>第14回 Microsoft PowerPoint2013演習 ・テーマに応じたプレゼンテーション課題作成</p> <p>第15回 Microsoft PowerPoint2013演習 ・プレゼンテーションの課題作成と発表(作成したデータおよび配布資料は提出)</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1) 豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、 目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。</p> <p>2) 創意工夫力・問題解決力: 人間社会における諸問題の原因を追究、発見し、工業技術やデザインの仕組みを理解した上で課題解決に取り組むことができる。</p>		
授業の到達目標	<p>1.情報社会におけるルールやマナーなどの情報モラルを身に付けるとともに、具体的な対策を含めた情報セキュリティについて理解する。</p> <p>2.Microsoft Word2013を活用し一般的なビジネス文書やレポートを効率的に作成することが出来る。</p> <p>3.Microsoft Excel2013を活用し表計算や関数・グラフの作成が出来る。</p> <p>4.Microsoft PowerPoint2013を活用しプレゼンテーションを作成、発表することが出来る。</p>		
指導方法	講義・演習問題・課題作成実習		
教科書・参考書	教科書:情報リテラシー入門編【FOM出版】 参考書:なし		
評価方法	小テスト(35%)、作品(Word / PowerPoint)(35%)、授業参加・態度(30%)		

<p>受講上の注意</p>	<p>教職関係:本科目は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業又は情報)の教養に関する科目の「情報機器の操作」区分の必修科目に該当する。</p> <p>オフィスアワー:授業終了後に教壇で質問を受け付ける</p> <p>※遅刻については授業開始後10分以上、並びに途中退出の場合には、欠席扱いとする</p>
<p>授業外における学習方法</p>	<p>・Wordでは課題作品提出の必要があるため、事前に指定した提出日に、データが提出できる状態にしておくこと。</p> <p>・11回目は、Excel小テストを実施するので、事前に教科書を確認し復習しておくこと。</p> <p>・15回目は、PowerPoint課題提出日とするため、事前に内容をまとめデータを提出できる状態にしておくこと。</p>
<p>能動的授業科目及び地域志向科目</p>	<p>1. 能動的授業科目有無:あり</p> <p>2. 能動的授業科目種類:グループワーク形式のアクティブラーニング(PowerPointを使ったグループによるプレゼンテーション)</p> <p>3. 地域思考科目有無:なし</p> <p>4. 地域思考科目内容:ー</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CG105A
講義科目名称	中国語 I		
英文科目名称	Chinese 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員			
周 学業			

開講意義目的	<p>1、中国語の習得に通じて、中国文化の理解を深め、国際交流に役達できるように努める。  2、中国語の発音方法と表記ルールを確実なトレーニングを行い、学習者の自主勉強ができるための土台を作る。  3、基本文法の含んだ会話をトレーニングし、初歩の中国語のコミュニケーション能力を身につける。</p>		
授業計画	第一回	中国語概論 1、中国語概論。中国語の特徴・標準語と方言・中国語の発音と漢字。 2、中国語挨拶語トレーニング。 3、子音。	
	第二回	発音(1) 1、子音。 2、母音(単母音、複母音)	
	第三回	発音(2) 1、複母音。 2、子音と母音との合わせ練習。 3、音声表記の規則。 4、発音合わせの小テスト。	
	第四回	第一課「校門で」 1、判断動詞「是」の使い方。 2、姓と名のそれぞれを述べる動詞:「姓」、「叫」 3、本文会話の発音練習と練習問題。 4、課題。	
	第五回	第二課「廊下で」 1、一般動詞、疑問詞、省略疑問助詞「？」 2、本文会話の発音練習と練習問題。 3、課題。	
	第六回	第三課「キャンパスで」 1、本文翻訳。文法ポイントを解説。 2、本文会話発音練習と練習問題。 3、課題。	
	第七回	第四課「携帯をみながら」 1、疑問詞「多少」「几」の使い方。 2、反復疑問文の使い方。 3、本文会話の発音練習と練習問題。 4、課題。	
	第八回	第五課「学生食堂で」 1、存在所有をあらわす「有」文の構造。 2、間接目的語と直接目的語との構造。 3、本文会話の発音練習と練習問題。 4、課題。	
	第九回	第六課「王先生の研究室で」 1、存在の意味を表す動詞「在」の使い方。 2、「有」の使い方の復習。 3、本文会話の発音練習と練習問題。 4、課題	
	第十回	第七課「コンビニで」 1、助詞「了」の使い方。限定語としての疑問詞。助動詞「想」。 2、本文会話の発音練習と練習問題。 3、課題。	
	第十一回	第八課「バス停で」 1、連動文「去??西」 2、前置詞「在」(存在意味を表す「在」及び「有」との比較) 3、本文会話の発音練習と練習問題。 4、課題。	
	第十二回	第九課「放課後」 1、助動詞「会」、「能」 2、形容詞「可以」 3、本文会話の発音練習と練習問題。 4、課題。	
	第十三回	第十課「卓球の中継を見ながら」	

	<p>1、様態補語を引き出すための助詞「得」  2、過去の経験を表す助詞「？」  3、本文会話の発音練習と練習問題。  4、課題。</p> <p>第十四回 第十一課「ディズニーランドで待ち合わせ」  1、進行を表す「在」、「在」に関する使い方のまとめ。  2、方向補語「来」「去」  3、本文会話の発音練習と練習問題。  4、課題。</p> <p>第十五回 第十二課「カフェテラスで」  1、「是……的」型の表現に関する過去の経験の強調形。  2、結果補語。  3、本文会話の発音練習と練習問題。</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。  4)課題解決に向けて、協動的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる。(技能・表現)</p>
授業の到達目標	<p>中国語発音(子音、母音、四声)を確実に身につけること。  会話トレーニングで発音をきれいに仕上がることができること。  中国語Ⅱを学習するための土台を築くこと。</p>
指導方法	講義、トレーニング、発表、テスト、試験
教科書・参考書	<p>教科書:『はじめまして中国語』喜多山幸子・鄭幸枝著、白水社発行。  参考書:『中日辞書』各社。</p>
評価方法	<p>授業参加・態度(50%)    定期試験(50%)</p>
受講上の注意	<p>積極的にトレーニング、発表会に参加することはよりよい評価が得られます。  授業参加の欠席回数が五回以上になると、単位を与えません。  平日サボリ、期末試験寸前の集中復習は単位が取りにくい。  オフィスアワー:授業終了後に教室にて質問を受け付けます。</p>
授業外における学習方法	<p>NHKの中国語講座を参考しながら勉強してよらしい。  ポケットサイズのメモ帳を用意していほしい。</p>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>・能動的授業科目有無:なし  能動的授業科目種類:一  ・地域志向科目有無:なし  地域志向科目内容:一</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CG106A
講義科目名称	韓国語 I		
英文科目名称	Korean 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択
担当教員	黄 昞峻		
開講意義目的	今後の日本と韓国との関係がどうあるべきかを考えると同時に、異文化を理解し受け入れる許容性と国際的な感覚を身につけることは重要と考えている。言語は外国を理解する最も有効的な方法とされており、韓国語を学ぶことにより、韓国の文化や社会への興味や理解を深めることができると思われる。		
授業計画	<p>1回 韓国と韓国語の概観 韓国に関する基本常識、ハングルの歴史と文字構成原理(語学的な側面)の概説、日本語との相違点などの概説</p> <p>2回 母音① 基本母音10個</p> <p>3回 子音(初声) 子音19個</p> <p>4回 音節① 基本母音と子音の組み合わせによる文字</p> <p>5回 母音② 二重母音11個</p> <p>6回 音節② 二重母音と子音の組み合わせによる文字</p> <p>7回 子音(終声) 子音(終声=バッチム)の種類と発音</p> <p>8回 発音の変化① 連音化、流音化、口蓋音化、濃音化</p> <p>9回 発音の変化② 激音化、弱音化、鼻音化</p> <p>10回 ハングル表記法と中間テスト 日本語のハングル表記法、辞書の使い方、基本文字に関する中間テストを実施</p> <p>11回 文字の読み書き練習① 基本挨拶の読み書き練習</p> <p>12回 文字の読み書き練習② 授業時間に使う表現、民謡等の歌詞の読み書き練習</p> <p>13回 基本文型① 敬語体の終結形叙述格助詞について</p> <p>14回 基本文型② 体言の否定形について</p> <p>15回 総まとめ 期末試験の実施</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 4)課題解決に向けて、協動的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる。(技能・表現)		
授業の到達目標	韓国語の入門段階として、文字の読み書きができるようになる。また、基本的な挨拶を学習することで、韓国人や韓国の文化や考え方を理解することができる。		
指導方法	文字の学習においては、読みながら書く方法で行い、授業時間内に覚えるようにする。なお、毎回挨拶の言葉を覚えて使えるようにする。		
教科書・参考書	教科書:なし(毎回プリント配布) 参考書:「ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典」小学館		
評価方法	授業態度・学習意欲(10点)、中間テスト又はレポート(20点)、定期試験(70点)により総合的に評価する。(授業の1/3以上の欠席者は評価対象から外される。)		
受講上の注意	授業中の私語、筆記道具の不持参は減点される。 オフィスアワー:授業終了後に教室にて質問を受け付ける。		
授業外における学習方法	毎回、自習のための課題を出しており、授業の始めには前回の課題や暗記状況を確認するので、必ず復習すること。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的授業科目有無:なし</li> <li>・能動的授業科目種類:一</li> <li>・地域志向科目有無:なし</li> <li>・地域志向科目内容:一</li> </ul>		

授業年度	2017	シラバスNo	CG107A
講義科目名称	日本語 I		
英文科目名称	Japanese 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	留学生対象科目(必修)
担当教員	岩崎 圭弥		

開講意義目的	2年生までに日本語能力試験N1に合格することを目指して、まずN2レベルの語彙力と読解力を身につける。日本人とのより円滑なコミュニケーションをめざす。		
授業計画	1回	授業の進め方、評価についての説明。 読解基本トレーニング 基本問題 N2漢字練習①	
	2回	宿題:語彙教科書 第1週 読解基本トレーニング 語彙テスト(第1週) 基本問題 N2漢字テスト① 練習②	
	3回	宿題:語彙教科書 第2週 読解基本トレーニング 語彙テスト(第2週) 基本問題 N2漢字テスト② 練習③	
	4回	宿題:語彙教科書 第3週 読解問題 語彙テスト(第3週) 内容理解問題(短文)を解き、語彙の確認 N2漢字テスト③ 練習④	
	5回	宿題:語彙教科書 第4週 読解問題 語彙テスト(第4週) 内容理解問題(中文)を解き、語彙の確認 N2漢字テスト④ 練習⑤	
	6回	宿題:語彙教科書 第5週 読解問題 語彙テスト(第5週) 内容理解(中文)を解き、語彙の確認 N2漢字テスト⑤ 練習⑥	
	7回	宿題:語彙教科書 第6週 読解問題 語彙テスト(第6週) 内容理解問題(長文)を解き、語彙の確認 N2漢字テスト⑥ 練習⑦  語彙の復習(第1週～第6週)	
	8回	中間試験 読解問題(新しい問題) N2漢字問題(①～⑥)  語彙問題(第1週～第6週から出題) 内容解説	
	9回	読解問題 中間試験解説 内容理解問題(長文)を解き、語彙の確認 N2漢字テスト⑦ 練習⑧	
	10回	宿題:語彙教科書 第7週 読解問題 語彙テスト(第7週) 統合問題(2文の比較)を解き、語彙の確認 N2漢字テスト⑧ 練習⑨	
	11回	宿題:語彙教科書 第8週 読解問題 語彙テスト(第8週) 統合問題(2文の比較)を解き、語彙の確認 N2漢字テスト⑨ 練習⑩	
	12回	宿題:語彙教科書 第1、2、3週 読解問題 語彙テスト(第1、2、3週問題) 主張理解問題(長文)と解き、語意の確認 N2漢字テスト⑩ 練習⑪	
	13回	宿題:語彙教科書 第4、5、6週 読解問題 語彙テスト(第4、5、6週) 主張理解問題(長文)と解き、語意の確認 N2漢字テスト⑪ 練習⑫	
	14回	宿題:語彙教科書 第7、8週 読解問題 語彙テスト(第7、8週)	

	<p>読解問題 要約練習 N2漢字テスト⑩</p> <p>語彙練習問題 N2総復習</p> <p>15回</p> <p>期末試験 読解問題 文の要約 N2漢字問題(⑦~⑫) 語彙問題(第7、8週と復習問題) 内容解説</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1) 豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。</p>
授業の到達目標	N2合格以上の実力をつける。
指導方法	<p>短文・中文を要約する練習を行い、読解力を養う。毎週、読解問題のプリントを配布する。各自で解き、翌週、解説・読解文にある語彙の確認をする。漢字練習を行い、翌週、確認テストを行う。</p> <p>語彙はグループワークで学ぶほか、自習し、次の授業で確認テストを行う。</p>
教科書・参考書	<p>教科書: 日本語能力試験対策 日本語総まとめN2「語彙」(アルク)</p> <p>参考書: なし</p>
評価方法	授業参加・態度15%、小テスト15%、中間試験30%、期末試験40%
受講上の注意	<p>日本語能力試験は総合的な日本語力が必要であり、かなりの能力を要求される。従って、授業はもちろん日頃から日本語に触れ、実力をつけておかなければ、短期に集中して学んでも合格は難しい。これらのことを自覚して、授業に臨んでほしい。</p> <p>正当な理由なく中間試験を受けなかった学生、6回以上欠席した学生は期末試験を受けることができない。</p>
授業外における学習方法	<p>・毎回、漢字・語彙の確認テストを実施するので、課題を理解しておくこと。</p> <p>・日頃から日本語の様々な文章に慣れ親しむこと。</p>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無: なし</p> <p>2. 能動的授業科目種類: -</p> <p>3. 地域志向科目有無: なし</p> <p>4. 地域志向科目内容: -</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CG108A
講義科目名称	日本語Ⅱ		
英文科目名称	Japanese 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	留学生対象科目(必修)
担当教員	岩崎 圭弥		

開講意義目的	日本で学び、働こうと思う留学生にとって、日本語能力試験N1合格は必須である。N1試験対策として、読解問題の解き方、語彙の意味および使い方を学ぶ。また日本で生活する上で必要な日本の文化や習慣などを日本語を通して学ぶ。		
授業計画	1回	N1 読解 読解:実力チェック問題 N1漢字練習①	
	2回	宿題:語彙教科書第1週 N1 読解 語彙確認テスト(第1週) 読解:基礎編 短文① N1漢字テスト① 練習②	
	3回	宿題:語彙教科書第2週 N1 読解、語彙 語彙確認テスト(第2週) 読解:基礎編 短文②・③ N1漢字テスト② 練習③	
	4回	宿題:語彙教科書第3週 N1 読解、語彙 語彙確認テスト(第3週) 読解:基礎編 短文④・⑤ N1漢字テスト③ 練習④	
	5回	宿題:語彙教科書第4週 N1 読解、語彙 語彙確認テスト(第4週) 読解:基礎編 短文⑥ N1漢字テスト④ 練習⑤	
	6回	宿題:語彙教科書第5週 N1 読解、語彙 語彙確認テスト(第5週) 読解:応用編 説明文 中文 N1漢字テスト⑤ 練習⑥	
	7回	宿題:語彙教科書第6週 N1 読解、語彙 語彙確認テスト(第6週) 読解:応用編 説明文 長文 N1漢字テスト⑥ 練習⑦	
	8回	中間試験(読解・語彙・漢字) 読解:読解問題(新しい問題)・文の要約 漢字:練習問題(①～⑥) 語彙:語彙教科書(第1週～第6週) 内容解説	
	9回	N1 読解 中間試験解説 読解:応用編 論説文 中文 N1漢字テスト⑦ 練習⑧	
	10回	宿題:語彙教科書第7週 N1 読解 語彙宿題確認テスト(第7週) 読解:応用編 論説文 長文 N1漢字テスト⑧ 練習⑨	
	11回	宿題:語彙教科書第8週 N1 読解 語彙宿題確認テスト(第8週) 読解:応用編 随筆 中文 N1漢字テスト⑨ 練習⑩	
	12回	宿題:語彙教科書第1、2、3週復習 N1 読解 語彙確認テスト(第1、2、3週) 読解:応用編 随筆 長文 N1漢字テスト⑩ 練習⑪	
	13回	宿題:語彙教科書第4、5、6週復習 N1 読解、語彙 語彙確認テスト(4、5、6週) 読解:応用編 小説 中文 N1漢字テスト⑪ 練習⑫	
	14回	宿題:語彙教科書第7、8週復習 N1 読解、語彙 語彙確認テスト(7、8週) 読解:応用編 小説 長文 N1漢字テスト⑫	
	15回	期末試験(読解・語彙・漢字)	

	<p>読解:読解問題(新しい問題)・文の要約 漢字:練習問題(⑦~⑫) 語彙:語彙教科書(第7・8週、復習問題) 内容解説</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力:豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。</p>
授業の到達目標	2年生までに日本語能力試験 N1合格を目標とする。
指導方法	<p>読解:問題、資料を毎回配布、各自で解く。その後、問題の解説および解き方を説明。読解力をつけるため、文を要約する練習を行う。 漢字:N1練習問題を解き、翌週確認テストを行う。 語彙:各自教科書問題を自習し、次の授業で内容の復習をし、確認テストを行う。</p>
教科書・参考書	<p>教科書:日本語能力試験対策 日本語総まとめ N1「語彙」(アスク) 参考書:なし</p>
評価方法	授業参加・態度15%、小テスト15%、中間試験30%、期末試験40%
受講上の注意	<p>N1合格は授業のみの学習では合格できない。日頃から新聞を読んだり、ニュースを聞いたりして、日本語に関心を持ち、継続的に努力することが必要である。 正当な理由なく中間試験を受けなかった学生、6回以上欠席した学生は期末試験を受けることができない。 12月に行なわれる「日本語能力試験」N1を受験して合格した学生には、期末における点数に反映する。</p>
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、漢字・語彙の小テストを実施するので、課題を理解しておくこと。</li> <li>・授業での誤答をそのままにせず、復習しておくこと。</li> <li>・授業のみでは練習量が足りないため、各自、新聞や読み物・問題集などで多読、精読すること。</li> </ul>
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 能動的授業科目有無:なし</li> <li>2. 能動的授業科目種類:ー</li> <li>3. 地域志向科目有無:なし</li> <li>4. 地域志向科目内容:ー</li> </ol>

授業年度	2017	シラバスNo	CG109A
講義科目名称	日本語演習 I		
英文科目名称	Practical Japanese 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	留学生対象科目(必修)
担当教員	岩崎 圭弥		

開講意義目的	日本語能力試験N1合格を目指して、その基礎となるN2文法を学ぶ。学期末にはN2合格レベル以上にする。		
授業計画	1回	N2文法 教科書 ※毎回6～10ページ進める :第1週1日目～3日目 文を作る①	
	2回	N2文法 前回の復習テスト① 教科書:第1週4日目～6日目 文を作る②	
	3回	N2文法 前回の復習テスト② 第1週テスト 教科書:第2週1日目～3日目 文を作る③	
	4回	N2文法 前回の復習テスト③ 教科書:第2週4日目～6日目 文を作る④	
	5回	N2文法 前回の復習テスト④ 第2週テスト 教科書:第3週1日目～3日目 文を作る⑤	
	6回	N2文法 前回の復習テスト⑤ 教科書:第3週4日目～6日目 文を作る⑥	
	7回	N2文法 前回の復習テスト⑥ 第3週テスト 教科書:第4週1日目～3日目 文を作る⑦	
	8回	中間試験 教科書(第1週～第4週3日目) 前回の復習テスト(①～⑥) 週テスト(第1週～第3週) 文を作る(①～⑦) ポイント解説	
	9回	N2文法 中間試験解説 教科書:第4週4日目～6日目 文を作る⑧	
	10回	N2文法 前回の復習テスト⑦ 第4週テスト 教科書:第5週1日目～3日目 文を作る⑨	
	11回	N2文法 前回の復習テスト⑧ 教科書:第5週4日目～6日目/第8週1・2日目のポイント 文を作る⑩	
	12回	N2文法 前回の復習テスト⑨ 第5週テスト 教科書:第6週1日目～3日目/第8週3・4日目のポイント 文を作る⑪	
	13回	前回の復習テスト⑩ 教科書:第6週4日目～6日目/第8週5・6日目のポイント 文を作る⑫	
	14回	N2文法 前回の復習テスト⑪ 第6週テスト 教科書:第7週1日目～6日目	
	15回	期末試験 教科書(第4週4日目～第8週日目) 前回の復習テスト(⑦～⑪) 週テスト(第4週～6週) 文を作る(⑧～⑫) * 中間試験問題からも数問、出題 内容解説	

教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。
授業の到達目標	後期の日本語授業(N1レベル)に支障なく取り組めること
指導方法	教科書に沿って、重要文法項目を解説し、問題を解かせる。授業の終わりに文を作らせ、翌週に復習テストを行う。 週ごとに小テストを行う。 教科書終了後は練習問題をする。
教科書・参考書	教科書: 新しい日本語能力試験 対策日本語総まとめ N2「文法」(アスク) 参考書: なし
評価方法	授業参加・態度15%、小テスト15%、中間試験30%、期末試験40%
受講上の注意	N2文法は日常生活でよく使われる文法であり、コミュニケーションに欠かせないものである。またN1の早期取得のためにも確実に理解しておくことが望ましい。日本語力の向上のために努力してほしい。授業外での質問にも随時応じるので積極的に利用してほしい。正当な理由なく中間試験を受けなかった学生、6回以上欠席した学生は期末試験を受けることができない。
授業外における学習方法	・前回の授業の復習テストを実施するので、授業内容を復習し理解しておくこと。 ・次回授業の文法項目は必ず予習しておくこと。
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:ー 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー

授業年度	2017	シラバスNo	CG110A
講義科目名称	日本語演習Ⅱ		
英文科目名称	Practical Japanese 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	留学生対象科目(必修)
担当教員	岩崎 圭弥		

開講意義目的	日常会話にとどまらず、様々な場面で使われる複雑な日本語を理解し、自らも運用できるようにする。特に留学生が不得意とする文語的表現を学び、専門書や論文を読みこなせるようにする。		
授業計画	1回	N1文法 教科書: 第1週1日目～3日目	
	2回	N1文法 前回の復習テスト① 教科書: 第1週4日目～6日目	
	3回	N1文法 前回の復習テスト② 第1週テスト 教科書: 第2週1日目～3日目	
	4回	N1文法 前回の復習テスト③ 教科書: 第2週4日目～6日目	
	5回	N1文法 前回の復習テスト④ 第2週テスト 教科書: 第3週1日目～3日目	
	6回	N1文法 前回の復習テスト⑤ 教科書: 第3週4日目～6日目	
	7回	N1文法 前回の復習テスト⑥ 第3週テスト 教科書: 第4週1日目～3日目	
	8回	中間試験 教科書(第1週～第4週3日目) 前回の復習テスト(①～⑥) 週テスト(第1週～第3週) ポイント解説	
	9回	N1文法 中間試験解説 教科書: 第4週4日目～6日目	
	10回	N2文法 前回の復習テスト⑦ 第4週テスト 教科書: 第5週1日目～3日目	
	11回	N1文法 前回の復習テスト⑧ 教科書: 第5週4日目～6日目／第8週1・2日目ポイント	
	12回	N1文法 前回の復習テスト⑨ 第5週テスト 教科書: 第6週1日目～3日目／第8週3・4日目ポイント	
	13回	N1文法	

	<p>前回の復習テスト⑩ 教科書:第6週4日目～6日目/第8週5・6日目ポイント</p>
14回	<p>N1文法 前回の復習テスト⑪ 第6週テスト 教科書:第7週1日目～6日目</p>
15回	<p>期末試験 教科書(第4週4日目～第8週6日目) 前回の復習テスト(⑦～⑪) 週テスト(第4週～第6週) * 中間試験より数問、出題 内容解説</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力: 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。</p>
授業の到達目標	<p>まず、日本語能力試験N1合格を目標とする。文語的表現を理解し、運用できるようにする。</p>
指導方法	<p>教科書に沿って文法項目を解説し、オリジナルのワークシートの問題を解く。授業開始時に先週の授業内容の復習テスト・テキストの各週ごとのテストをする。授業終了前にその日の授業の理解度を確認する問題を出題し、全体で確認する。</p>
教科書・参考書	<p>教科書: 新しい日本語能力試験 対策日本語総まとめN1「文法」(アスク) 参考書: なし</p>
評価方法	<p>授業態度・取り組み15%、小テスト15%、中間試験30%、期末試験40%</p>
受講上の注意	<p>必ず、予習・復習をして授業に臨むこと。授業外での質問にも随時対応するので積極的に利用してほしい。 正当な理由なく中間試験を受けなかった学生、6回以上欠席した学生は期末試験を受けることができない。 12月に行われる「日本語能力試験」を受験し、N1に合格した場合、最終評価に反映させる。</p>
授業外における学習方法	<p>・毎回、小テストを実施するので、前回の授業内容を復習し理解しておくこと。 ・次回の文法項目は必ず予習しておくこと。</p>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:ー 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CG111A
講義科目名称	英語 I		
英文科目名称	English 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員	矢野 淳		
開講意義目的	たくさんの日常会話の英語表現のテンプレートを覚え、主語・動詞・目的語・補語を入れ替えながら使いこなせるようにする。高校までのコミュニケーション英語の延長である。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 今後の授業の進め方について。</p> <p>2回 長文読解1 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-have any idea / mess</p> <p>3回 長文読解2 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-be on the move</p> <p>4回 長文読解3 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-screw</p> <p>5回 長文読解4 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 仮定法仮定条件現在時制の使いこなしのポイント解説</p> <p>6回 長文読解5 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 仮定法仮定条件過去時制の使いこなしのポイント解説。</p> <p>7回 長文読解6(中間試験) 慣用表現と仮定法(その1)</p> <p>8回 長文読解7(中間テストの解説と復習) 仮定法の時制変更に応じた書き換え。</p> <p>9回 長文読解8 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 英語表現上のキャラ作りポイント解説(軍人編)</p> <p>10回 長文読解9 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 英語表現上のキャラ作りポイント解説(ヤンキー編)</p> <p>11回 長文読解10 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 英語表現上のキャラ作りポイント解説(サラリーマン編)</p> <p>12回 長文読解11 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 英語表現上のキャラ作りポイント解説(お上品編)</p> <p>13回 長文読解12 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 英語表現上のキャラ作りポイント解説(総合)</p> <p>14回 長文読解13(期末試験) 慣用表現と仮定法復習(その2)</p> <p>15回 期末試験の解説と復習 慣用表現と文法的背景を解説復習。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観・社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい、主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	主語、動詞、目的語、補語などを入れ替えながら多様な文章表現ができることを目指す。		
指導方法	英文和訳と文法解説の指導。例えば文法的には合っているのに意味的に間違いというケースは、英語を学ぶ際に必ずぶつかる壁である。この講義では、このような問題でも学生たちにストレスなく理解できるように、国内の人気漫画の英語版を用いて解説する。漫画のキャラクターのシチュエーションは学生たちには既知のことであるので、文法的、意味的な学習上の問題を、キャラクターたちのシチュエーションのなかで解説する。		
教科書・参考書	Black Lagoon 3.(Viz Media)		
評価方法	ペーパーテストによる。 【得点評価配分】 ペーパーテスト:70% 受講態度30%		
受講上の注意	模範文暗記に努力すること。 テキストは必ず購入すること。		
授業外における学習方法	インターネット等で知らない英単語が出てきたら、すぐに辞書を引いて意味を覚える習慣をつけること。		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:— 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:—
---------------------	--

授業年度	2017	シラバスNo	CG111B
講義科目名称	英語 I		
英文科目名称	English 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員	吉永 秀之		
開講意義目的	英語の基本事項の再確認し、基本的な読み・書きの能力を養う。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション Pre-Unit 授業の進行・評価についての説明。</p> <p>2回 品詞と語順 Unit 1 be動詞(基本項目の確認)</p> <p>3回 Unit 1 be動詞(会話とライティングによる基本項目の応用)</p> <p>4回 Unit 2 一般動詞の現在形(基本項目の確認)</p> <p>5回 Unit 2 一般動詞の現在形(会話とライティングによる基本項目の応用)</p> <p>6回 Unit 3 可算名詞・不可算名詞(基本項目の確認)</p> <p>7回 Unit 3 可算名詞・不可算名詞(会話とライティングによる基本項目の応用)</p> <p>8回 Unit 4 代名詞(基本項目の確認)</p> <p>9回 Unit 4 代名詞(会話とライティングによる基本項目の応用)</p> <p>10回 Unit 5 一般動詞の過去形(基本項目の確認)</p> <p>11回 Unit 5 一般動詞の過去形(会話とライティングによる基本項目の応用)</p> <p>12回 Unit 6 進行形(基本項目の確認)</p> <p>13回 Unit 6 進行形(会話とライティングによる基本項目の応用)</p> <p>14回 Review Unit 1からUnit 6の復習</p> <p>15回 期末試験、試験内容の解説 期末試験およびその解説を行う。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的かつ協働して取り組むことができる。</p>		
授業の到達目標	<p>基本的な文法事項を理解できる。 読み・書きの基礎力を修得する。</p>		
指導方法	<p>ブレースメントテストによりクラス分けをする。 講義形式で行う。</p>		
教科書・参考書	<p>教科書:English Aid Robert Hickling, Misato Usukura 金星堂 参考書:なし</p>		
評価方法	<p>期末試験100%</p>		
受講上の注意	<p>辞書または電子辞書を持つてくること。</p>		
授業外における学習方法	<p>語学学習は積み重ねが重要なので、予習・復習を必ず実践すること。</p>		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:— 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:—</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CG111C
講義科目名称	英語 I		
英文科目名称	English 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員	張 栄		

開講意義目的	本講座は実践的な練習を通して、基礎的な英語リスニング能力を身につけることを目的とする。リスニングのポイントは(1)たくさん聞くこと;(2)直感的に理解すること;(3)音読みすることです。また、スラッシュリスニングやシャドーイングの訓練も強化し、英語を聞き取る力を研ぎ澄ますとともに、身近なことについて、英語による表現能力を養っていく。		
授業計画	1	Orientation ・Why should we learn English? ・How to learn?	
	2	Unit 1: A Mysterious Box * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4	
	3	Unit 2: A Typical Day for Kelly * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4	
	4	Unit 3: The Lawyer's Advice * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4	
	5	Unit 4: The Accident * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4	
	6	Unit 5: Stable Condition * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4	
	7	Unit 6: News * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4	
	8	Mini-Test (1) と解説	
	9	Unit 7: Police Interview * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4	
	10	Unit 8: Australian Connection * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4	
	11	Unit 9: Putting Off the Trip * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4	
	12	Unit 10: A Visit to the Hospital * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4	
	13	Unit 11: The Box on the News	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Let's Check</li> <li>* Part 1</li> <li>* Part 2</li> <li>* Part 3</li> <li>* Part 4</li> </ul> <p>14 Unit 12: Dean's Condition</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* Let's Check</li> <li>* Part 1</li> <li>* Part 2</li> <li>* Part 3</li> <li>* Part 4</li> </ul> <p>15 Mini-Test (2) と解説</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。
授業の到達目標	基本的な英語表現と文法知識を勉強し、英語による実務力、情報処理能力、表現力の取得を目標とする。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則、教科書に沿って解説・演習形式で進める。</li> <li>・英語力を身に付けてもらうために、学外学習の時間を確保してもらう。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書: Mystery Box: Listening for the New TOEIC Test          著者: Shari J. Berman; Alice L. Bratton; Makoto Hayasaka; Asako Akatsuka          出版社: 成美堂</p> <p>参考書: 市販の関連書</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加態度(70%)</li> <li>・ミニテスト(30%)</li> </ul>
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の学習時間を確保できる。</li> <li>・20分以上遅れる場合は欠席とする。</li> <li>・辞書と教科書を必ず持参する。</li> </ul>
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らない単語・表現を繰り返して覚える。</li> </ul>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の魅力に触れ、英語に対する興味を維持してもらい、自律的な学習態度を養う;</li> <li>・自律的な学習を促すため、授業中では知的交流の場をつくるよう取り組む</li> </ul>

授業年度	2017	シラバスNo	CG112A
講義科目名称	英語 I S		
英文科目名称	English 1S		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員	矢野 淳		
開講意義目的	英語漫画を読みながら最新の英語表現を暗記することに重点を置く。たくさんの英語表現のテンプレートを覚え、主語・動詞・目的語・補語を入れ替えながら使いこなせるようにする。高校までのコミュニケーション英語の延長である。少し長めの慣用表現を暗記する。レベル的には英語Sクラスの方が高くなる。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 今後の授業の進め方など。</p> <p>2回 長文読解1 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-choiceの使用例あれこれ。</p> <p>3回 長文読解2 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-one of the ones+形容詞</p> <p>4回 長文読解3 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-丁寧に相手の都合を尋ねる。</p> <p>5回 長文読解4 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-慣用表現「やってくれたな」を英語で言うって??</p> <p>6回 長文読解5(中間テスト) 慣用表現/書き換え(その1)</p> <p>7回 長文読解6(中間テストの解説と復習) 書き換への復習。</p> <p>8回 長文読解7 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-screw</p> <p>9回 長文読解8 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-agree+with/to</p> <p>10回 長文読解9 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-runの様々な用例。</p> <p>11回 長文読解10 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-What say we~とWhat say you~</p> <p>12回 長文読解11 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-複雑に見える文型を解く。</p> <p>13回 長文読解12 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-仮定法仮定条件現在。</p> <p>14回 長文読解13(期末試験) 様々な文型 仮定法を使う。(書き換え問題)</p> <p>15回 期末試験の解説と復習。 様々なシチュエーションにおける仮定法の活用について解説復習。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観・社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい、主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	主語、動詞、目的語、補語などを入れ替えながら多様な文章表現ができることを目指す。		
指導方法	文法解説と実践運用の指導。例えば文法的には合っているのに意味的に間違いというケースは、英語を学ぶ際に必ずぶつかる壁である。この講義では、このような問題でも学生たちにストレスなく理解できるように、国内の人気漫画の英語版を用いて解説する。漫画のキャラクターのシチュエーションは学生たちには既知のことであり、文法的、意味的な学習上の問題を、キャラクターたちのシチュエーションのなかで解説する。		
教科書・参考書	Gunslinger Girl Omnibus Collection 1.(Seven Seas Entertainment)		
評価方法	ペーパーテストによる。 【得点評価配分】 ペーパーテスト:70% 受講態度30%		
受講上の注意	模範文暗記に努力すること。 テキストは必ず購入すること。		

授業外における学習方法	インターネット等で知らない英単語が出てきたら、すぐに辞書を引いて意味を覚える習慣をつけること。
能動的授業科目及び地域志向科目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 能動的授業科目有無: なし</li> <li>2. 能動的授業科目種類: -</li> <li>3. 地域志向科目有無: なし</li> <li>4. 地域志向科目内容: -</li> </ol>

授業年度	2017	シラバスNo	CG112B
講義科目名称	英語 I S		
英文科目名称	English 1S		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員	吉永 秀之		
開講意義目的	英文の基本的な仕組みを理解し、それによって得た知識を読解に応用する練習を行う。		
授業計画	1回 オリエンテーション、Unit 0 授業の進め方の説明とBe動詞と一般動詞を学習する。 2回 Unit 1 否定文について学習する。 3回 Unit 2 疑問文について学習する。 4回 Unit 3 助動詞について学習する。 5回 Review 1 Unit 1からUnit 3の復習 6回 Unit 4 第1文型と第2文型について学習する。 7回 Unit 5 第3文型と第4文型について学習する。 8回 Unit 6 進行形について学習する。 9回 Review 2 Unit 4からUnit 6の復習 10回 Unit 7 受動態について学習する。 11回 Unit 8 第5文型(知覚、認識など)について学習する。 12回 Unit 9 動名詞第5文型(使役、許可、願望など)について学習する。 13回 Unit 10 完了形について学習する。 14回 Review 3 Unit 7からUnit 10の復習 15回 期末試験、試験内容の解説 これまで学習した内容で特に重要な点を復習する。		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1) 豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的かつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	コミュニケーションに必要な文法知識のより深い理解ができる。		
指導方法	プレースメントテストによりクラス分けをする。 講義形式で行う。		
教科書・参考書	教科書: First Voyage: From Grammar to Reading (大学基本英文法 & リーディング) Keiko Kimura, Kenjiro Tagawa, Edward R. Howe 著 南雲堂 参考書: なし		
評価方法	期末試験 100%		
受講上の注意	辞書または電子辞書を持参すること。		
授業外における学習方法	語学学習は、毎日の積み重ねが重要なので、必ず予習と復習を行うこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目種類: - 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -		

授業年度	2017	シラバスNo	CG112C
講義科目名称	英語 I S		
英文科目名称	English 1S		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位	必修
担当教員	張 栄		
開講意義目的	一般企業でTOEICのスコアが重視される近年の傾向を受け、在学中にTOEICを受験して一定のスコア獲得を目指すケースが増えてきている。TOEIC Bridgeが2001年に開発され、大きな特徴として、使用されている英語がTOEICに比べて、日常的で身近であることがあげられる。本講座はTOEIC Bridgeの問題を利用して、基礎的、また実用的な英語を学び、すぐに役に立つ英語に慣れることを目標にする。また、学習者が興味を持って取り組み、英語の基礎を固めるとともに、将来のTOEICの受験の準備ができることを目		
授業計画	1 Unit 1: Shopping * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 2 Unit 2: Food * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 3 Unit 3: Health * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 4 Unit 4: Media * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 5 Unit 5: Daily Life (1) * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 6 Unit 6: Daily Life (2) * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 7 Unit 7: Travel * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 8 Unit 8: Office Work (1) * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 9 Unit 9: Office Work (2) * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 10 Unit 10: Meetings * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 11 Unit 11: Factories * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 12 Unit 12: Products * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 13 Unit 13: Technology * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 14 Unit 14: Job Hunting * Listening Section (Part 1 ~ Part 4) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 15 Mini-test と解説		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	基本的な英語表現と文法知識を勉強し、英語による実務力、情報処理能力、表現力の取得を目標とする。		
指導方法	・原則、教科書に沿って解説・演習形式で進める。 ・英語力を身に付けてもらうために、学外学習の時間を確保してもらう。		
教科書・参考書	教科書: Primary Practice for the TOEIC Listening and Reading Test 著者: Yumi Hasegawa; Hisayo herbert; Karl Hedberg; Ayako Kobayashi; Tomoko Tamura 出版社: 三修社 参考書: 市販の関連書		
評価方法	・授業参加態度(50%) ・ミニテスト(50%)		
受講上の注意	・学外の学習時間を確保できる。 ・20分以上遅れる場合は欠席とする。 ・辞書と教科書を必ず持参する。		
授業外における学習方法	・知らない単語・表現を繰り返して覚える。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	・英語の魅力に触れ、英語に対する興味を維持してもらい、自律的な学習態度を養う; ・自律的な学習を促すため、授業中では知的交流の場をつくるよう取り組む		

授業年度	2017	シラバスNo	CG113A
講義科目名称	英語Ⅱ		
英文科目名称	English 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	必修
担当教員	矢野 淳		
開講意義目的	英語漫画を読みながら最新の英語表現を暗記することに重点を置く。たくさんの英語表現のテンプレートを覚え、主語・動詞・目的語・補語を入れ替えながら使いこなせるようにする。高校までのコミュニケーション英語の延長である。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 今後の授業の進め方など。</p> <p>2回 長文読解1 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-copusにみるsplendidの使用</p> <p>3回 長文読解2 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-something+節</p> <p>4回 長文読解3 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-現在完了</p> <p>5回 長文読解4 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-「いらんこと〜しやがって」を英語で言うと???</p> <p>6回 長文読解5(中間テスト) 慣用表現と形容詞節の使いこなし(その1)</p> <p>7回 長文読解6(中間テストの解説と復習) 形容詞節の使いこなしの確認。 仮定法の時制変更に応じた書き換えの復習。</p> <p>8回 長文読解7 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-仮定法仮定条件現在時制と過去時制のクロスオーバー</p> <p>9回 長文読解8 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-May be we should ~ / Why don't we ~</p> <p>10回 長文読解9 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-You said it / Blow it out</p> <p>11回 長文読解10 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-「それによって私の立ち位置も変わるから」を英語で言う??</p> <p>12回 長文読解11 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 節で表現する: 使いこなしのポイント解説-That's just how it is where we are.</p> <p>13回 長文読解12 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-what if</p> <p>14回 長文読解13(期末テスト) 慣用表現と節で表現するという。こと。</p> <p>15回 期末試験の解説と復習 慣用表現と文法的背景を解説復習。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観・社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい、主体的、継続的に かつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	主語、動詞、目的語、補語などを入れ替えながら多様な文章表現ができることを目指す。		
指導方法	文法解説と実践運用の指導。例えば文法的には合っているのに意味的に間違いというケースは、英語を学ぶ際に必ずぶつかる壁である。この講義では、このような問題でも学生たちにストレスなく理解できるように、国内の人気漫画の英語版を用いて解説する。漫画のキャラクターのシチュエーションは学生たちには既知のことであるので、文法的、意味的な学習上の問題を、キャラクターたちのシチュエーションのなかで解説する。		
教科書・参考書	Black Lagoon 3.(Viz Media)		
評価方法	ペーパーテストによる。 【得点評価配分】 ペーパーテスト:70% 受講態度30%		
受講上の注意	模範文暗記に努力すること。 テキストは必ず購入すること。		
授業外における学習方法	インターネット等で知らない英単語が出てきたら、すぐに辞書を引いて意味を覚える習慣をつけること。		

能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:— 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:—
---------------------	--

授業年度	2017	シラバスNo	CG113B
講義科目名称	英語Ⅱ		
英文科目名称	English 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	必修
担当教員	吉永 秀之		
開講意義目的	英語の基本事項の再確認し、基本的な読み・書きの能力を養う。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション Unit 7 授業の進行・評価についての説明。</p> <p>2回 時と場所を表す前置詞(基本事項の確認) Unit 7 時と場所を表す前置詞(会話とライティングによる基本事項の応用)</p> <p>3回 Unit 8 未来形(基本事項の確認)</p> <p>4回 Unit 8 未来形(会話とライティングによる基本事項の応用)</p> <p>5回 Unit 9 現在完了形(基本事項の確認)</p> <p>6回 Unit 9 現在完了形(会話とライティングによる基本事項の応用)</p> <p>7回 Unit 10 比較・最上級(基本事項の確認)</p> <p>8回 Unit 10 比較・最上級(会話とライティングによる基本事項の応用)</p> <p>9回 Unit 11 接続詞(基本事項の確認)</p> <p>10回 Unit 11 接続詞(会話とライティングによる基本事項の応用)</p> <p>11回 Unit 12 動名詞・不定詞(基本事項の確認)</p> <p>12回 Unit 12 動名詞・不定詞(会話とライティングによる基本事項の応用)</p> <p>13回 Unit 13 疑問詞(基本事項の確認)</p> <p>14回 Unit 13 疑問詞(会話とライティングによる基本事項の応用)</p> <p>15回 期末試験、試験内容の解説 期末試験およびその解説を行う。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的かつ協働して取り組むことができる。</p>		
授業の到達目標	<p>基本的な文法事項を理解できる。 読み・書きの基礎力を修得する。</p>		
指導方法	<p>ブレースメントテストによりクラス分けをする。 講義形式で行う。</p>		
教科書・参考書	<p>教科書: English Aid Robert Hickling, Misato Usukura 金星堂</p> <p>参考書: なし</p>		
評価方法	<p>期末試験100%</p>		
受講上の注意	<p>辞書または電子辞書を持ってくること。</p>		
授業外における学習方法	<p>語学学習は積み重ねが重要なので、予習・復習を必ず実践すること。</p>		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目種類: - 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CG113C
講義科目名称	英語Ⅱ		
英文科目名称	English 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	必修
担当教員	張 栄		

**開講意義目的** 本講座は実践的な練習を通して、基礎的な英語リスニング能力を身につけることを目的とする。リスニングのポイントは(1)たくさん聞くこと;(2)直感的に理解すること;(3)音読みすることです。また、スラッシュリスニングやシャドーイングの訓練も強化し、英語を聞き取る力を研ぎ澄ますとともに、身近なことについて、英語による表現能力を養っていく。

<b>授業計画</b>	1	Orientation * How to learn English? * How to get the credit for this course?
	2	Unit 13: Not Just Australia * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4
	3	Unit 14: Medical Conditions * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4
	4	Unit 15: Out to Dinner * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4
	5	Unit 16: Dean's Missing Things * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4
	6	Unit 17: Rumors and Questions * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4
	7	Unit 18: More Pieces of the Mystery * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4
	8	Mini-Test (1) と解説
	9	Unit 19: Justin figures It Out * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4
	10	Unit 20: Kelly Meets the Roses * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4
	11	Unit 21: Back in the News * Let's Check * Part 1 * Part 2 * Part 3 * Part 4
	12	Unit 22: New Plans

	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Let's Check</li> <li>* Part 1</li> <li>* Part 2</li> <li>* Part 3</li> <li>* Part 4</li> </ul>
13	Unit 23: At the Airport <ul style="list-style-type: none"> <li>* Let's Check</li> <li>* Part 1</li> <li>* Part 2</li> <li>* Part 3</li> <li>* Part 4</li> </ul>
14	Unit 24: On Board the Plane <ul style="list-style-type: none"> <li>* Let's Check</li> <li>* Part 1</li> <li>* Part 2</li> <li>* Part 3</li> <li>* Part 4</li> </ul>
15	Mini-Test (2) と解説
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。
授業の到達目標	基本的な英語表現と文法知識を勉強し、英語による実務力、情報処理能力、表現力の取得を目標とする。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則、教科書に沿って解説・演習形式で進める。</li> <li>・英語力を身に付けてもらうために、学外学習の時間を確保してもらう。</li> </ul>
教科書・参考書	教科書: Listening Elements 著者: Terry O'Brien; Kei Mihara; Tomoki Nenoki; Hiroshi Kimura 出版社: 南雲堂  参考書: 市販の関連書
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加・態度(70%)</li> <li>・ミニテスト(30%)</li> </ul>
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の学習時間を確保できる。</li> <li>・20分以上遅れる場合は欠席とする。</li> <li>・辞書と教科書を必ず持参する。</li> </ul>
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らない単語・表現を繰り返して覚える。</li> </ul>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の魅力に触れ、英語に対する興味を維持してもらい、自律的な学習態度を養う;</li> <li>・自律的な学習を促すため、授業中では知的交流の場をつくるよう取り組む</li> </ul>

授業年度	2017	シラバスNo	CG114A
講義科目名称	英語ⅡS		
英文科目名称	English 2S		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	必修
担当教員	矢野 淳		
開講意義目的	英語漫画を読みながら最新の英語表現を暗記することに重点を置く。たくさんの英語表現のテンプレートを覚え、主語・動詞・目的語・補語を入れ替えながら使いこなせるようにする。高校までのコミュニケーション英語の延長である。少し長めの慣用表現を暗記する。レベル的には英語Sクラスの方がより高くなる。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 今後の授業の進め方など。</p> <p>2回 長文読解1 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 語源を知る-古代から中世にかけてのヨーロッパと言語の動き。</p> <p>3回 長文読解2 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 文型・・・補語になるものとは。</p> <p>4回 長文読解3 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 複雑な文型を解く(1)。</p> <p>5回 長文読解4 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-Not that~を使う。</p> <p>6回 長文読解5(中間試験) 慣用表現と仮定法の復習。</p> <p>7回 長文読解6(中間テストの解説と復習) 仮定法の時制変更に応じた書き換えの復習。</p> <p>8回 長文読解7 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-that manyを使う。</p> <p>9回 長文読解8 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 複雑な文型を解く(2)</p> <p>10回 長文読解9 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-rumour has it thatを使う。</p> <p>11回 長文読解10 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-catchの熟語。</p> <p>12回 長文読解11 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-have something to do with~</p> <p>13回 長文読解12 英文和訳と文法解説 暗記事項の指示 使いこなしのポイント解説-couldの様々な使い方。</p> <p>14回 長文読解13(期末試験) 慣用表現と助動詞の使用。</p> <p>15回 期末試験の解説と復習 慣用表現と文法的背景を解説復習。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観・社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい、主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	主語、動詞、目的語、補語などを入れ替えながら多様な文章表現ができることを目指す。		
指導方法	文法解説と実践運用の指導。例えば文法的には合っているのに意味的に間違いというケースは、英語を学ぶ際に必ずぶつかる壁である。この講義では、このような問題でも学生たちにストレスなく理解できるように、国内の人気漫画の英語版を用いて解説する。漫画のキャラクターのシチュエーションは学生たちには既知のことであるので、文法的、意味的な学習上の問題を、キャラクターたちのシチュエーションのなかで解説する。		
教科書・参考書	Gunslinger Girl Omnibus Collection 1.(Seven Seas Entertainment)		
評価方法	ペーパーテストによる。 【得点評価配分】 ペーパーテスト:70% 受講態度30%		

受講上の注意	模範文暗記に努力すること。 テキストは必ず購入すること。
授業外における学習方法	インターネット等で知らない英単語が出てきたら、すぐに辞書を引いて意味を覚える習慣をつけること。
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:ー 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:ー

授業年度	2017	シラバスNo	CG114B
講義科目名称	英語ⅡS		
英文科目名称	English 2S		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	必修
担当教員	吉永 秀之		
開講意義目的	英文の基本的な仕組みを理解し、それによって得た知識を読解に応用する練習を行う。		
授業計画	1回 Unit 11 動名詞について学習する。 2回 Unit 12 不定詞について学習する(1) 3回 Unit 13 不定詞について学習する(2) 4回 Unit 14 分詞について学習する。 5回 Review 1 Unit 11からUnit 14の復習 6回 Unit 15 名詞節と副詞節について学習する。 7回 Unit 16 分詞構文について学習する。 8回 Unit 17 関係代名詞について学習する。 9回 Unit 18 関係副詞について学習する。 10回 Review 2 Unit 15からとUnit 18の復習 11回 Unit 19 比較について学習する(1) 12回 Unit 20 比較について学習する(2) 13回 Unit 21 仮定法について学習する。 14回 Review 3 Unit 19からとUnit 21の復習 15回 期末試験、試験内容の解説 期末試験およびその解説を行う。		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1) 豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的かつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	コミュニケーションに必要な文法事項のより深い理解ができる。		
指導方法	プレースメントテストによりクラス分けをする。 講義形式で行う。		
教科書・参考書	教科書: First Voyage: From Grammar to Reading (大学基本英文法 & リーディング) Keiko Kimura, Kenjiro Tagawa, Edward R. Howe 著 南雲堂 参考書: なし		
評価方法	期末試験100%		
受講上の注意	辞書または電子辞書を必ず持ってくること。		
授業外における学習方法	予習・復習を必ず実践し、毎日英語に触れるようにすること。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目種類: - 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -		

授業年度	2017	シラバスNo	CG114C
講義科目名称	英語ⅡS		
英文科目名称	English 2S		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	必修
担当教員	張 栄		

**開講意義目的** TOEIC(トーチック)とはTest of English for International Communicationの略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。世界約120ヶ国で実施され、グローバルスタンダードとして活用することができ、日本では、最も人気のある資格として注目されている。TOEIC のなかでは、ビジネスの場面で頻繁に使われている表現が多く含まれている。本講座はTOEIC に関する最新知識、学習法及びテスト対策などを説明し、日常やビジネスに関する英語

<b>授業計画</b>	Chapter 1	Basics for Part 1 and Part 5 * Vocabulary Quiz * Pre-part 1 * Part 1 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B)
	Chapter 2	Basics for Part 2 and Part 5 (1) * Vocabulary Quiz * Pre-part 2 * Part 2 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B)
	Chapter 3	Basics for Part 2 and Part 5 (2) * Vocabulary Quiz * Pre-part 2 * Part 2 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B)
	Chapter 4	Basics for Part 3 and Part 5 * Vocabulary Quiz * Pre-part 3 * Part 3 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B)
	Chapter 5	Basics for Part 4 and Part 5 * Vocabulary Quiz * Pre-part 4 * Part 4 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B)
	Chapter 6	Basics for Part 6 and Part 5 * Vocabulary Quiz * Pre-part 6 * Part 6 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B)
	Chapter 7	Basic for Part 7 and Part 5 * Vocabulary Quiz * Pre-part 7 * Part 7 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B) Mini-Test (1) と解説
	Chapter 8	Strategies for Part 1 and Part 5 * Vocabulary Quiz * Strategies for Part 1 * Part 1 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B)
	Chapter 9	Strategies for Part 2 and Part 5 * Vocabulary Quiz * Strategies for Part 2 * Part 2 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B)
	Chapter 10	Strategies for Part 3 and Part 5 * Vocabulary Quiz * Strategies for Part 3 * Part 3 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B)
	Chapter 11	Strategies for Part 4 and Part 5 * Vocabulary Quiz * Strategies for Part 4 * Part 4 * Part 5 (Exercise A) * Part 5 (Exercise B)
	Chapter 12	Strategies for Part 6 and Part 5

	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Vocabulary Quiz</li> <li>* Strategies for Part 6</li> <li>* Part 6</li> <li>* Part 5 (Exercise A)</li> <li>* Part 5 (Exercise B)</li> </ul> <p>Chapter 13</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Strategies for Part 7 and Part 5</li> <li>* Vocabulary Quiz</li> <li>* Strategies for Part 7</li> <li>* Part 7</li> <li>* Part 5 (Exercise A)</li> <li>* Part 5 (Exercise B)</li> </ul> <p>Mini-Test (2) と解説</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。
授業の到達目標	基本的な英語表現と文法知識を勉強し、英語による実務力、情報処理能力、表現力の取得を目標とする。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則、教科書に沿って解説・演習形式で進める。</li> <li>・英語力を身に付けてもらうために、学外学習の時間を確保してもらう。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書: Primary Practice for the TOEIC Listening and Reading Test          著者: Yumi Hasegawa; Hisayo herbert; Karl Hedberg; Ayako Kobayashi; Tomoko Tamura          出版社: 三修社</p> <p>参考書: 市販の関連書</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加態度(50%)</li> <li>・ミニテスト(50%)</li> </ul>
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の学習時間を確保できる。</li> <li>・20分以上遅れる場合は欠席とする。</li> <li>・辞書と教科書を必ず持参する。</li> </ul>
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らない単語・表現を繰り返して覚える。</li> </ul>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の魅力に触れ、英語に対する興味を維持してもらい、自律的な学習態度を養う;</li> <li>・自律的な学習を促すため、授業中では知的交流の場をつくるよう取り組む</li> </ul>

授業年度	2017	シラバスNo	CG303A
講義科目名称	TOEIC II		
英文科目名称	TOEIC 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	張 栄		
開講意義目的	TOEIC(トイーック)とはTest of English for International Communicationの略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。世界約120ヶ国で実施され、グローバルスタンダードとして活用することができ、日本では、最も人気のある資格として注目されている。TOEIC のなかでは、ビジネスの場面で頻繁に使われている表現が多く含まれている。本講座はTOEIC に関する最新知識、学習法及びテスト対策などを説明し、日常やビジネスに関する英語		
授業計画	1 Model Test (1) * Listening Section (Part 1 ~ Part 4)実践練習 2 Model Test (1) * Listening Section(Part 1 ~ Part 4)解釈 3 Model Test (1) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 実践練習 4 Model Test (1) * Reading Section (Part 5) 解釈 5 Model Test (1) * Reading Section (Part 6) 解釈 6 Model Test (1) * Reading Section (Part 7) 解釈 7 ミニテスト(1)の実施と解説 8 Model Test (2) * Listening Section (Part 1 ~ Part 4)実践練習 9 Model Test (2) * Listening Section(Part 1 ~ Part 4)解釈 10 Model Test (2) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 実践練習 11 Model Test (2) * Reading Section (Part 5) 解釈 12 Model Test (2) * Reading Section (Part 6) 解釈 13 Model Test (2) * Reading Section (Part 7) 解釈 14 ミニテスト(2)の実施と解説 15 ミニテスト(3)の実施と解説		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	TOEICを視野に入れつつも、さまざまな生活の場面とビジネスシチュエーションで使われる表現を理解し、パターンを覚えていき、TOEICの高得点を狙う。		
指導方法	・原則、模擬テストに沿って文法・表現の解説・実践運用の形で進める		
教科書・参考書	教科書 書名：公式TOEIC Listening & Reading 問題集1 出版社：国際ビジネスコミュニケーション協会 ISBN-10: 4906033490 参考書 ・市販のTOEICについての本		
評価方法	・授業参加態度(40%) ・ミニテスト試験(60%)		
受講上の注意	・授業以外の学習時間を確保できる。 ・20分以上遅れる場合は欠席とする。 ・辞書と教科書を必ず持参する。		
授業外における学習方法	・知らない単語、慣用表現は理屈抜きで覚えまくること。 ・英語力を身に付けるために、学外学習の時間を確保してもらう。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	・英語の魅力に触れ、英語に対する興味を維持してもらい、自律的な学習態度を養う； ・自律的な学習を促すため、授業中では知的交流の場をつくるよう取り組む		

授業年度	2017	シラバスNo	CG303B
講義科目名称	TOEIC II		
英文科目名称	TOEIC 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員	吉永 秀之		
開講意義目的	TOEICテスト受験対策指導を行う。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション Unit 1 TOEICテストとその勉強法について説明 人物の描写</p> <p>第2回 Unit 2 Unit 3 物の描写 人物の動作と状況の描写</p> <p>第3回 Challenge 1 Part 1 写真描写問題の復習</p> <p>第4回 Unit 4 Unit 5 Part 2における質問の種類 WH疑問文</p> <p>第5回 Unit 6 Unit 7 Yes/No疑問文, 選択疑問文 依頼・許可・提案・勧誘の文</p> <p>第6回 Unit 8 Challenge 2 付加疑問文と否定疑問文, 肯定文と否定文 Part 2応答問題の復習</p> <p>第7回 Unit 9 Society &amp; Life</p> <p>第8回 Unit 10 Workplace &amp; Business</p> <p>第9回 Unit 11 Personnel &amp; Training</p> <p>第10回 Challenge 3 Part 3会話問題の復習</p> <p>第11回 Unit 12 Telephone Messages</p> <p>第12回 Unit 13 Announcements</p> <p>第13回 Unit 14 Advertisements &amp; Talks</p> <p>第14回 Challenge 4 Part 4説明文問題の復習</p> <p>第15回 期末試験, 試験内容の解説 期末試験およびその解説を行う。</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。</p> <p>1)豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し, 倫理観, 社会性に富む技術者, デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え, 目標に向かい主体的, 継続的かつ協働して取り組むことができる。</p>		
授業の到達目標	<p>ビジネス英語のより深い理解ができる。 TOEICテストのスコアを向上させる。</p>		
指導方法	講義形式で行う。		
教科書・参考書	<p>教科書: TOEICテスト 公式プラクティス リスニング編 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 参考書: なし</p>		
評価方法	期末試験100%		
受講上の注意	辞書または電子辞書を持ってくること。		
授業外における学習方法	<p>予習・復習は必ず実践すること。 時間があれば, 徹底的にこのテキストを学習すること。</p>		
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目種類: - 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -</p>		

授業年度	2017	シラバスNo	CG304A
講義科目名称	中国語Ⅱ		
英文科目名称	Chinese 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員			
周 学業			

開講意義目的	<p>1、中国語の習得に通じて、中国文化の理解を深め、国際交流に役達できるように努める。</p> <p>2、中国語の発音方法と表記ルールを確実なトレーニングを行い、学習者の自主勉強ができるための土台を作る。</p> <p>3、基本文法の含んだ会話をトレーニングし、初歩の中国語のコミュニケーション能力を身につける。</p>		
授業計画	一回目	<p>復習と第六課(1)</p> <p>1、子音、母音復習。会話発音を復習。</p> <p>2、第六課「王先生の研究室で」</p> <p>(1)存在の意味を表す動詞「在」の使い方。 「有」の使い方の復習。</p> <p>(2)時間限定語の位置。</p> <p>(3)ポイントのまとめ</p> <p>(4)練習問題。</p> <p>(5)本文会話の暗誦トレーニング。</p>	
	二回目	<p>第六課(2)第五課の発表</p> <p>1、中国語Ⅰにおける文法復習。</p> <p>2、第六課本文会話の暗誦トレーニング。</p> <p>3、第五課口頭発表。</p>	
	三回目	<p>第七課(1)</p> <p>1、助詞「了」の使い方。限定語としての疑問詞。助動詞「想」。</p> <p>2、例文でポイントをまとめる。</p> <p>3、本文会話の暗誦トレーニング。</p>	
	四回目	<p>第七課(2)と第六課の発表</p> <p>1、練習問題。</p> <p>2、第六課口頭発表。</p>	
	五回目	<p>第八課(1)</p> <p>1、連動文。</p> <p>2、前置詞「在」(存在意味を表す「在」及び「有」との比較)</p> <p>3、例文でポイントを解説。</p>	
	六回目	<p>第八課(2)</p> <p>1、第八課本文会話の暗誦トレーニング。</p> <p>2、練習問題</p>	
	七回目	<p>第八課(3)と第七課の発表</p> <p>1、本文会話の暗誦トレーニング。</p> <p>2、第七課口頭発表。</p>	
	八回目	<p>復習2</p> <p>1、「鈴木君の一日」を翻訳する。</p> <p>2、講習した文法ポイントを復習する。(存在の「有」、完了の「了」。</p>	
	九回目	<p>第九課(1)</p> <p>1、助動詞「会」、「能」</p> <p>2、形容詞「可以」</p> <p>3、「会」「能」「可以」「行」などにおける「許可、許す」という意味についての異同。</p>	
	十回目	<p>第九課(2)と第八課の発表</p> <p>1、本文会話の暗誦トレーニング。</p> <p>2、練習問題。</p> <p>3、第八課口頭発表。</p>	
	十一回目	<p>第九課(3)</p> <p>1、本文会話の暗誦トレーニング。</p> <p>2、第九課口頭発表。</p>	
	十二回目	<p>第十課</p> <p>1、様態補語を引き出すための助詞「得」</p> <p>2、過去の経験を表す助詞。</p> <p>3、本文会話の発音練習。</p>	
	十三回目	<p>第十一課</p> <p>1、進行を表す「在」、「在」に関する使い方のまとめ。</p> <p>2、方向補語「来」「去」</p> <p>3、本文会話の発音練習。</p> <p>4、練習問題。</p>	
	十四回目	<p>第十二課</p>	

	<p>1、「是……的」型の表現に関する過去の経験の強調形。  2、結果補語。  3、動作の回数を表す語の位置。  4、本文会話の発音練習。  5、練習問題。</p> <p>十五回目 復習3  1、「阿部さんのメール」を翻訳する。  2、講習した文法ポイントのまとめ(動詞述語文、前置詞、「在」の三つの使い方、単文のパターン)  3、定期試験の復習を指導。</p>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	<p>本授業は以下の教育目標との対応科目である。  4)課題解決に向けて、協動的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる。(技能・表現)</p>
授業の到達目標	<p>学習完了する段階で、本場の中国語発音を把握でき、簡単な交流に支障のない表現を身に付き、新しい単語を入れ替えただけで、音声で交流できる。  辞書を借りながら、新聞記事程度の文章が読めるようになる。</p>
指導方法	<p>音声トレーニング、発表、テスト、試験。</p>
教科書・参考書	<p>教科書:『はじめまして中国語』白水社喜多山幸子・鄭幸枝著。  参考書:『中日辞書』(各社)</p>
評価方法	<p>授業参加・態度(50%)  定期試験(50%)</p>
受講上の注意	<p>積極的発表に参加することが大きく評価される。  オフィスアワー:授業終了後に教室にて質問を受け付ける。</p>
授業外における学習方法	<p>インターネットを利用して、中国語サイトを見ることもいい勉強となる。  中国語のキーワードで検索エンジンでも検索してみよう。</p>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<p>・能動的授業科目有無:なし  能動的授業科目種類:—  ・地域志向科目有無:なし  地域志向科目内容:—</p>

授業年度	2017	シラバスNo	CG305A
講義科目名称	韓国語Ⅱ		
英文科目名称	Korean 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	黄 昞峻		
開講意義目的	韓国発の多くの大衆文化が流入されている現在、若者の韓国語学習に対するニーズも高まりつつある。多くは文学的な側面よりはコミュニケーションツールとしての実用的な学習を求めていると考えられる。		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 韓国語2について、文字と発音、基本文型及び表現など、韓国語1の復習</p> <p>2回 敬語体の終結形叙述格助詞、補助詞等 (名詞)です・ですか、助詞「～は」について学ぶ</p> <p>3回 敬語体の終結語尾、目的格助詞等 動詞・形容詞+です・ますについて学ぶ</p> <p>4回 体言の否定形、指示・疑問代名詞、主格助詞 ～ではありません(か)、指示・疑問代名詞と助詞「～が」について学ぶ</p> <p>5回 親しみのある終結語尾 「(名詞)です」の親しみのある丁寧形と位置や場所を表す表現を学ぶ</p> <p>6回 敬語 「動詞の敬語体、敬語的な意味を持つ単語」について学ぶ</p> <p>7回 日常表現と韓国人の意識や習慣 日常生活表現からみえる韓国人の意識と習慣について学ぶ</p> <p>8回 中間まとめ 中間まとめと基本単語テスト</p> <p>9回 用言の親しみのある終結語尾① 用言(動詞、形容詞、存在詞、指定詞)の親しみのある丁寧形について学ぶ</p> <p>10回 用言の親しみのある終結語尾② 用言(動詞、形容詞、存在詞、指定詞)の親しみのある丁寧形の不規則を学ぶ</p> <p>11回 現在進行形と過去形 動作と状態を表す現在進行形と過去形についても学習する</p> <p>12回 数字 漢数字と固有数字について学ぶ</p> <p>13回 用言の否定形 用言(動詞・形容詞)の否定形について学ぶ</p> <p>14回 様々な表現 勧誘・意志・推量等の表現について学ぶ</p> <p>15回 総まとめ 期末試験の実施</p>		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 4)課題解決に向けて、協調的、自立的、継続的に行動するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることができる。(技能・表現)		
授業の到達目標	コミュニケーションツールとしての実用的な学習のため、日常生活によく使われる語彙や表現、文法を習得する。なお、会話練習を通じて自然な会話ができるようにする。		
指導方法	単なる表現や文法を学ぶだけでなく、その背景にある韓国の文化を理解しながら学習を行う。また、実際に使えるように積極的に会話練習を行う。		
教科書・参考書	教科書:なし(毎回プリント配布) 参考書:「ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典」小学館		
評価方法	授業態度・学習意欲(10点)、中間テスト(20点)、定期試験(70点)により総合的に評価する。(授業の1/3以上の欠席者は評価対象から外される。)		
受講上の注意	授業中の私語、筆記道具の不持参は減点される。 オフィスアワー:授業終了後に教室にて質問を受け付ける。		
授業外における学習方法	毎回の授業には例文や新しい単語を載せているので、事前に読み方や単語の意味を調べる。なお、毎回配布するプリントには課題が載っているので行うこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	・能動的授業科目有無:なし 能動的授業科目種類:一 ・地域志向科目有無:なし 地域志向科目内容:一		

授業年度	2017	シラバスNo	CG306A
講義科目名称	TOEIC I		
英文科目名称	TOEIC 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	吉永 秀之		
開講意義目的	TOEIC BridgeとTOEICの受験対策と実用的な英語力の向上。		
授業計画	1回 オリエンテーション、Unit 1 授業の進め方の説明 Eating Out be動詞について学習する。 2回 Unit 2 Travel 一般動詞について学習する。 3回 Unit 3 Amusement 品詞について学習する。 4回 Unit 4 Meetings 自動詞・他動詞について学習する。 5回 Unit 5 Personnel 受動態について学習する。 6回 Unit 6 Shopping 代名詞について学習する。 7回 Unit 7 Advertisement 教えられる名詞・教えられない名詞について学習する。 8回 Unit 8 Daily Life 数量詞について学習する。 9回 Unit 9 Office Work To不定詞について学習する。 10回 Unit 10 Business 動名詞について学習する。 11回 Unit 11 Traffic 助動詞について学習する。 12回 Unit 12 Finance and Banking 前置詞について学習する。 13回 Unit 13 Media 接続詞について学習する。 14回 Unit 14 Health and Welfare 比較について学習する。 15回 期末試験、試験内容の解説 期末試験およびその解説をおこなう。		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1)豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的かつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	TOEIC BridgeやTOEICの問題に慣れ親しみ、問題を解くことができるようになる。		
指導方法	講義形式で行う。		
教科書・参考書	教科書: Crossing the TOEIC Bridge(ブリッジから始めるTOEICテスト) Shiho Hayashi, Harumi Nishida, Brian Covert 著 朝日出版社 参考書: なし		
評価方法	期末試験100%		
受講上の注意	辞書または電子辞書を持参すること。		
授業外における学習方法	語学学習は、毎日の積み重ねが重要なので、必ず予習と復習を行うこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目種類: - 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -		

授業年度	2017	シラバスNo	CG306B
講義科目名称	TOEIC I		
英文科目名称	TOEIC 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	張 栄		

**開講意義目的** 一般企業でTOEICのスコアが重視される近年の傾向を受け、在学中にTOEICを受験して一定のスコア獲得を目指すケースが増えてきている。TOEIC Bridgeが2001年に開発され、大きな特徴として、使用されている英語がTOEICに比べて、日常的で身近であることがあげられる。本講座はTOEIC Bridgeの問題を利用して、基礎的、また実用的な英語を学び、すぐに役に立つ英語に慣れることを目標にする。また、学習者が興味を持って取り込み、英語の基礎を固めるとともに、将来のTOEICの受験の準備ができることを目

<b>授業計画</b>	1	Orientation ・What is Toeic Bridge? ・How to learn?
	2	Unit 1 ・Warm-up 1 ・Warm-up 2 ・Warm-up 3 ・Vocabulary ・Exercise(1) ・Exercise(2) ・Further Activity
	3	unit 2 ・Warm-up 1 ・Warm-up 2 ・Warm-up 3 ・Vocabulary ・Exercise(1) ・Exercise(2) ・Further Activity
	4	Unit 3 ・Warm-up 1 ・Warm-up 2 ・Warm-up 3 ・Vocabulary ・Exercise(1) ・Exercise(2) ・Further Activity
	5	Unit 4 ・Warm-up 1 ・Warm-up 2 ・Warm-up 3 ・Vocabulary ・Exercise(1) ・Exercise(2) ・Further Activity
	6	Unit 5 ・Warm-up 1 ・Warm-up 2 ・Warm-up 3 ・Vocabulary ・Exercise(1) ・Exercise(2) ・Further Activity
	7	Unit 6 ・Warm-up 1 ・Warm-up 2 ・Warm-up 3 ・Vocabulary ・Exercise(1) ・Exercise(2) ・Further Activity
	8	Unit 7 ・Warm-up 1 ・Warm-up 2 ・Warm-up 3 ・Vocabulary ・Exercise(1) ・Exercise(2) ・Further Activity
	9	Unit 8 ・Warm-up 1 ・Warm-up 2 ・Warm-up 3 ・Vocabulary ・Exercise(1) ・Exercise(2) ・Further Activity
	10	Unit 9

	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Warm-up 1</li> <li>•Warm-up 2</li> <li>•Warm-up 3</li> <li>•Vocabulary</li> <li>•Exercise(1)</li> <li>•Exercise(2)</li> <li>•Further Activity</li> </ul>
11	Unit 10 <ul style="list-style-type: none"> <li>•Warm-up 1</li> <li>•Warm-up 2</li> <li>•Warm-up 3</li> <li>•Vocabulary</li> <li>•Exercise(1)</li> <li>•Exercise(2)</li> <li>•Further Activity</li> </ul>
12	Unit 11 <ul style="list-style-type: none"> <li>•Warm-up 1</li> <li>•Warm-up 2</li> <li>•Warm-up 3</li> <li>•Vocabulary</li> <li>•Exercise(1)</li> <li>•Exercise(2)</li> <li>•Further Activity</li> </ul>
13	Unit 12 <ul style="list-style-type: none"> <li>•Warm-up 1</li> <li>•Warm-up 2</li> <li>•Warm-up 3</li> <li>•Vocabulary</li> <li>•Exercise(1)</li> <li>•Exercise(2)</li> <li>•Further Activity</li> </ul>
14	Unit 13 <ul style="list-style-type: none"> <li>•Warm-up 1</li> <li>•Warm-up 2</li> <li>•Warm-up 3</li> <li>•Vocabulary</li> <li>•Exercise(1)</li> <li>•Exercise(2)</li> <li>•Further Activity</li> </ul>
15	Unit 14 <ul style="list-style-type: none"> <li>•Warm-up 1</li> <li>•Warm-up 2</li> <li>•Warm-up 3</li> <li>•Vocabulary</li> <li>•Exercise(1)</li> <li>•Exercise(2)</li> <li>•Further Activity</li> </ul>
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。
授業の到達目標	基本的な英語表現と文法知識を勉強し、英語による実務力、情報処理能力、表現力の取得を目標とする。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>•原則、教科書に沿って解説・演習形式で進める。</li> <li>•英語力を身に付けてもらうために、学外学習の時間を確保してもらう。</li> </ul>
教科書・参考書	教科書： TOEIC Bridge: Training Tips 著者： Yoshiki Takayama 出版社： 南雲堂  参考書： 市販の関連書
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>•授業参加態度(70%)</li> <li>•ミニテスト(30%)</li> </ul>
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>•学外の学習時間を確保できる。</li> <li>•20分以上遅れる場合は欠席とする。</li> <li>•辞書と教科書を必ず持参する。</li> </ul>
授業外における学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>•知らない単語・表現を繰り返して覚える。</li> <li>•英文を毎日聞くようにする。</li> </ul>
能動的授業科目及び 地域志向科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>•英語の魅力に触れ、英語に対する興味を維持してもらい、自律的な学習態度を養う；</li> <li>•自律的な学習を促すため、授業中では知的交流の場をつくるよう取り組む</li> </ul>

授業年度	2017	シラバスNo	CG307A
講義科目名称	TOEIC I S		
英文科目名称	TOEIC 1S		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	吉永 秀之		
開講意義目的	TOEICの受験対策と実用的な英語力の向上。		
授業計画	1回 オリエンテーション、Pre-test 授業の進め方の説明 プレテストに挑戦する。 2回 Unit 1 オフィスで: 自動詞と他動詞 3回 Unit 2 買い物: 形容詞・副詞・前置詞 4回 Unit 3 食事: 名詞と冠詞 5回 Unit 4 観光: 進行形 6回 Unit 5 宣伝・広告: 完了形 7回 Unit 6 数字: 不定詞 8回 Unit 7 日常生活: 動名詞 9回 Unit 8 エンターテインメント: 関係代名詞と関係副詞 10回 Unit 9 交通: 複文 11回 Unit 10 職業: 受動態 12回 Unit 11 いろいろな国の英語1: 分詞 13回 Unit 12 いろいろな国の英語2: 比較表現 14回 Post-test ポストテストに挑戦する。 15回 期末試験、試験内容の解説 期末試験およびその解説を行う。		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1) 豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的かつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	TOEICの問題に慣れ親しみ、基本的な問題を確実に解くことができるようになる。		
指導方法	講義形式で行う。		
教科書・参考書	教科書: THE TOEIC TEST TRAINER TARGET 350 Masami Tanabe, Kumiko Yumoto, Geoffrey Tozer, George W. Pifer 著 CENGAGE Learning 参考書: なし		
評価方法	期末試験100%		
受講上の注意	辞書または電子辞書を持参すること。		
授業外における学習方法	語学学習は、毎日の積み重ねが重要なので、必ず予習と復習を行うこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目種類: - 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -		

授業年度	2017	シラバスNo	CG307B
講義科目名称	TOEIC I S		
英文科目名称	TOEIC 1S		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択
担当教員	張 栄		
開講意義目的	TOEIC(トイーック)とはTest of English for International Communicationの略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。世界約120ヶ国で実施され、グローバルスタンダードとして活用することができ、日本では、最も人気のある資格として注目されている。TOEIC のなかでは、ビジネスの場面で頻繁に使われている表現が多く含まれている。本講座はTOEIC に関する最新知識、学習法及びテスト対策などを説明し、日常やビジネスに関する英語		
授業計画	1 オリエンテーション * TOEICについて * 英語の学習方法について * 単位の取得について 2 Model Test (1) * Listening Section (Part 1 ~ Part 4)実践練習 3 Model Test (1) * Listening Section(Part 1 ~ Part 4)解釈 4 Model Test (1) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 実践練習 5 Model Test (1) * Reading Section (Part 5) 解釈 6 Model Test (1) * Reading Section(Part 6) 解釈 7 Model Test (1) * Reading Section(Part 7) 解釈 8 ミニテスト(1)の実施と解説 9 Model (2) * Listening Section (Part 1 ~ Part 4)実践練習 10 Model Test (2) * Listening Section(Part 1 ~ Part 4)解釈 11 Model Test (2) * Reading Section (Part 5 ~ Part 7) 実践練習 12 Model Test (2) * Reading Section (Part 5) 解釈 13 Model Test (2) * Reading Section (Part 6) 解釈 14 Model Test (2) * Reading Section (Part 7) 解釈 15 ミニテスト(2)の実施と解説		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的にかつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	TOEICを視野に入れつつも、さまざまな生活の場面とビジネスシチュエーションで使われる表現を理解し、パターンを覚えていき、TOEICの高得点を狙う。		
指導方法	・原則、模擬テストに沿って文法・表現の解説・実践運用の形で進める		
教科書・参考書	教科書 書名：TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編 出版社：一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 ISBN-13: 978-4906033485  参考書 ・市販のTOEICについての本		
評価方法	・授業参加態度(40%) ・ミニテスト(60%)		
受講上の注意	・授業以外の学習時間を確保できる。 ・20分以上遅れる場合は欠席とする。 ・辞書と教科書を必ず持参する。		
授業外における学習方法	・知らない単語、慣用表現は理屈抜きで覚えまくること。 ・英語力を身に付けるために、学外学習の時間を確保してもらおう。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	・英語の魅力に触れ、英語に対する興味を維持してもらい、自律的な学習態度を養う； ・自律的な学習を促すため、授業中では知的交流の場をつくるよう取り組む		

授業年度	2017	シラバスNo	CG501A
講義科目名称	英会話 I		
英文科目名称	English Conversation 1		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	マイケル バーグ		
開講意義目的	初級英会話の内容を中心として、話せる基礎文型を学び、日常に使われる表現を身に付けてもらう。		
授業計画	1回 General Introduction Ice breaker activity and understanding the syllabus 2回 Unit 1 Talking about your home town 3回 Unit 2 Talking about movies and giving opinions. 4回 Unit 3 Talking about art and giving opinions 5回 Unit 4 Talking about your family and describing them 6回 Unit 5 Talking about fears, and using related expressions 7回 Unit 6 Talking about commuting, and learning how to complain appropriately. 8回 Unit 8 and prepare for next week's presentation. Making excuses and discussing health. 9回 Presentations. Students perform an academic presentation in groups for the class. 10回 Unit 7 Telling personal stories, and describing close calls. 11回 Unit 12 Talking about making plans, parties and related expressions, and things that annoy them. 12回 Unit 15 Talking about lucky experiences and responding appropriately 13回 Unit 16 and prepare for presentation 2 next week Discussing dreams, the future and goals. 14回 Students perform presentation 2, and receive an outline for the final exam Students perform a play/conversation that they wrote and memorized for the class. 15回 Final exam Students write the final exam, followed by the review of it.		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1) 豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的かつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	英語の基本的な単語を用いて意思の疎通ができる。		
指導方法	リスニングドリル、パターンプラクティス、ロールプレーを中心に行う。		
教科書・参考書	教科書: Impact Conversation 1 - Kristen Sullivan & Todd Beuckens. Pearson/Longman 参考書: なし		
評価方法	テスト30% 授業態度30% 発表やレポート40%		
受講上の注意	本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業、情報)の教職に関する科目(教養に関する科目)の「外国語コミュニケーション」区分の選択必修科目に該当する。 無断欠席厳禁		
授業外における学習方法	予習・復習を必ず行うこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無: なし 2. 能動的授業科目種類: - 3. 地域志向科目有無: なし 4. 地域志向科目内容: -		

授業年度	2017	シラバスNo	CG502A
講義科目名称	英会話Ⅱ		
英文科目名称	English Conversation 2		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位	選択
担当教員	マイケル バーグ		
開講意義目的	初級英会話の内容を中心として、話せる基礎文型を学び、日常に使われる表現を身に付けてもらう。		
授業計画	1回 General Introduction Ice breaker activity:warm up game and welcoming activity 2回 Unit 8 Making excuses and talking about health 3回 Unit 9 Talking about relationships and consoling 4回 Unit 10 Talking about shopping and things to do in free time 5回 Unit 11 Talking about homesickness and adjusting to new situations 6回 Unit 13 Discussing national stereotypes and agreeing/disagreeing 7回 Unit 15 Discussing lucky experiences and emphathizing expressions 8回 Presentation preparation Students are put in groups and write/practice a play 9回 Presentations. Students preform presentations and reflect on them after 10回 Unit 16 Talking about goals and dreams for the future 11回 Unit 14 Discussing skill levels in general, and cooking 12回 Presentation Practice Students are put in groups and write/practice a play for the following week 13回 Presentations Students perform their plays and reflect on them afterwards 14回 Review We review the semester, and students receive a final exam outline 15回 Final exam Students write the final exam, followed by the review of it.		
教育目標との対応 (カリキュラムマップ対応)	本授業は以下の教育目標との対応科目である。 1) 豊かな人間性と社会人基礎力 豊かな人間性を有し、倫理観、社会性に富む技術者、デザイナーとしてコミュニケーション能力を備え、目標に向かい主体的、継続的かつ協働して取り組むことができる。		
授業の到達目標	英語の基本的な単語を用いて意思の疎通ができる。		
指導方法	リスニングドリル、パターンプラクティス、ロールプレーを中心に行う。		
教科書・参考書	教科書:Impact Conversation 1 - Kristen Sullivan & Todd Beuckens. Pearson/Longman 参考書:なし		
評価方法	テスト30% 授業態度30% 発表やレポート40%		
受講上の注意	本講義は、中学校一種免許状(数学)及び高等学校一種免許状(数学、工業、情報)の教職に関する科目(教養に関する科目)の「外国語コミュニケーション」区分の選択必修科目に該当する。 無断欠席厳禁		
授業外における学習方法	予習・復習を必ず行うこと。		
能動的授業科目及び 地域志向科目	1. 能動的授業科目有無:なし 2. 能動的授業科目種類:一 3. 地域志向科目有無:なし 4. 地域志向科目内容:一		